

岩手県文化財調査報告書第107集

平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

—— 第50次発掘調査概報 ——



平成12年3月

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第107集

平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

—— 第50次発掘調査概報 ——

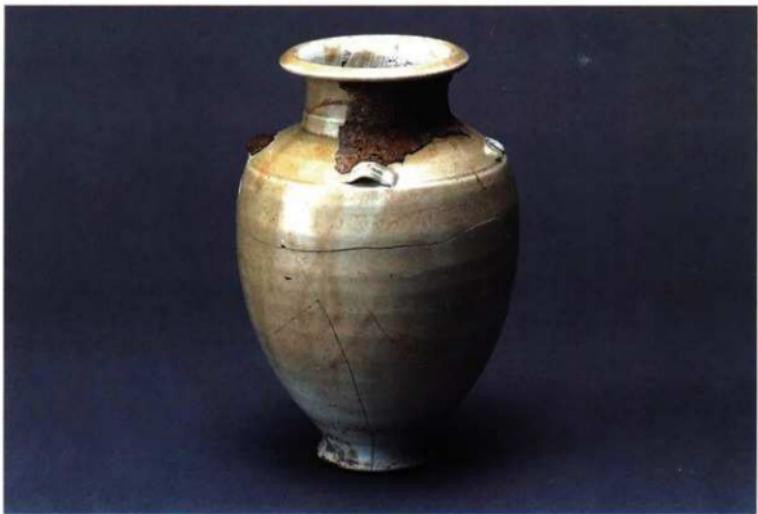
平成12年3月

岩手県教育委員会





柳之御所遺跡50次調査区



白磁四耳壺



印章（背面）



印章（印面）

序　　言

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、12世紀北方の王者としてこの地で繁栄を誇った奥州藤原氏の遺した遺跡であり、古から先人先学がこの地を訪れ往時の榮華に思いを馳せた地であります。

本遺跡は一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設にともない、昭和63年より財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会により事業予定地内の緊急発掘調査が実施されました。調査の進行にともない、大規模な掘立柱建物跡・圍池跡・井戸跡・屏跡が発見され、また夥しい量のかわらけ・墨画資料・各種木製品など質とともに内容豊かな遺物が出土しました。これらの遺構・遺物は、12世紀後半、特に奥州藤原氏三代秀衡との関連が強く、本遺跡が『吾妻鏡』にみられる『平泉館』であるとの考えも多くの歴史家から指摘されているところであります。

このような経過のなかで、遺跡保存と治水事業の共存を図るという埋蔵文化財に対する建設省のひとかたならぬご理解により、平成5年には永久に保存されることとなりました。また、平成9年3月には『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定され、古代末から中世への日本歴史の転換期の様相を遺す重要な遺跡として周知されました。

本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、この遺跡を後世に伝えるとともに広く活用されることを願い、将来的には史跡公園として整備し、平泉文化を全国に発信してまいりたいと考え、平成10年度より、本格的な発掘調査を実施しているところであります。

本年度は、第1次3ヵ年計画の2年次に相当し白磁四耳壺や銅印など、あらためて柳之御所遺跡の重要性を再認識させる遺物の発見もありました。特に「12世紀」と時代の特定できる印の出土は本邦初であり、我が国の印章史の空白期を埋める大変貴重な資料になるとともに、地名の特定も含め今後の奥州藤原氏研究に一石を投ずるものと思われます。

本報告書は、平成11年度第50次調査発掘成果をまとめたものであり、本書がいかばかりなりとも文化財保護と考古学研究発展の一助となれば幸いと存じます。

調査の実施と報告書作成にあたり、ご指導ご援助賜りました、柳之御所遺跡調査研究指導委員会の諸先生方、文化庁記念物課、財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会をはじめ建設省東北建設局岩手工事務所等関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

平成12年3月

岩手県教育委員会

教育長 大隅 英喜

例　　言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成11年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る調査結果の概要報告である。本事業は文化庁の国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会事務局文化課が主体となり(財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。

岩手県教育委員会文化課

財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

文化課長 伊藤 学司

所長 佐藤 基

主幹 兼課長補佐 高橋 信雄

調査第一課長 小田野哲憲

主任文化財主査 佐々木 勝

文化財専門調査員 羽柴 直人(担当)

文化財主査 斎藤 邦雄(担当)

野外調査、室内整理は主に斎藤邦雄と羽柴直人が担当し、本書の編集も両名で行った。室内整理作業では、小野寺公子、庄子とし子、矢崎木綿子、丸山聰子、大内智弘、吉田泰代、山田実の協力を得た。

- 3 遺構の呼称は昭和63年度に財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査の方法に準拠し、下記の略称を使用した。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。

S A : 堀・柱列 S B : 据立柱建物 S C : 道路状遺構 S D : 溝・堀 S E : 井戸・井戸状遺構

S G : 團池 S K : 土坑・柱穴の一部 S X : その他 S I : 穴式住居 P P : 柱穴

例: 50SB 1 第50次調査の第1号据立柱建物跡

- 4 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて1/3を基本にしておりスケールを図中に示した。遺構遺物写真については縮尺は不定である。

- 5 調査成果の一部については、柳之御所遺跡調査研究指導委員会、岩手考古学会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。

- 6 第V章「岩手県平泉町柳之御所遺跡出土銅印」については、国立歴史民俗博物館の平川南氏に御寄稿を頂いた。

- 7 遺構の理土観察、遺物の色調観察は、「新版標準土色帖」を参考にした。

- 8 後述する「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」の委員の方々をはじめとして、下記の方々・機関のご協力を得た。(順不同: 敬称略)

国立歴史民俗博物館 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 岩手県立博物館 平泉町教育委員会 平泉町文化財センター 柳之御所資料館 福島大学 (財)水沢市埋蔵文化財調査センター 雉倉考古学研究所 平川南 永嶋正春 玉井哲雄 黒崎直 小泉和子 大石直正 冈田清一 前川佳代 菅野文夫 横口定志 菅野成寛 大平聰 伊藤博幸 本沢慎輔 及川司 八重樋忠郎 菅原計二 鈴木江利子 金丸義一

- 9 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。今回の報告に関する総括的な報告は、本事業の第1次3ヵ年計画が終了した時点に行う予定である。

目 次

序言

例言

| | | | |
|--------------|----|------------------|----|
| 第Ⅰ章　はじめに | 9 | 4　中国産陶磁器 | 43 |
| 1　調査経過 | 9 | 5　瓦 | 46 |
| 2　本年度の調査について | 9 | 6　木製品 | 53 |
| 第Ⅱ章　検出遺構 | 14 | 7　土製品 | 56 |
| 1　建物 | 14 | 8　石製品 | 56 |
| 2　井戸状遺構 | 24 | 9　金属製品 | 56 |
| 3　かわらけ集中 | 27 | 10　近世陶磁器 | 58 |
| 4　土坑 | 28 | 第Ⅳ章　まとめ | 69 |
| 5　堀 | 28 | 1　遺構 | 69 |
| 6　溝 | 28 | 2　遺物 | 70 |
| 第Ⅲ章　出土遺物 | 30 | 第Ⅴ章　付編 | 71 |
| 1　かわらけ | 30 | 岩手県平泉町柳之御所遺跡出土銅印 | 71 |
| 2　国産陶器 | 35 | (国立歴史民俗博物館 平川南) | |
| 3　古代の須恵器 | 37 | 報告書抄録 | |

[図版目次]

| | | | | | |
|------|--------------------------------------------|----|--------|---------------------------------|-----|
| 第1図 | 50SB1、50SB2 | 13 | 写真図版 9 | 50SA1~5 | 91 |
| 第2図 | 50SB3 | 14 | 写真図版10 | 50SA5~8 | 92 |
| 第3図 | 50SB4 | 15 | 写真図版11 | 50SA9~13、50SD1、2 | 93 |
| 第4図 | 50SB5 | 16 | 写真図版12 | 50SD3~8、42SD1 | 94 |
| 第5図 | 50SB6 | 17 | 写真図版13 | 50SD8、37SD9、42SD12 | 95 |
| 第6図 | 50SB7~9 | 18 | 写真図版14 | かわらけ① (1~35) | 96 |
| 第7図 | 50SB10~13 | 19 | 写真図版15 | かわらけ② (36~71) | 97 |
| 第8図 | 50SB14、15 | 20 | 写真図版16 | かわらけ③ (72~111) | 98 |
| 第9図 | 50SB16~19 | 21 | 写真図版17 | かわらけ④ (112~149) | 99 |
| 第10図 | 50SB20~22 | 22 | 写真図版18 | かわらけ⑤ (150~188) | 100 |
| 第11図 | 50SB23~28 | 23 | 写真図版19 | かわらけ⑥ (189~226) | 101 |
| 第12図 | 50柱剣I~8 | 24 | 写真図版20 | 国産陶器① (1001~1033) | 102 |
| 第13図 | 37SE2、かわらけ集中 (50SE1)、50SE2 | 25 | 写真図版21 | 国産陶器② (1034~1070) | 103 |
| 第14図 | 50SE3 | 26 | 写真図版22 | 国産陶器③ (1071~1099) | 104 |
| 第15図 | 50SK1~3 | 27 | 写真図版23 | 国産陶器④ (1100~1131) | 105 |
| 第16図 | 50SD1~8、42SD1、12、37SD9 | 29 | 写真図版24 | 国産陶器⑤ (1132~1171) | 106 |
| 第17図 | かわらけ① (1~12) | 30 | 写真図版25 | 国産陶器⑥・須恵器 (1172~1205) | 107 |
| 第18図 | かわらけ② (13~62) | 31 | 写真図版26 | 中国産陶磁器① (白磁四耳壺2008) | 108 |
| 第19図 | かわらけ③ (63~93) | 32 | 写真図版27 | 中国産陶磁器② (2001~2007, 2009~2018) | 109 |
| 第20図 | かわらけ④ (94~141) | 33 | 写真図版28 | 中国産陶磁器③ (2019~2035) | 110 |
| 第21図 | かわらけ⑤ (142~193) | 34 | 写真図版29 | 瓦 (3001~3008) | 111 |
| 第22図 | かわらけ⑥ (194~226) | 35 | 写真図版30 | 木製品① (4001~4008) | 112 |
| 第23図 | 常滑産陶器① (1001~1031) | 36 | 写真図版31 | 木製品② (4009~4023) | 113 |
| 第24図 | 常滑産陶器② (1032~1054) | 37 | 写真図版32 | 木製品③ (4024~4028) | 114 |
| 第25図 | 渥美産陶器① (1055~1081) | 38 | 写真図版33 | 木製品④ (4029~4032) | 115 |
| 第26図 | 渥美産陶器② (1082~1104) | 39 | 写真図版34 | 木製品⑤ (4033~4049) | 116 |
| 第27図 | 渥美産陶器③ (1105~1127) | 40 | 写真図版35 | 木製品⑥ (4050~4061) | 117 |
| 第28図 | 渥美産陶器④ (1128~1155) | 41 | 写真図版36 | 木製品⑦ (4062~4073) | 118 |
| 第29図 | 萩窯陶器① (II156~180)、笠置系陶器 (II181~187) | 42 | 写真図版37 | 木製品⑧ (4074~4091) | 119 |
| 第30図 | 萩窯陶器② (II188)、笠置系陶器 (II189)、須恵器 (II90~125) | 43 | 写真図版38 | 木製品⑨ (4092~4098) | 120 |
| 第31図 | 中国産陶磁器① (2001~2019) | 45 | 写真図版39 | 上置石盤・近世磁器 (5001~501, 6001~6007) | 121 |
| 第32図 | 中国産陶磁器② (2020~2036) | 46 | 写真図版40 | 金属製品 (5013, 5012, 5009) | 122 |
| 第33図 | 瓦 (3001~3008) | 47 | | | |
| 第34図 | 木製品① (4001~4008) | 48 | | | |
| 第35図 | 木製品② (4009~4023) | 49 | | | |
| 第36図 | 木製品③ (4024~4031) | 50 | | | |
| 第37図 | 木製品④ (4032~4050) | 51 | | | |
| 第38図 | 木製品⑤ (4051~4071) | 52 | | | |
| 第39図 | 木製品⑥ (4072~4091) | 53 | | | |
| 第40図 | 木製品⑦ (4092~4095) | 54 | | | |
| 第41図 | 木製品⑧ (4096~4098) | 55 | | | |
| 第42図 | 土製品、石製品、金属製品① (5001~5012) | 56 | | | |
| 第43図 | 金属製品② (印加 5013) | 57 | | | |
| 第44図 | 近世陶磁器 (6001~6007) | 58 | | | |

[写真図版目次]

| | | |
|--------|-------------------|----|
| 写真図版 1 | 航空写真 | 83 |
| 写真図版 2 | 50SB1、SB2 | 84 |
| 写真図版 3 | 50SB3 柱穴断面 | 85 |
| 写真図版 4 | 50SE1、50SE2、37SE2 | 86 |
| 写真図版 5 | 50SE3① | 87 |
| 写真図版 6 | 50SE3② | 88 |
| 写真図版 7 | 50SE3③ | 89 |
| 写真図版 8 | 50SK1~3、50SA1 | 90 |

[表目次]

| | |
|--------------------------|----|
| 37SE2 遺物出土レベル | 26 |
| かわらけ集中 (50SE1) 遺物出土レベル | 26 |
| 50SE3 遺物出土レベル | 27 |
| 柳之御所遭跡50次かわらけ観察表① | 59 |
| 柳之御所遭跡50次かわらけ観察表② | 60 |
| 柳之御所遭跡50次かわらけ観察表③ | 61 |
| 柳之御所遭跡50次かわらけ観察表④ | 62 |
| 柳之御所遭跡50次中国産陶器観察表① | 62 |
| 柳之御所遭跡50次中国産陶器観察表② | 63 |
| 柳之御所遭跡50次中国産陶器観察表③ | 64 |
| 柳之御所遭跡50次中国産陶器観察表④ | 65 |
| 柳之御所遭跡50次須恵器観察表 | 65 |
| 柳之御所遭跡50次中国産陶磁器観察表 | 66 |
| 柳之御所遭跡50次瓦観察表 | 66 |
| 柳之御所遭跡50次木製品観察表① | 66 |
| 柳之御所遭跡50次木製品観察表② | 67 |
| 柳之御所遭跡50次木製品観察表③ | 68 |
| 柳之御所遭跡50次土製品、石製品、金属製品観察表 | 68 |
| 柳之御所遭跡50次近世陶磁器観察表 | 68 |

第一章 はじめに

1. 調査経過

柳之御所遺跡の発掘調査は、藤島亥治郎東京大学名誉教授・故板橋源岩手大学名誉教授らから構成される平泉遺跡調査会によって、昭和44年度から開始され昭和47年度に間に都合10次の調査が行われた。しかし、調査範囲が小規模であったこと、建物跡検出をその主目的としていたため遺跡全体の構造究明には限界があった。さらに昭和57～59年度には、一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設にともなう事前の範囲確認調査が平泉町教育委員会によって実施され、建物跡や塀跡の一部が検出された。

昭和63年度から建設省の委託を受け開始された北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設計画に係る事前の緊急発掘調査が財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターと平泉町教育委員会により実施された。その結果、大規模な塀に囲まれた建物群・圓池跡・井戸跡や塀の外側に広がる区画溝をもつ建物群、さらにおびただしい量のかわらけ・国産陶磁器や中国産磁器の優品・多様な木製品や金属製品などの出土品は、研究者のみならず多くの人達の注目を集めた。遺跡の年代も、出土遺物などから平安時代末期12世紀第3四半期を中心とする時期で、藤原秀衡を中心とした奥州平泉文化最盛期に當まれたことが明らかとなつた。

このような経験のなかで、岩手県教育委員会では文化庁の指導を受けて遺跡の範囲・中心地域推定の資料を得るために平成4・5年度にわたり範囲確認調査を実施した。これらの緊急調査の発掘成果と範囲確認調査の結果を踏まえ、「平泉遺跡群発掘調査指導委員会」は、平成5年度に開催された委員会で柳之御所跡が「吾妻鏡」の記述にある『平泉館』との見解を示すとともに保存が必要との意見を出した。平成5年に、建設省では遺跡保存と治水事業の両立という観点から事業計画の変更を行ない遺跡を保存するという判断を下した。さらに、平泉町は国に対して史跡指定を申請し、これを受けて国の文化財保護審議委員会は平成7年に文部大臣に史跡指定の答申を行ない、平成9年には国指定史跡『柳之御所遺跡』として官報告示された。

平成10年度から、岩手県教育委員会では現地平泉町に柳之御所遺跡調査事務所を開設し史跡整備のための資料を得る目的から本格的な調査を継続的に実施している。

2. 本年度の調査について

(1) 柳之御所遺跡調査研究指導委員会

当教育委員会では、柳之御所遺跡調査研究指導委員会の指導にもとづいて、柳之御所遺跡の発掘調査と調査研究、史跡整備等を計画的・継続的に実施している。

① 平成11年度第1回柳之御所遺跡調査研究指導委員会

平成11年5月10日（月） 岩手県水産会館

・柳之御所遺跡第50次発掘調査計画について

・平泉遺跡群関連発掘調査計画について

② 平成11年度第2回柳之御所遺跡調査研究指導委員会

平成11年10月7日（木） 平泉町役場 柳之御所遺跡発掘調査現場 平泉遺跡群発掘調査現場

・柳之御所遺跡第50次発掘調査成果について

・平泉遺跡群関連発掘調査成果について

・現場視察～柳之御所遺跡（文化課） 志羅山遺跡（平泉町教育委員会）

泉屋遺跡（財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）

柳之御所遺跡調査研究指導委員会

| 氏名 | 役職 | 専門分野 | 備考 |
|-------|-----------------------|----------|----------|
| 入間田宣夫 | 東北大学東北アジア研究センター教授 | 古代・中世史 | |
| 牛川 善幸 | 長岡造形大学教授 | 造園学 | |
| 岡田 茂弘 | 東北歴史博物館館長 | 考古学(古代) | |
| 小野 正敏 | 国立歴史民俗博物館助教授 | 考古学(陶磁器) | |
| 河原 純之 | 千葉大学教授 | 考古学(中世) | 委員長 |
| 工藤 雅樹 | 福島大学教授 | 考古学・古代史 | 副委員長 |
| 斎藤 利男 | 弘前大学教授 | 中世史学 | |
| 佐藤 信 | 東京大学教授 | 古代史学 | |
| 田辺 征夫 | 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長 | 考古学(歴史) | |
| 村田 健一 | 奈良国立文化財研究所建造物研究室主任研究官 | 古代建築 | 平成11年度就任 |

(2) 調査の目的と調査の方法

平成11年度は柳之御所遺跡発掘調査第1次3ヵ年計画の2年次にあたり、堀内部地区の中心建物群の東側～北東側の地区を主要な発掘調査対象区として実施することにした。具体的には勝岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが平成元年に行った第23次調査区と隣接した場所であり、また当教育委員会文化課が平成4年、平成5年に行った第37次・第42次の範囲内容確認調査の調査区と重複する部分である。今次調査は以下を主要な課題として行った。

- ① 池跡及び中心建物群を含む23S A 1塙跡の追跡。
- ② 4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。
- ③ 42SD 1大溝とされていた遺構の時期及び伸展状況の追跡。
- ④ 37次・42次の内容確認調査の時に確認されていた溝・塙類の時期及び伸展状況の把握。

発掘調査にあたって昭和63年度に勝岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行った緊急調査時に設定したグリッドに従った。グリッドの呼称についても同様である。調査が今後も継続されることから再度基準点の設置を行った(基準点1 X座標: -111,970.000 Y座標: 25,030.000 グリッド杭70-70)。基本的には遺構の内容把握を主目的にしており、遺構の所属時期の確定・遺構の性格等を把握することであり、

検出したすべてについて最終的な段階まで精査を行っておらず必要最低限の段階で調査を終了しているものもある。なお、半蔵あるいは完掘した遺構については砂で埋め戻し、さらに砂と土で遺構面を覆い可能なかぎり旧状に復旧し保存を計っている。

(3) 調査要項

柳之御所遺跡発掘調査年次経過

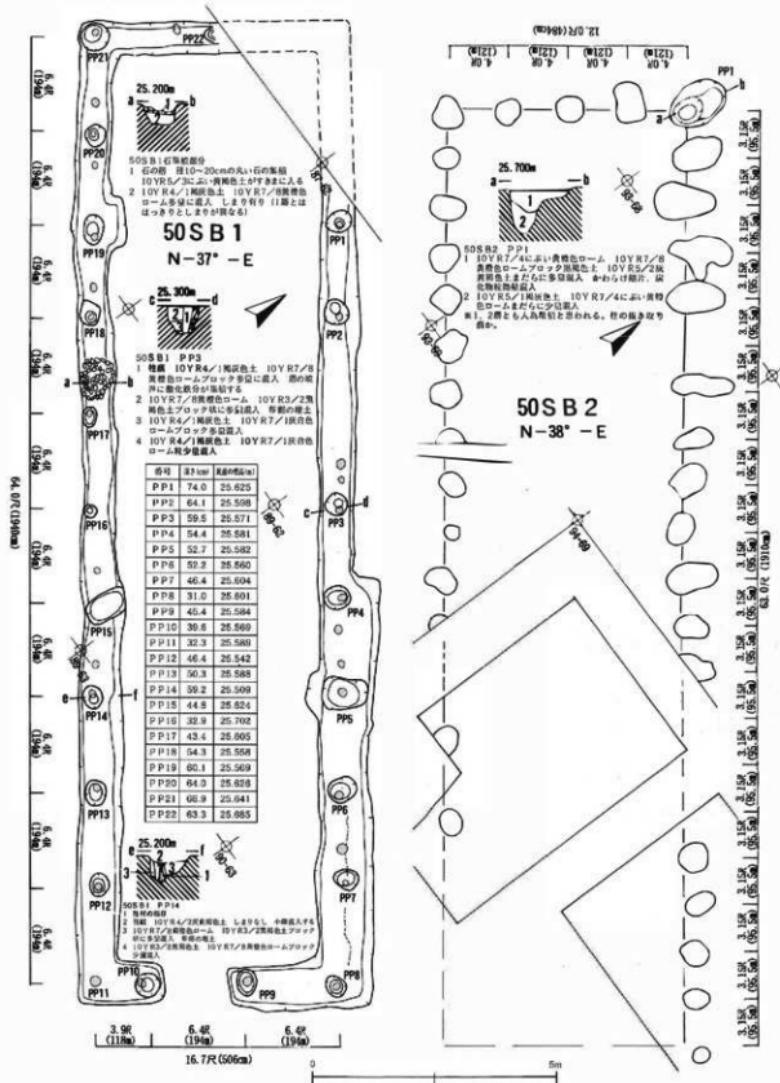
| 年 次 | | 調査次数 | 調査面積 | 調査期間 | 予算(千円) | 備考 |
|-------------------|--------|------|---------------------|--------------|--------|------|
| 第一 次 計 画 | 平成10年度 | 第49次 | 500m ² | 5月15日～10月31日 | 18,211 | 国庫補助 |
| | 平成11年度 | 第50次 | 1,800m ² | 5月13日～10月31日 | 32,236 | 国庫補助 |
| | 平成12年度 | 第52次 | 2,500m ² | 5月上旬調査開始 | | |
| 第二 次 計 画 | 平成13年度 | | 3,100m ² | | | |
| | 平成14年度 | | 3,100m ² | | | |
| | 平成15年度 | | 3,100m ² | | | |

※平成11年度までは実績、12年度以降は予定

柳之御所遺跡発掘調査年次別調査概要

| 年 次 | | 調査次数 | 調査成果(調査予定)概要 |
|----------------------------------|--------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一 次 3 カ 年 計 画 | 平成10年度 | 第49次 | <ul style="list-style-type: none"> ・堀内部地区の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1(28SB4と一部重複)の東側地区の解明。 ・23次調査次の23SB2 建物跡の延長確認。 ・23SA3 柱列跡、23SA1 堀跡の延長確認。 ・48SB1 建物跡の延長確認と所属時期の検討。 ・北上川に向かい形成されている小規模谷地形の解明。 |
| | 平成11年度 | 第50次 | <ul style="list-style-type: none"> ・池跡及び中心建物群を含む23SA1堀跡の追跡。 ・4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。 ・42SD1大溝とされていた遺構の時期及び伸展状況の追跡。 ・37次、42次の内容確認調査の時期に確認されていた溝・堀類の時期及び伸展状況の把握。 |

| 年 次 | | 調査次数 | 調査成 果(調査予定)概要 |
|----------------------------------|--------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一 次 3 カ 年 計 画 | 平成12年度 | 第52次 | <ul style="list-style-type: none"> ・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。 ・祭祀遺構周辺域の解明。 ・無量光院との対峙地域の解明。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 |
| | 平成13年度 | | <ul style="list-style-type: none"> ・未調査区域であり、中心建物群の北側地区の解明。 ・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 |
| | 平成14年度 | | <ul style="list-style-type: none"> ・未調査区域であり、中心建物群の北側地区の解明。 ・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 ・現存する微高地状の高まりの性格把握。 ・北上川縁地域の状況把握。 |
| 第二 次 3 カ 年 計 画 | 平成15年度 | | <ul style="list-style-type: none"> ・未調査区域であり、中心建物群の北側地区の解明。 ・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 ・現存する微高地状の高まりの性格把握。 ・北上川縁地域の状況把握。 ・堀外部地区との連絡施設(道路・橋等)の確認。 |



第1図 50SB1、50SB2

第II章 検出遺構

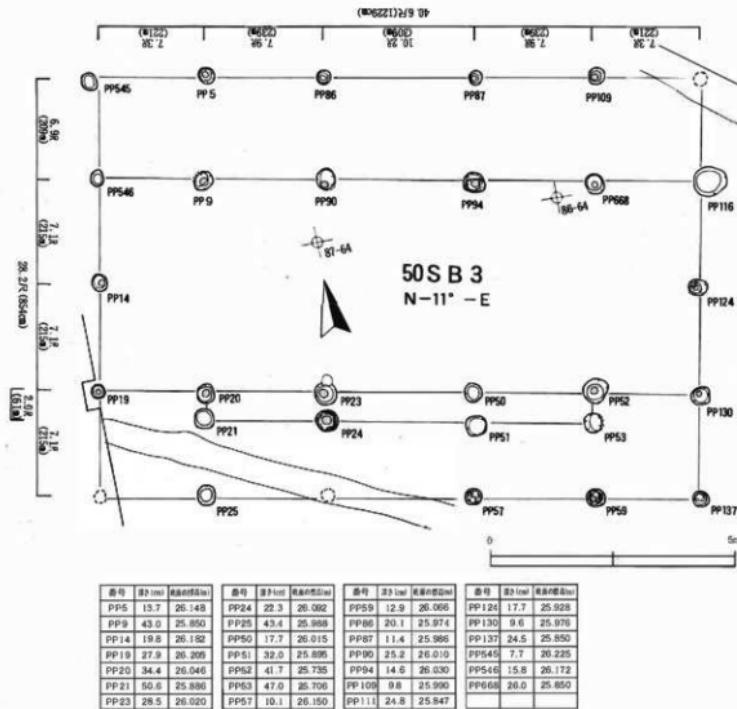
50次調査では、建物、井戸、かわらけ集中、土坑、溝、塹の遺構が検出された。名称を付し図示した遺構の他に、検出したが未調査のため、名称を付していない遺構も存在する。検出した遺構は12世紀のもの、近世のもの、また時期不明のものがある。近代以降のものは「攪乱」として扱った。

12世紀の遺構は塹、建物などの重複から3時期の変遷に分類できる。古い順からⅠ期→Ⅱ期→Ⅲ期とする。Ⅲ期の遺構は新段階と古段階の2つに分けられる。それぞれⅢ期新、Ⅲ期古と称する。新、古どちらに所属するか分からないもの、両方にまたがっていると判断される遺構は単にⅢ期と称する。

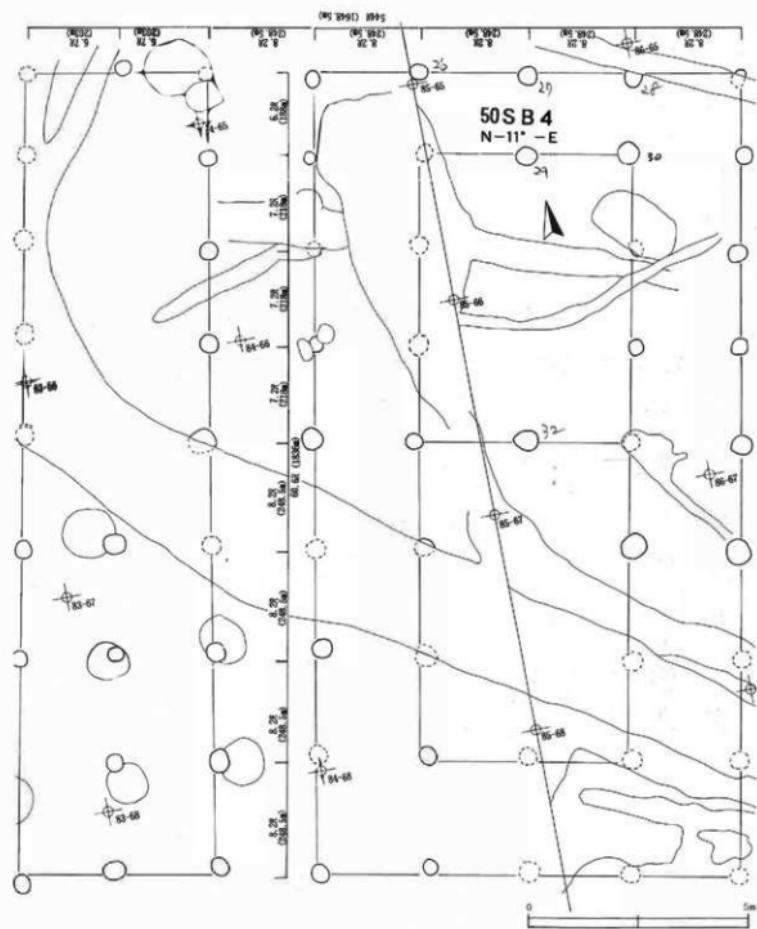
近世の遺構は主に「平泉御蔵場」に関連する遺構と考えられる。御蔵場とは年貢米、賈米を集積、出荷する施設である。

1. 建物

28棟を図示した。他に柱列を8条図示している。いずれも掘立柱建物である。



第2図 50S B 3



第3図 50SB4

12世紀の所属と推測される獨立柱建物は12棟ある。柱穴や堀などの切り合い関係、建物の軸方向からそれぞれの所属時期を推測する。

これらの建物はプランが重複するが、直接柱穴どうしが切合い関係があるものは少ない。直接切り合いがあるのは、50SB3(新)と50SB6(古)、50SB7(新)と50SB10(古)である。この前後関係は確定なものであるが、他の時期想定には推測も混じる。

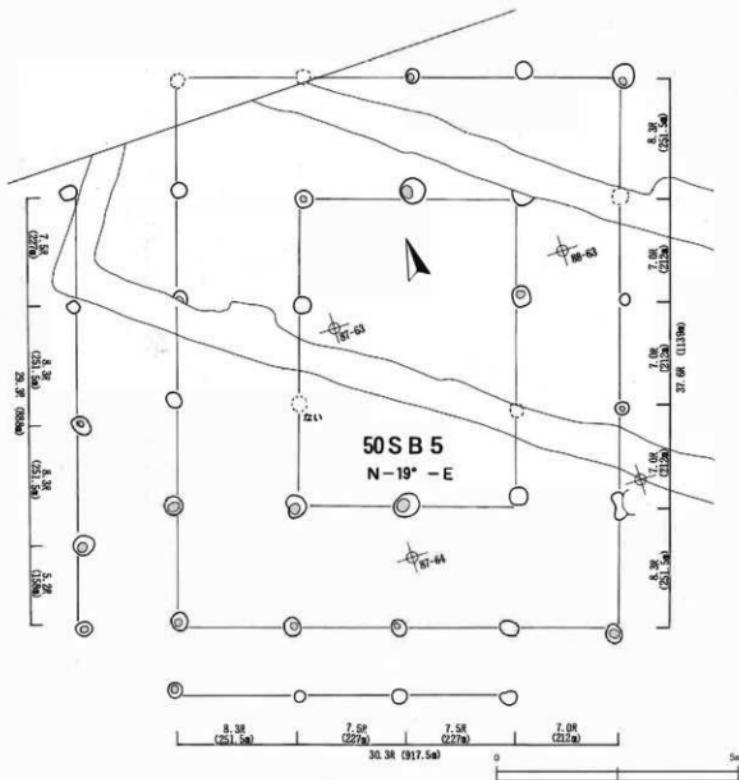
12世紀Ⅰ期・・・50SB6 50SB10 50SB19

12世紀Ⅱ期・・・50SB5 50SB8 50SB9

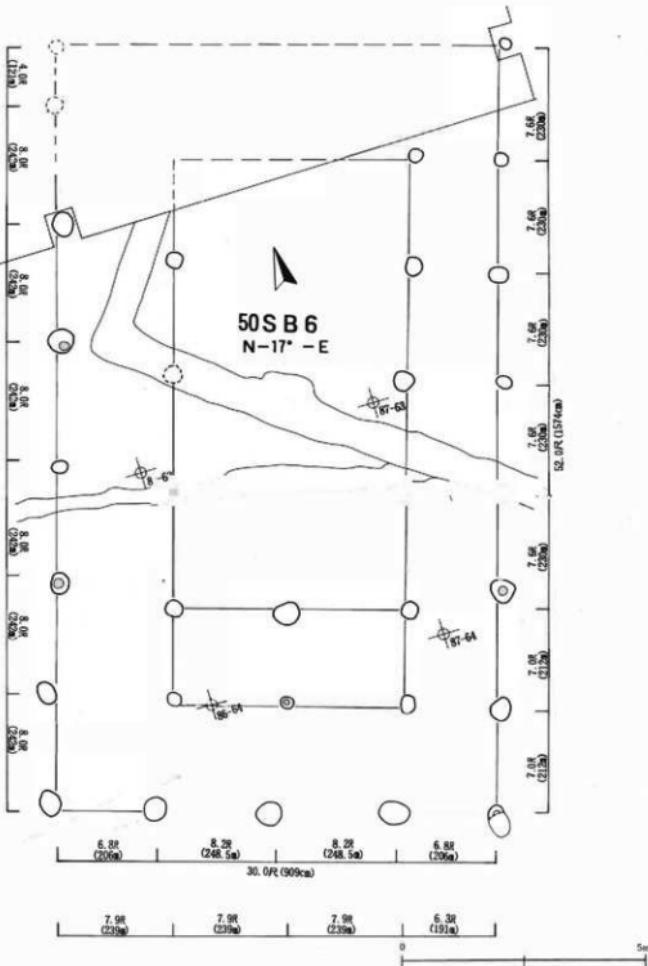
12世紀Ⅲ期古・・・50SB4 50SB17

12世紀Ⅲ期新・・・50SB3 50SB16

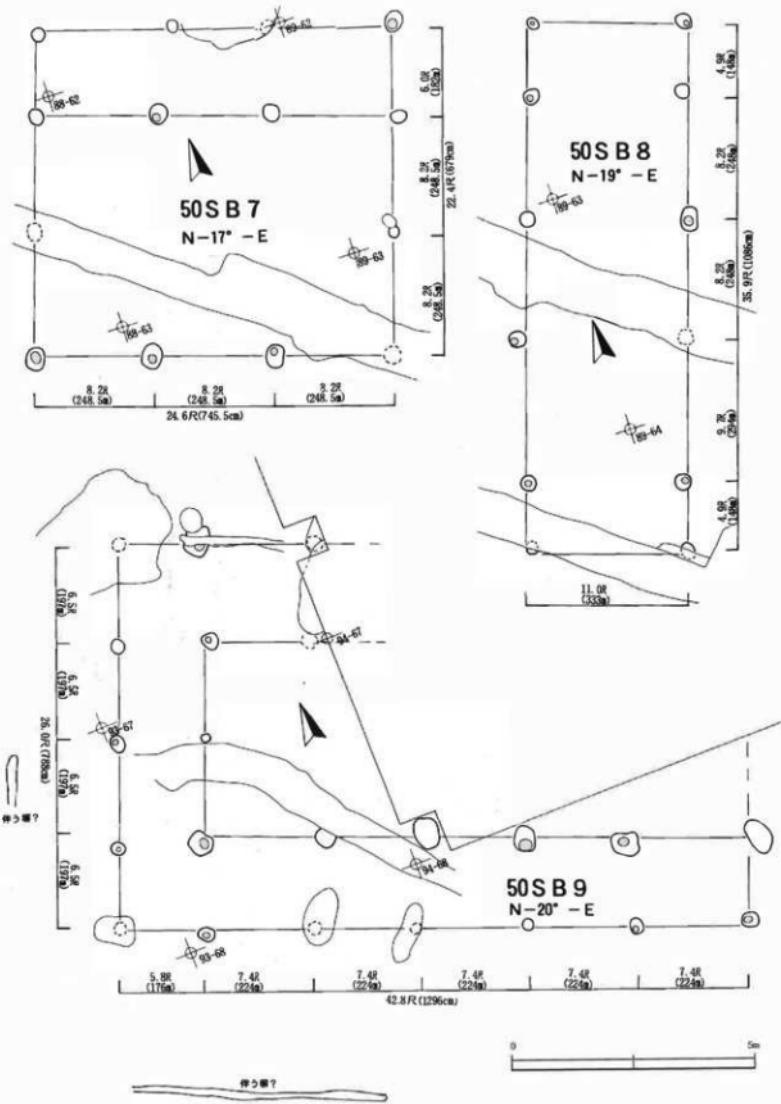
12世紀Ⅲ期・・・50SB7 50SB18 (Ⅲ期だが古、新どちらの所属か不明)



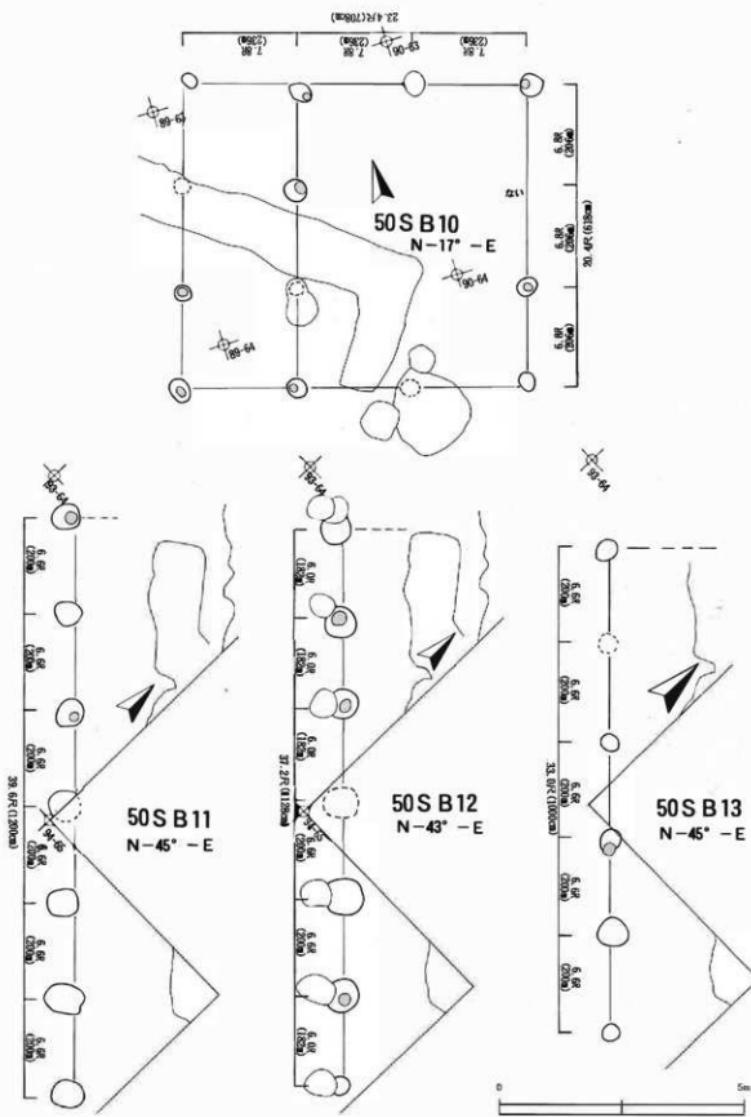
第4図 50SB5



第5回 50SB6



第6図 50S B 7~9

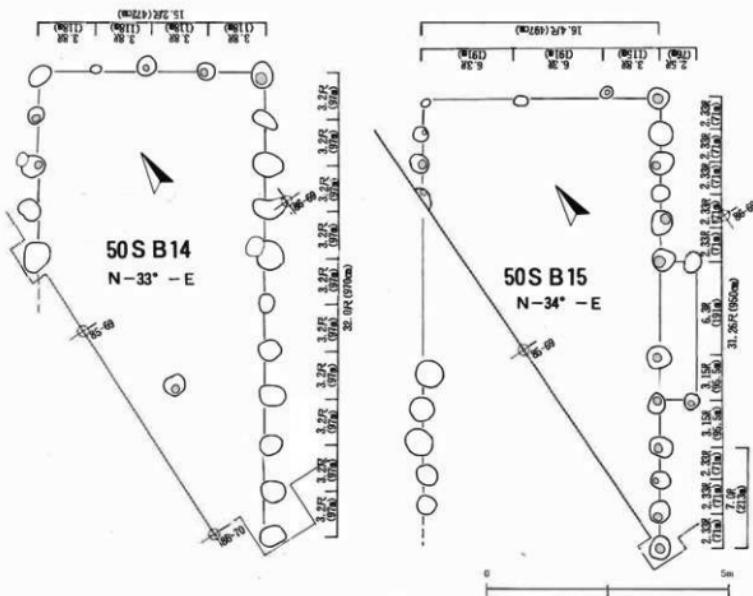


第7図 50SB10~13

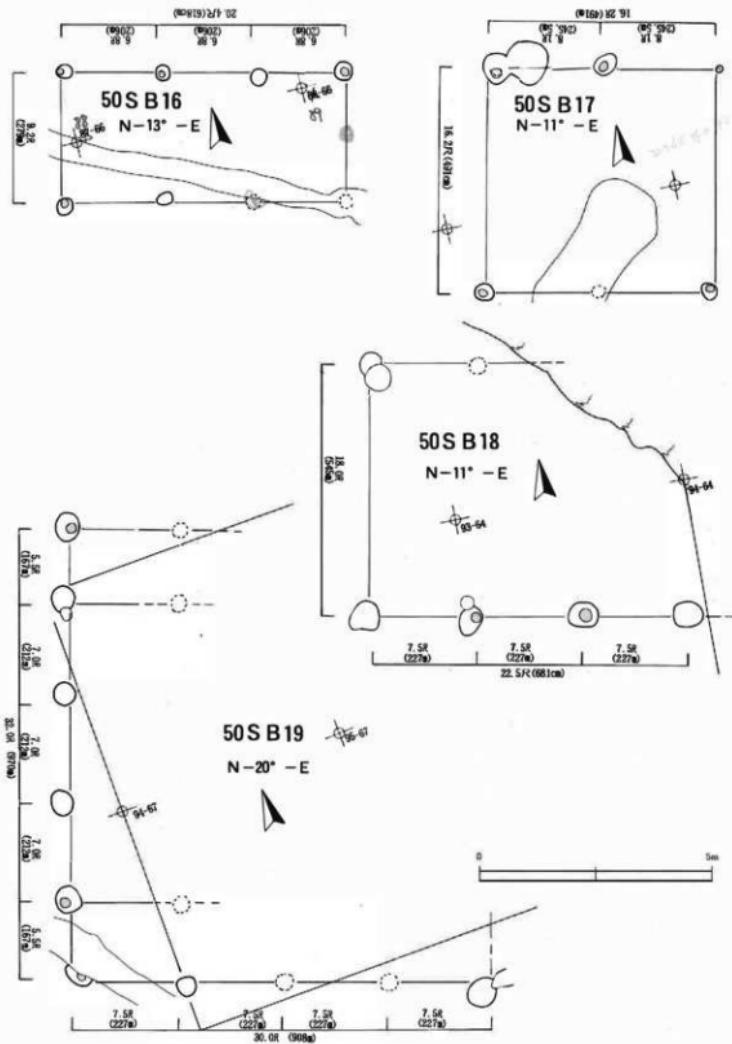
近世に所属する建物は50S B 1、50S B 2、50S B 14、50S B 15、50S B 11、50S B 12、50S B 13がある。これらは「平泉御蔵場」の建物と推測される。50S B 1、50S B 2、50S B 14、50S B 15の4棟が土蔵、50S B 11、50S B 12、50S B 13の3棟が米俵を仮置きする壁の無い「吹屋」と推測される。50S B 1は布垣を持つ掘立柱建物である。50S B 2、50S B 14、50S B 15は半間おきに柱を配する建物である。50S B 1は2間半×10間のプランで、他の3棟は全体が検出されていないか50S B 1とはほぼ同規模の建物と推測される。この土蔵4棟は全部が同時存在ではなく時間差を置いて建っていた可能性が高い。50S B 14と50S B 15は重複関係にあるが、50S B 15が新しい。吹屋の50S B 11、50S B 12、50S B 13の3棟はプランが重複しており同時存在ではない。50S B 11と50S B 12には柱穴の切り合いがあり、50S B 11（新）、50S B 12（古）の関係がわかる。これらの御蔵場関係の建物は17世紀末～19世紀初めの時代に納まるものと推測される。

時期不詳の建物は、50S B 20～50S B 28がある。柱穴を掘り下げる調査をおこなっておらず時期特定が難しい。12世紀か近世の所属の可能性が高い。50S B 20は柱間寸法が長く、総柱の建物であり古代の所属の可能性もある。これらの建物の性格、年代の把握には今後の検討をする。

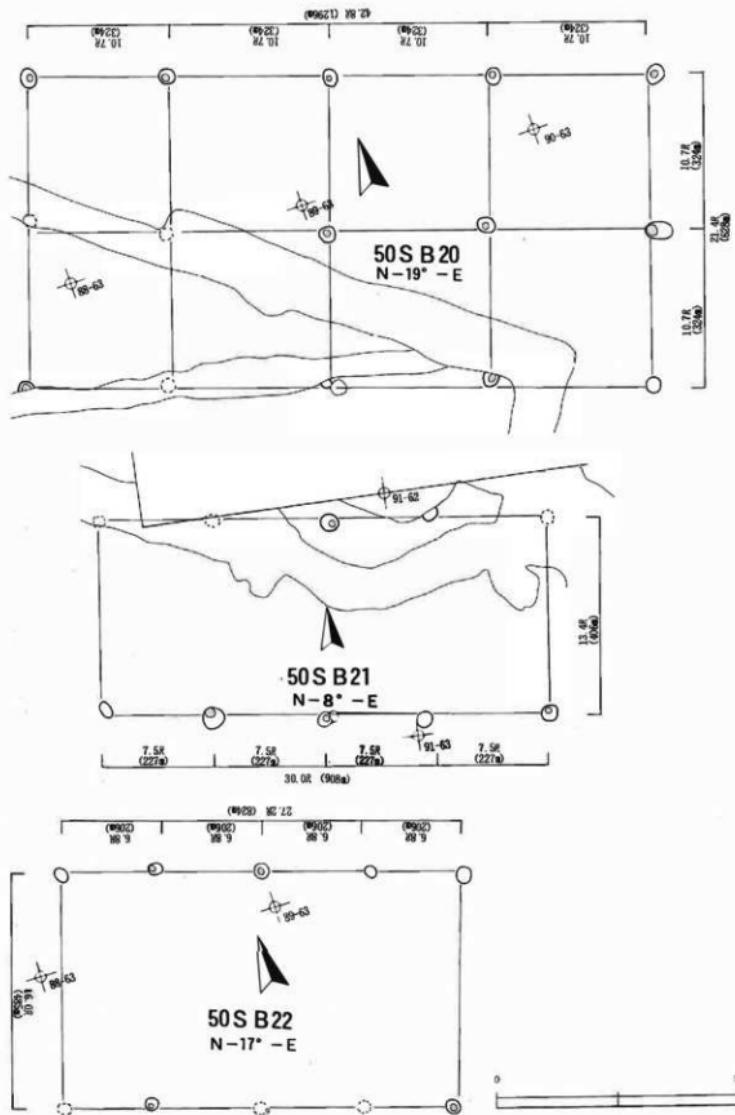
8条の柱列も所属時期は不詳である。



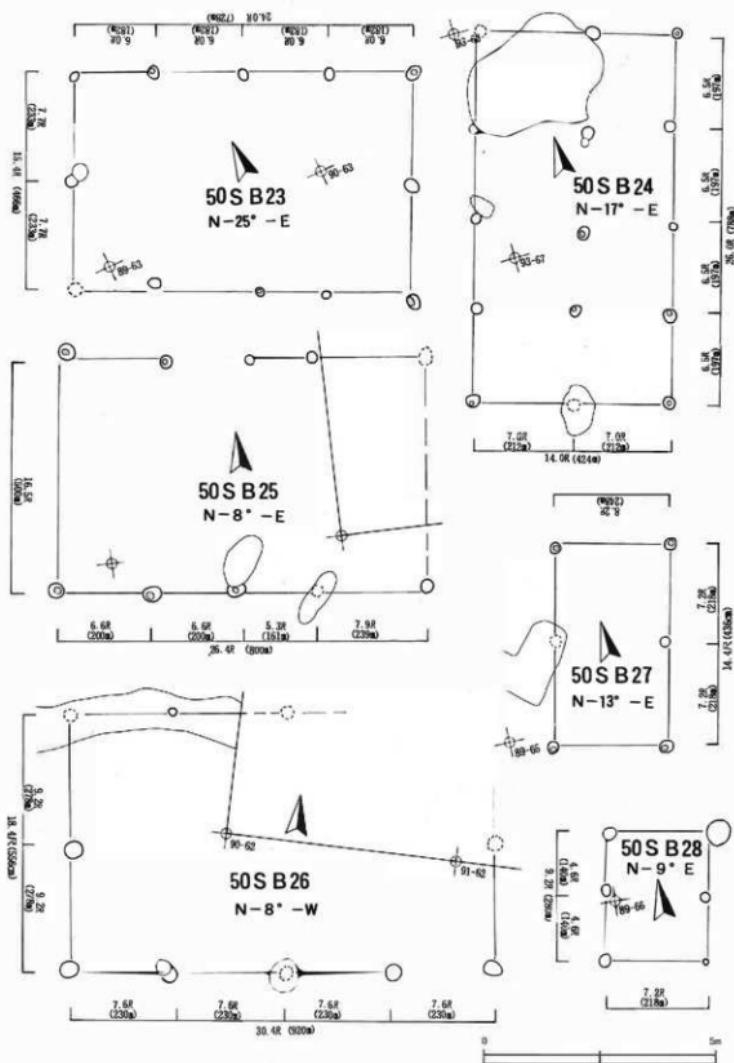
第8図 50S B 14、15



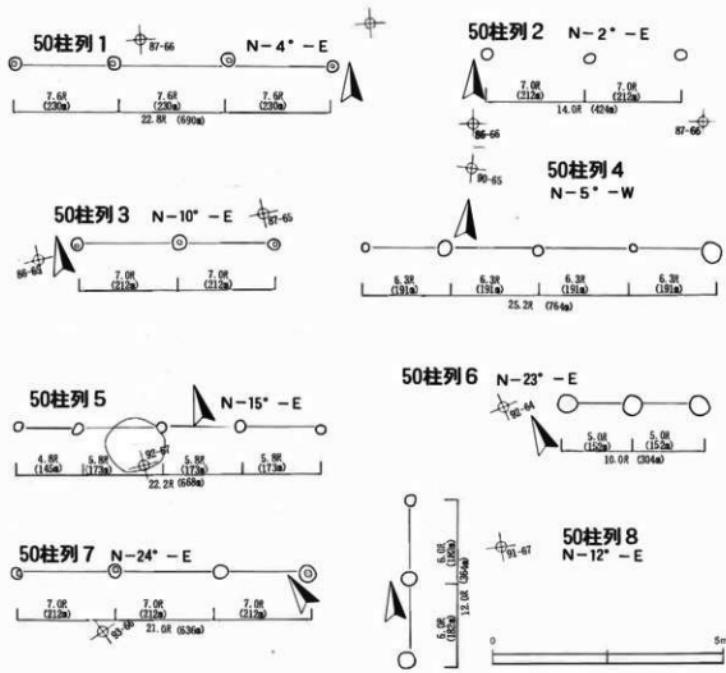
第9図 50S B16~19



第10図 50S B20~22



第11図 50SB23~28



第12図 50柱列1~8

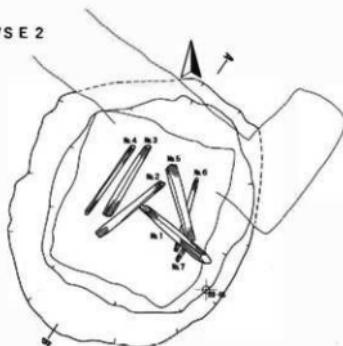
2. 井戸状遺構

井戸状遺構は3基を調査した。37S E 2 (37次調査の際にすでに名称が付されている)は12世紀Ⅲ期新の所属と推定される。かわらけ、部材などが出土した。検出面で井戸本体の外周を環状に囲むように粘土が貼られていた (土層断面4層)。この用途、意味は現在のところ判断しかねる。

50S E 2は深さが1mあまりで「井戸状」の名称は不適切であるが、煩雑をさけるため調査時に付けた名称のままにしている。12世紀の遺構であるか、期の所属は不明である。

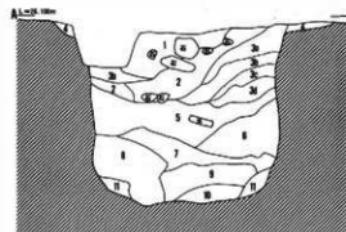
50S E 3は堀との位置関係から12世紀Ⅰ期の所属と推定される。しかし直接の遺構の切合い関係はないので確定ではない。この井戸からは多量の遺物が出土した。堆積状況は下部の4、5層が人為的に一時に埋められた層、なかばの3層が多くの遺物を含む有機質分の多い土の層、上部の1、2層は3層とはやや時間差を置いて堆積した層と読み取れる。3層はa~gの7つに分層しているが、間層として入る筋状の粘土層や混入物の違いにより分けたものである。やや時間をかけて人為と自然の両方が介在して生成された層と考えられる。

37S E 2

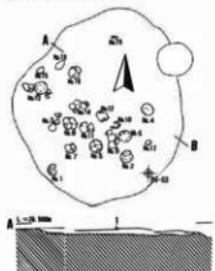


37S E 2

- 1 10YR 2 / 3 黒褐色 シルト 粒性なし 砂を多量に含む
液化物 2% かわらけ断片を少量含む 下面に入植大～ごぶ
し大の円盤を含む
- 2 a 10YR 3 / 3 基礎地帯 シルト 粒性大 液化物 3% かわら
けを多量に含む 半端大～ごぶし大の礫を含む
基本的には 2 a 層と同じ 砂をほとんど含まない 液化物 2
- 3 a 10YR 7 / 6 明黄色 土と土全体 かわらけ断片を含む
明黄色土と黒褐色土に含む しまり大 液化物 1%
- 3 b 基本的に 3 a 層と同じ
ほんとんと 3 a と同様
- 3 c 明黄色土と黒褐色土の間に
4 10YR 8 / 4 深黄色 土と土全体 しまり大
状況にめぐれ 基礎地帯のもので しまり大
5 3 b 層と類似 一塊グラウル化している 断片を含む
6 基本的には 5 層に相当する 明黄色土を 2% 含む
7 8 9 10YR 7 / 2 深黄色 土と土全体 しまり大
10YR 7 / 2 オリーブ灰土
11 10YR 7 / 2 オリーブ灰土 土と土全体の砂層 (砂が卓越
する)



かわらけ集中 (50S E 1)

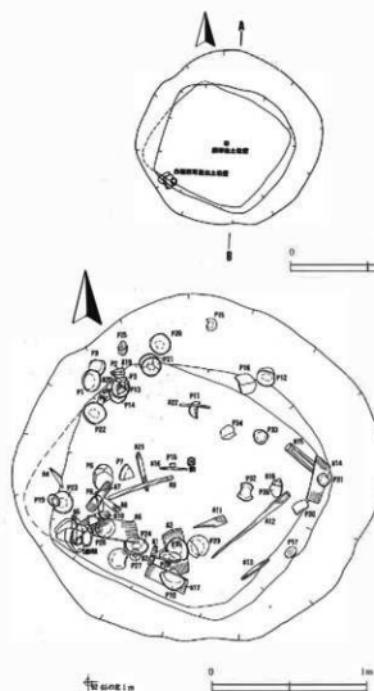


50S E 2

- 1 10YR 3 / 1 黒褐色土 7.5YR 6 / 8 黄色の砂が結晶状に固
液化物少量入 他の土はほとんどなし
- 2 10YR 4 / 1 黑褐色土 10YR 7 / 8 黄褐色ローム、
7.5YR 6 / 8 黄色の砂。液化物ブロック状に多量入 他の
土はほとんどなし
- 3 10YR 4 / 1 黑褐色土 液化物 10YR 7 / 8 黄褐色ローム
液化物の出土地点はほとんどなし
- 4 10YR 7 / 8 黄褐色ローム 10YR 5 / 1 黑褐色土まだらに
多量入 液化物の出土地点はほとんどなし
- 5 10YR 7 / 8 黄褐色ローム 10YR 5 / 1 黑褐色土まだらに
少量入 液化物の出土地点はほとんどなし
- 6 10YR 5 / 1 黑褐色土 液化物の出土地点なし
- 7 10YR 5 / 2 黑褐色砂層 液化物の出土地点なし
- 8 10YR 7 / 8 黄褐色ローム 10YR 5 / 1 黑褐色土。
10YR 5 / 2 黑褐色砂層多量に液化物の出土地点なし



第13図 37SE2、かわらけ集中 (50SE1)、50SE2



50SE3

- 1 10Y R 4 / 2 黄褐色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム ブロック上部に少量混入 瓦、切妻瓦に少量混入 遺物の出土ほとんどない
- 2 10Y R 4 / 2 黄褐色土 繊維多量混入 遺物の出土ほとんどない
- 3 a 7.5Y 2 / 1 黒色土 塗化物類多量混入 瓦全体に塗化物分が発見されている
- 3 b 7.5Y 2 / 1 黑色土 塗化物類、木片、かわらけ片多量混入 有機質分は多くある
- 3 c 10G Y 7 / 1 暗緑灰色粘土層 7.5Y 2 / 1 黑色土少量混入 10G Y 7 / 1 黑色土 塗化物類、木片、かわらけ片多量混入 有機質分が多い土である。(3c層と同様)
- 3 d 7.5Y 2 / 1 黑色土 塗化物類、木片、かわらけ片多量混入 有機質分が多い土である。
- 3 e 10G Y 7 / 1 暗緑灰色粘土層 7.5Y 2 / 1 黑色土表面に多量混入 有機質分が多いである。
- 3 f 10G Y 7 / 1 暗緑灰色粘土層 7.5Y 2 / 1 黑色土表面に多量混入
- 3 g N 3ノイヨリ灰土層 有機質分多量混入 木片、かわらけなど遺物の出土はない
- 4 10G Y 7 / 1 暗緑灰色粘土層 2.5G Y 5 / 1 オリーブ灰土 层ごとに多量混入 遺物の出土は非常に少ない
- 5 10G Y 7 / 1 暗緑灰色粘土層 瓦を多量に含む 遺物の出土ほとんどない

第14図 50SE3

37SE2遺物出土レベル

| No. | 発見地 | Elevation [m] | その他の |
|------|------|---------------|----------------|
| No1 | 70 | 23.949 | かわらけ |
| No2 | 70 | 23.751 | 廻工材 レハベは最も高い位置 |
| No3 | 77 | 23.892 | かわらけ |
| No4 | 68 | 24.005 | かわらけ |
| No5 | 75 | 24.044 | かわらけ |
| No6 | 76 | 23.908 | かわらけ |
| No7 | 63 | 23.905 | かわらけ |
| No8 | 85 | 23.904 | かわらけ |
| No9 | 65 | 23.897 | かわらけ |
| No10 | 78 | 23.918 | かわらけ |
| No11 | 67 | 23.921 | かわらけ |
| No12 | 4091 | 23.869 | 瓦製品 |
| No13 | 69 | 23.917 | かわらけ |
| No14 | 77 | 23.872 | かわらけ |
| No15 | 92 | 23.842 | かわらけ |
| No16 | 71 | 23.851 | かわらけ |

かわらけ集中(50SE1)遺物出土レベル

| No. | 発見地 | Elevation [m] | その他の |
|------|---------|---------------|----------------------------------|
| No1 | 107 | 26.237 | かわらけ |
| No2 | 108 | 26.210 | かわらけ |
| No3 | 94.95 | 26.230 | かわらけ |
| No4 | 109 | 26.194 | かわらけ |
| No5 | 110 | 26.229 | かわらけ |
| No6 | 111 | 26.250 | かわらけ |
| No7 | 112 | 26.344 | かわらけ |
| No8 | [13.14] | 26.266 | かわらけ |
| No9 | 98.98 | 26.278 | かわらけ |
| No10 | 117 | 26.269 | かわらけ |
| No11 | 118 | 26.252 | かわらけ |
| No12 | 97.19 | 26.244 | かわらけ |
| No13 | 1 | 26.208 | 35.99 109 (1), 102, 120, 121 (1) |
| No14 | 108 | 26.243 | かわらけ |
| No15 | 104 | 26.232 | かわらけ |
| No16 | 123 | 26.225 | かわらけ |
| No17 | 124 | 26.223 | かわらけ |
| No18 | 125 | 26.192 | かわらけ |
| No19 | 105 | 26.224 | かわらけ |

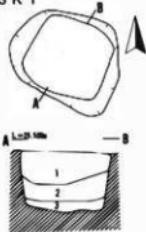
50SE3遺物出土レベル

| No | 発見場所 | 目録番号 | その他の | No | 発見場所 | 目録番号 | その他の | No | 発見場所 | 目録番号 | その他の |
|-----|------|--------|-----------|-----|-------|--------|--------------|-----|------|--------|-------|
| P1 | 56 | 25.075 | かわらけ | P21 | 4.9 | 24.115 | かわらけ2枚重なっていた | P5 | 4057 | 24.535 | 木製品 |
| P2 | 2008 | 25.191 | 2008と同一個体 | P22 | 2 | 24.144 | かわらけ | P6 | 4025 | 24.517 | 木製品 |
| P3 | 37 | 25.166 | かわらけ | P23 | 17 | 24.216 | かわらけ | P7 | 4003 | 24.260 | 木製品 |
| P4 | 61 | 25.126 | かわらけ | P24 | 3 | 24.211 | かわらけ | P8 | 4014 | 24.219 | 木製品 |
| P5 | 5 | 25.127 | かわらけ | P25 | | 24.227 | 壁上、西側回廊裏なし | P9 | 4010 | 24.238 | 木製品 |
| P6 | 47 | 25.061 | かわらけ | P26 | 35.45 | 24.000 | かわらけ | P10 | 4002 | 24.280 | 木製品 |
| P7 | 48 | 25.033 | かわらけ | P27 | 25 | 23.995 | かわらけ | P11 | 4027 | 24.405 | 木製品 |
| P8 | 54 | 24.977 | かわらけ | P28 | 1 | 24.320 | かわらけ | P12 | 4071 | 24.435 | 木製品 |
| P9 | 62 | 25.075 | かわらけ | P29 | 18 | 24.470 | かわらけ | P13 | 4001 | 24.525 | 木製品 |
| P10 | 46 | 24.688 | かわらけ | P30 | 10 | 24.535 | かわらけ | P14 | 4033 | 24.640 | 木製品 |
| P11 | 8 | 24.779 | かわらけ | P31 | 27 | 24.820 | かわらけ | P15 | 4009 | 24.585 | 木製品 |
| P12 | 22 | 25.231 | かわらけ | P32 | 51 | 24.280 | かわらけ | P16 | 4004 | 24.270 | 木製品 |
| P13 | 44 | 24.763 | かわらけ | P33 | 26 | 24.342 | かわらけ | P17 | 4031 | 24.350 | 木製品 |
| P14 | 34 | 24.763 | かわらけ | P34 | 11 | 24.359 | かわらけ | P18 | 4084 | 24.036 | 木製品 |
| P15 | 28 | 25.125 | かわらけ | P35 | 7 | 24.004 | かわらけ | P19 | 4048 | 24.586 | 象鼻木片 |
| P16 | 6 | 25.019 | かわらけ | P36 | 36 | 24.036 | かわらけ | P20 | 4043 | 24.898 | 象鼻木片 |
| P17 | 32 | 25.052 | かわらけ | P37 | 4074 | 24.705 | 木製品 | P21 | 4042 | 24.799 | 象鼻木片 |
| P18 | 2007 | 24.698 | 白磁 | P38 | 4078 | 24.712 | 木製品 | P22 | 4041 | 24.832 | 象鼻木片 |
| P19 | 24 | 24.445 | かわらけ | P39 | 4036 | 24.782 | 木製品 | | 2008 | 25.185 | 白磁四耳壺 |
| P20 | 55 | 24.199 | かわらけ | P40 | 4079 | 24.528 | 木製品 | | 5013 | 24.625 | 印壺 |

3. かわらけ集中

当初、直徑約1mの円内に多数のかわらけが分布するプランを検出し、それを井戸状遺構と考え「50S E 1」の名称を付した。しかしそれを掘り下げたところ、すぐに底面に達し井戸状遺構ではなく、かわらけが集中した遺構と判断した。煩雑を避けるため遺構名は調査時のままにしている。かわらけはロクロかわらけ

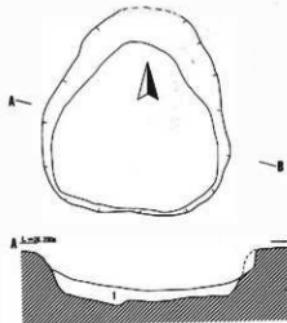
50SK1



50SK1

- 1 10YR 2 / 3 黒褐色シルトと 10YR 7 / 4 黄褐色ロームの層
- 土 ロームが卓越、かわらけ碎片が 5%、灰化物が 2% 褐入
- 2 1 層に鉛板、かわらけ片は含まれない
- 3 1 層に鉛板、黒褐色シルトが卓越

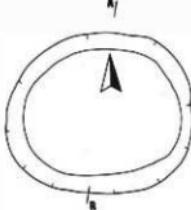
50SK2



50SK2

- 1 7.5Y R 3 / 2 黒褐色土 しまりなし

50SK3



50SK3

- 1 10Y R 4 / 1 黒褐色土 10Y R 8 / 3 黒褐色ロームブロック
- 多量投入、灰化物既多量投入、かわらけ片少量投入
- 2 10Y R 4 / 1 黑褐色土 灰化物既多量投入

1, 2 層とも入馬跡な堆積と思われる

2m

第15図 50SK1~3

のみである。33点を図示した。かわらけの出土状況に意図的な配列などは読み取れなかつた。このかわらけ集中は50S B 5の柱穴よりも古い。

4. 土坑

50S K 1、50S K 2、50S K 3の3基を調査した。いずれも12世紀の所属と考えられるが、用途、性格は不明である。

5. 堀

50S A 1～50S A 13の13条を検出した。平面の形態は付図（遺構配置図）を参照していただきたい。50S A 3、50S A 4、50S A 9、50S A 11は時期不詳で、他は12世紀の遺構と考えられる。各堀の所属時期は以下のように推測する。

12世紀Ⅰ期···50S A 2 50S A 13 軸方向 N-17° -E

12世紀Ⅱ期···50S A 5 50S A 7 軸方向 N-3° -E

12世紀Ⅲ期···50S A 1 50S A 10 50S A 12 (いずれも古期、新期にまたがると推測)
軸方向 N-11° -E

12世紀Ⅲ期古···50S A 6 50S A 8 軸方向 N-11° -E

50S A 7、50S A 8は板材を並べた板堀である。50S A 1、50S A 2、50S A 5は材を隙間なく連続して並べた堀である。50S A 6、50S A 10、50S A 12、50S A 13は材の痕跡がはつきりしない部分が多いが、材を隙間なく連続して並べた堀である可能性が高い。

50S A 5は23S A 1の南北辺の延長線上から検出され、同一の堀の可能性が指摘できる。また50S A 7は溝50S D 8と平行関係にあり同時存在と推測される。50S A 1はその延長が東側（第42次調査区）でも検出されており、約60mの長さを確認できる。

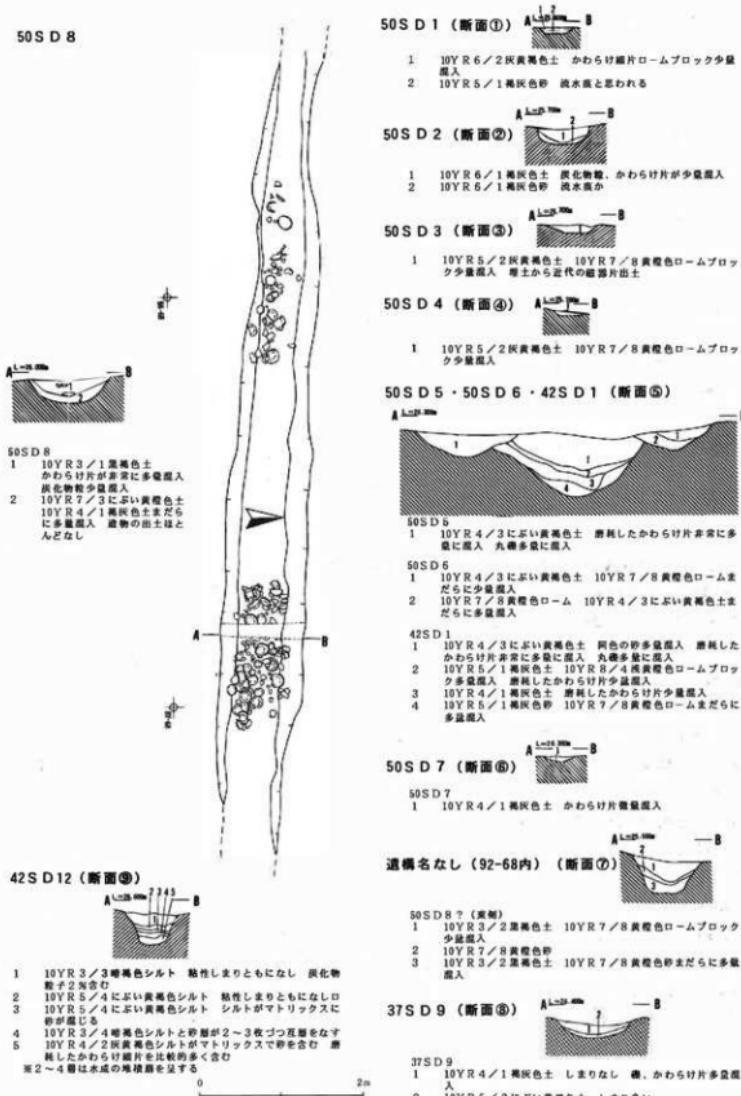
6. 溝

11の溝について調査した。その結果37S D 9、42S D 1、42S D 12、50S D 2、50S D 3、50S D 4、50S D 5、50S D 6、50S D 7が近世以降のものと判断された。12世紀の溝には50S D 8がある。50S D 1は時期を特定するのが難しく時期不詳とする。また遺構名を付さなかつたが92-68グリッド内の溝の断面を記録した。おそらくこれは12世紀の溝と推測される。溝の平面図は50S D 8を除き付図（遺構配置図）を参照していただきたい。断面は第16図に示した。

42S D 1は大規模な溝で、埋土中に大量のかわらけを含んでおり、従来12世紀の可能性が考えられていた。しかし、今次の調査で埋土中から17世紀前半の肥前産の皿（6002）が出土し、42S D 1が近世以降の所属だということが明らかになった。この溝はおそらく平泉御蔵場を開画する目的の溝と考えられる。

50S D 8は、42次調査で検出された大規模建物の42S B 1の東側に位置するL字形の溝に直接つながる同一の溝である。12世紀Ⅱ期の所属と考えられる。溝の軸方向（直交する）はN-3° -Eである。埋土全体から、かわらけが出土したが、東西の2箇所に特にかわらけが集中する部分がみられた。出土したかわらけはロクロかわらけが手づくねよりも圧倒的に多い。

50S D 8



第16図 50SD1~8、42SD1、12、37SD9

第Ⅲ章 出土遺物

出土遺物は、かわらけ（手づくね、ロクロ）、国産陶器（常滑産、渥美産、須恵器系、水沼産）、古代の須恵器、中国産陶磁器（白磁、青白磁、青磁、陶器、染付）、瓦、木製品（下駄、櫛、箆、折敷、部材など）、土製品（手あぶり？、羽口など）、石製品（砥石、碁石？）、金属製品（印章、提子の金具）、近世陶磁器が出土した。

1. かわらけ

手づくねかわらけの分類は以下のとおりにした。

C3類 2段なし 口唇端部断面が丸い。

C4類 2段なし 口唇端部がつまみ上げたようになる。

C5類 2段なし 口唇部に面取りを施す。

D2類 1段なし 口縁部が直線的に立ち上がる。

D3類 1段なし 口唇端部断面が丸い。

D4類 1段なし 口唇部に面取りを施す。

かわらけは 226点を図示した。1~62が50S E 3、63~93が37S E 2、94~126がかわらけ集中 (50 S E 1)、127~193が50S D 8、194~226が他の遺構からの出土である。個々のかわらけの特徴は観察表に記してある。

また以下ののかわらけはほぼ同時に廃棄された一括性のあるセットと把握できる状態で出土した。

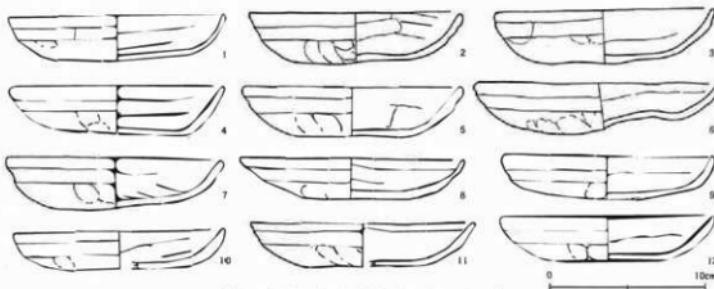
①50S E 3、3層出土の1~62 ②37S E 2底面出土の63、67~73、75~80、83、85、92

③かわらけ集中 (50S E 1) 出土の94~126 ④50S D 8の127~193である。①は手づくねかわらけがロクロかわらけの量より多い。そして大型の手づくねかわらけは1点を除き口径が13.5cm以上の大型品である。唯一、43のかわらけは口径が11.7cmと大型かわらけの小型品の範疇に含まれる。

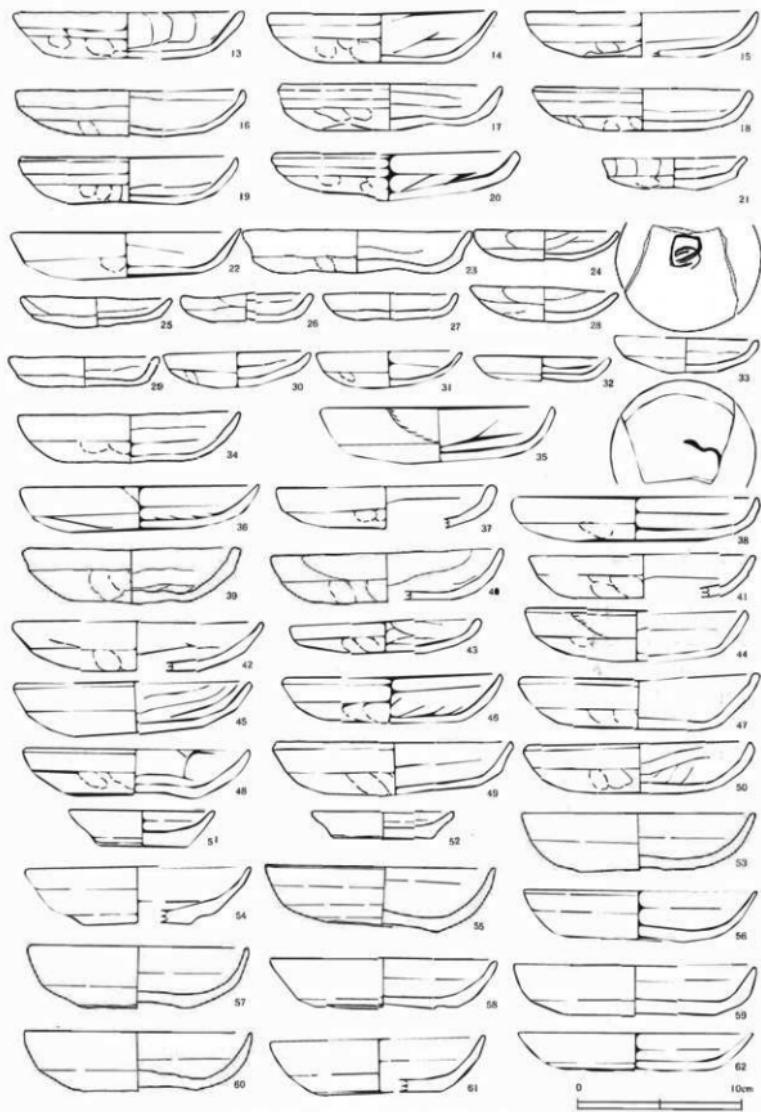
②は17点のうち1点がロクロかわらけで、他は手づくねかわらけである。手づくねかわらけは11点が1段なし、5点が2段なしである。63は口径12.7cmで大型かわらけの小型品の範疇に含まれる。

③は全品がロクロかわらけである。

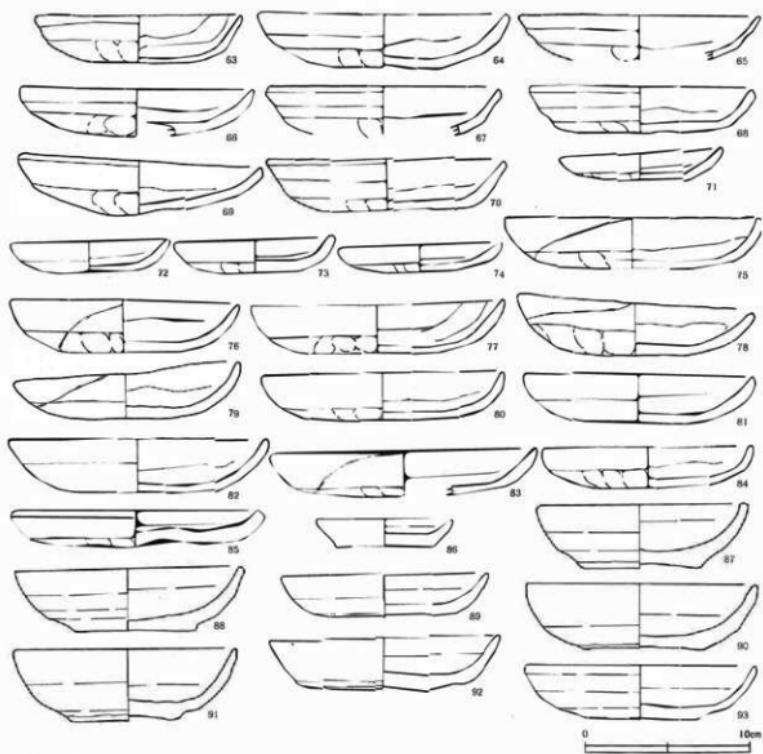
④はロクロかわらけの量が手づくねより圧倒的に多い。手づくねかわらけは16点のうち10点が2段なしである。大型かわらけの小型品は存在しない。



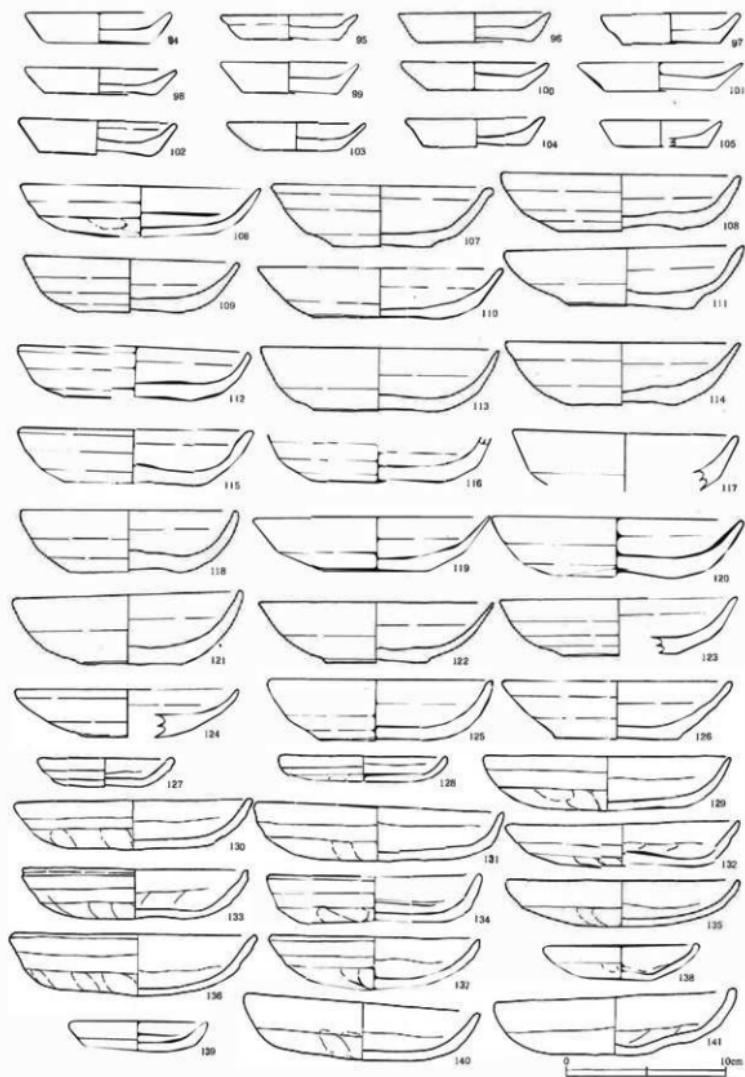
第17図 かわらけ① (1~12)



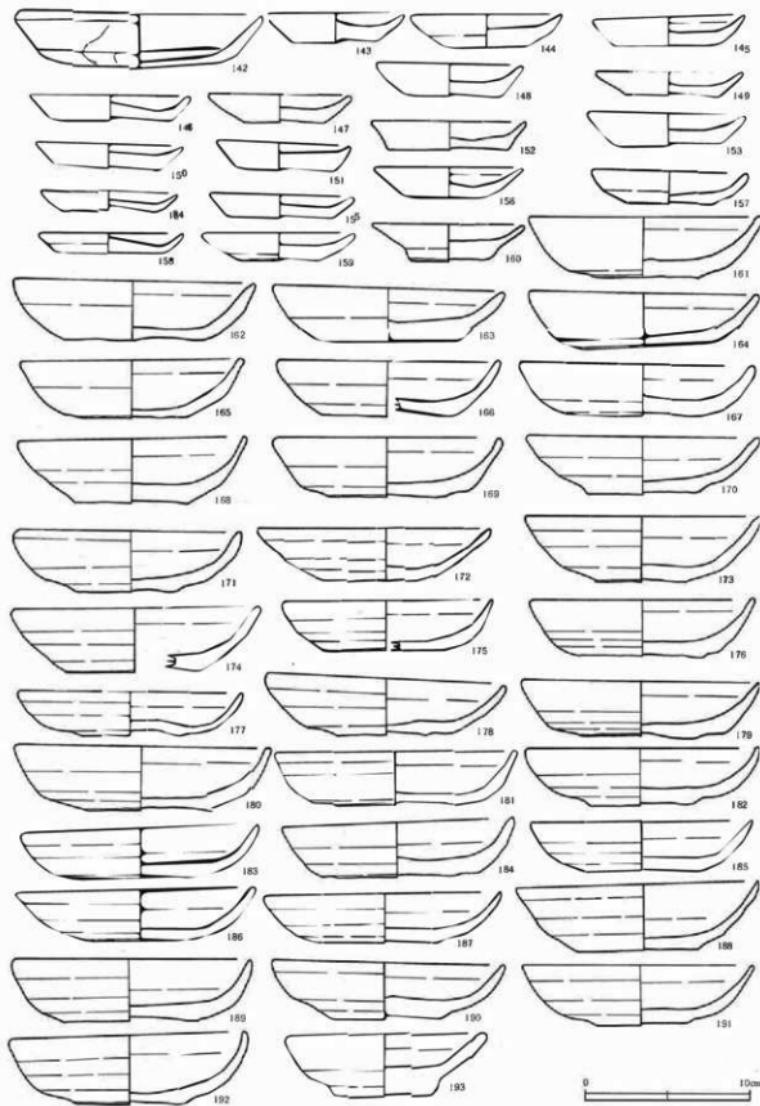
第18図 かわらけ② (13~62)



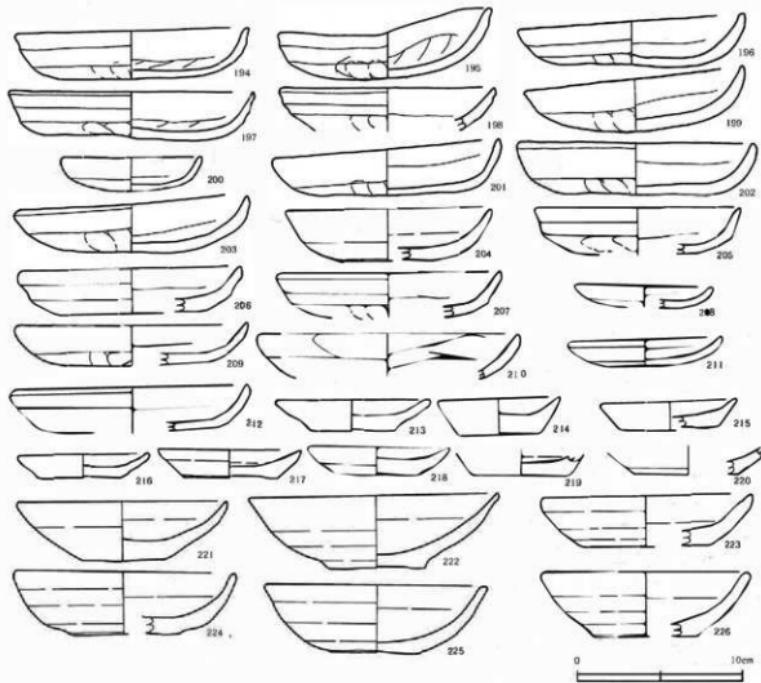
第19図 かわらけ③ (63~93)



第20図 かわらけ④ (94~141)



第21図 かわらけ⑤ (142~193)



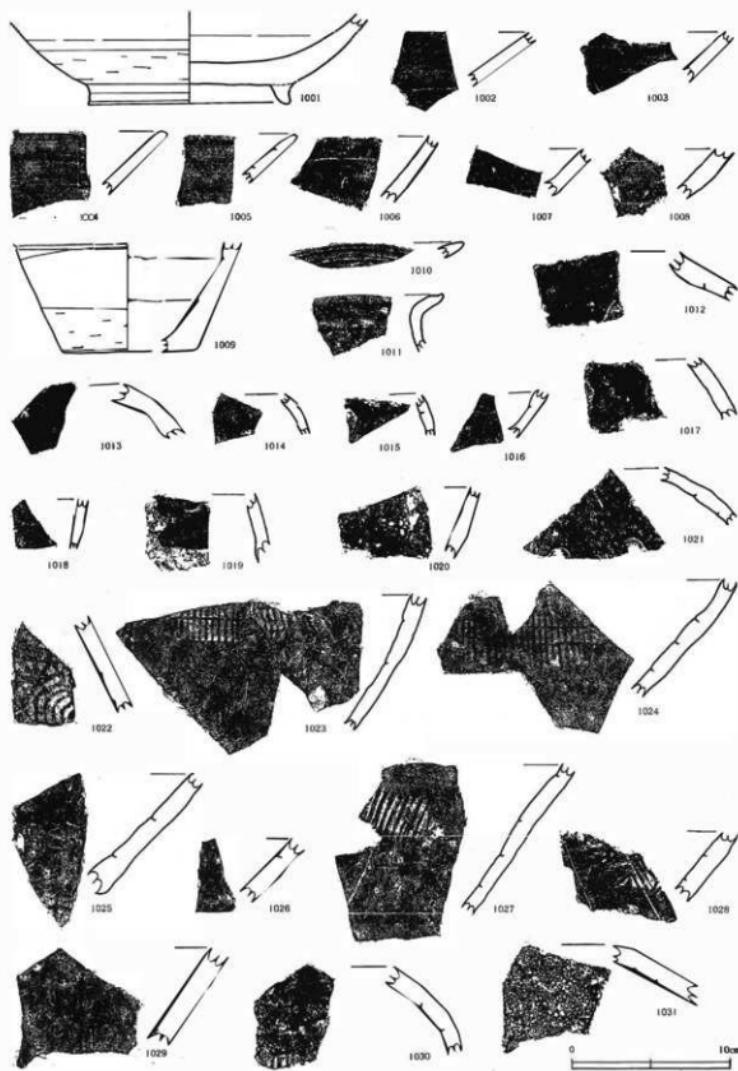
第22図 かわらけ⑥ (194~226)

2. 国産陶器

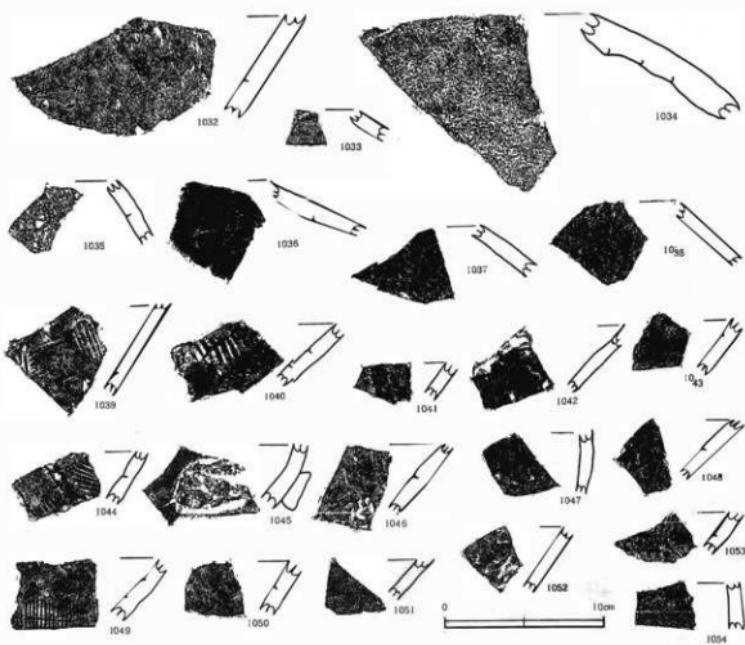
12世紀の国産陶器は出土した全点を図示した。常滑産陶器54点、渥美産陶器126点、須恵器系陶器7点、水沼産陶器1点である。他に13~14世紀の可能性がある壺器系陶器(1189)も出土している。全体の器形がわかるものは少なくほとんどは細片である。よって、詳しい編年的位置を示せないものが多い。多くは12世紀後半に属するものと推測される。

1057は渥美産片口鉢である。50SE3の3層から白磁四耳壺に接する状態で出土した。口縁部の破片が接合しないか、器形全体を推定することが可能である。内面底辺部~体部下半は非常に磨耗しており器面が荒れている。

1188は水沼産片口鉢である。37SE2の2層から出土した。石巻市の水沼窯産である。破断面の胎土は暗赤褐色である。平泉遺跡群でも水沼産陶器の出土量はそれほど多くなく重要な資料である。



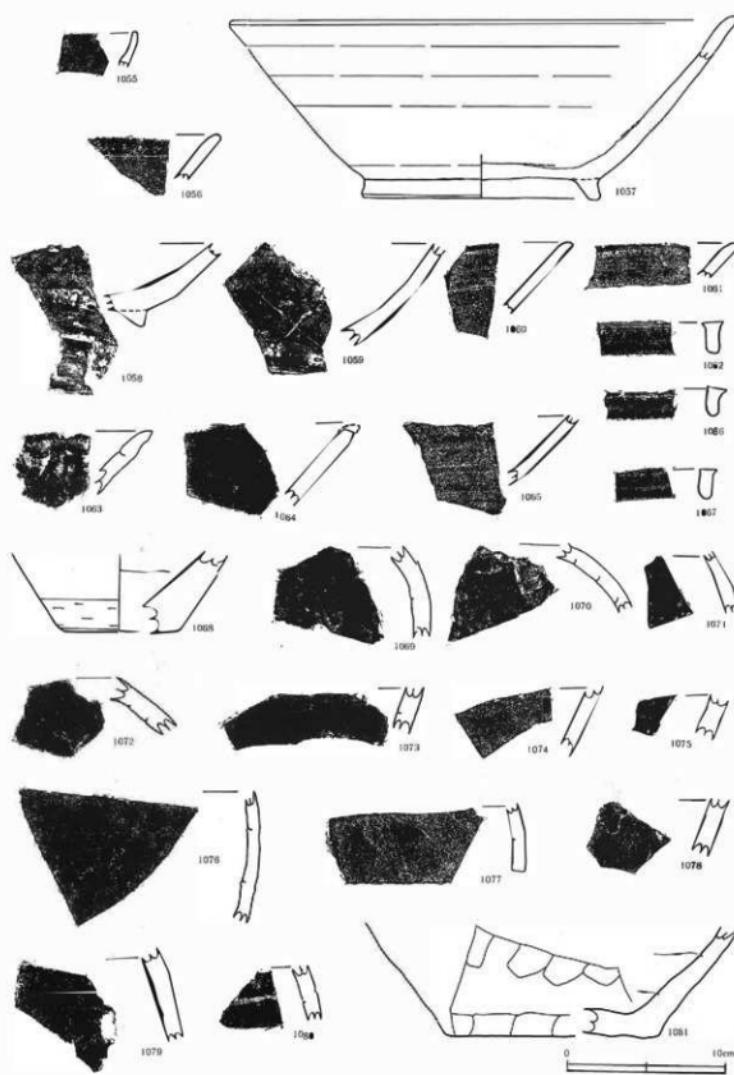
第23図 常滑産陶器① (1001~1031)



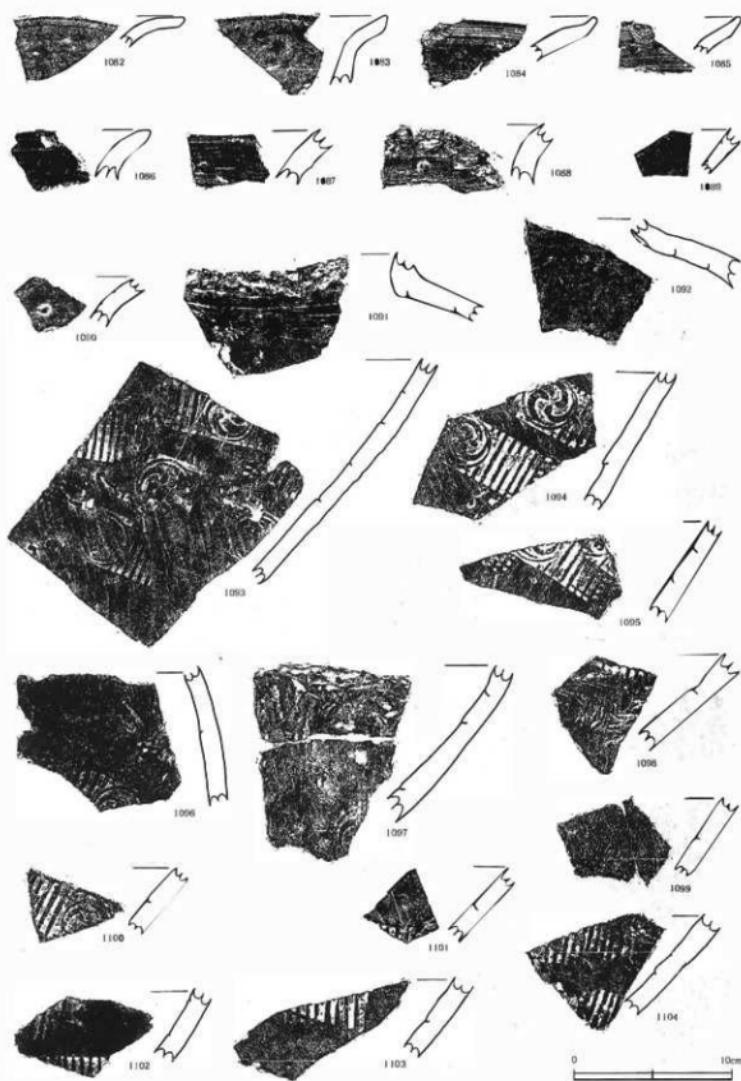
第24図 常滑産陶器② (1032~1054)

3. 古代の須恵器

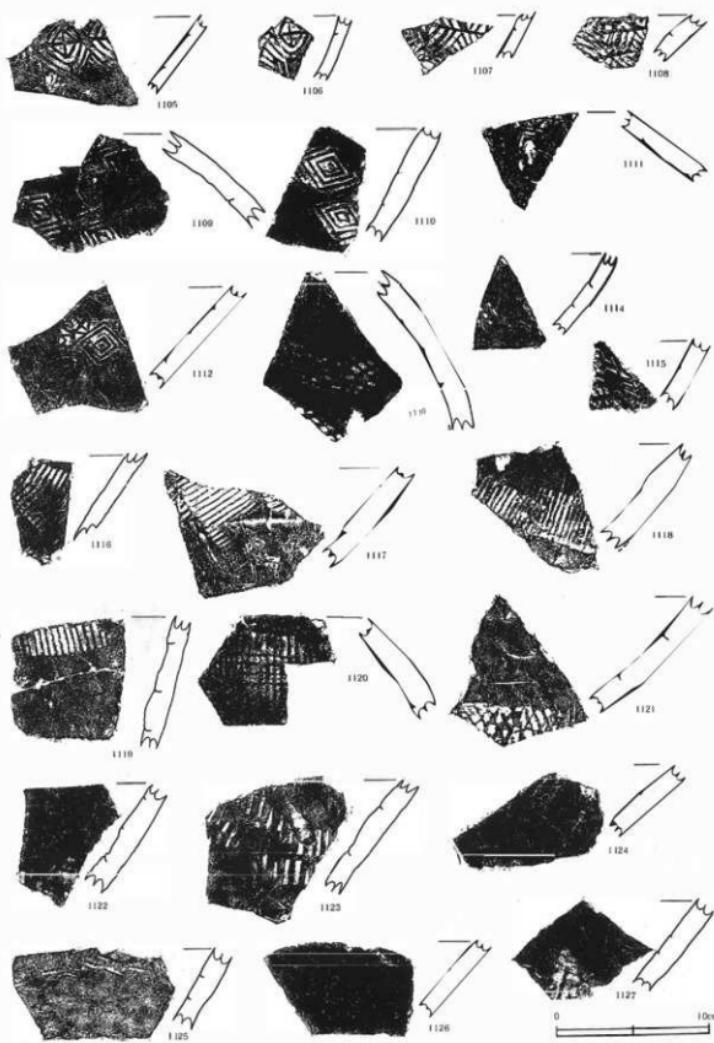
古代の須恵器と考えられるものが出土している。出土した16点全てを図示した。これらは現段階の知識では古代の須恵器の可能性が高いと考えられるが、中世の須恵器系陶器の可能性も捨てきれないものもある。なお本次の調査区では古代の土師器片は出土していない。



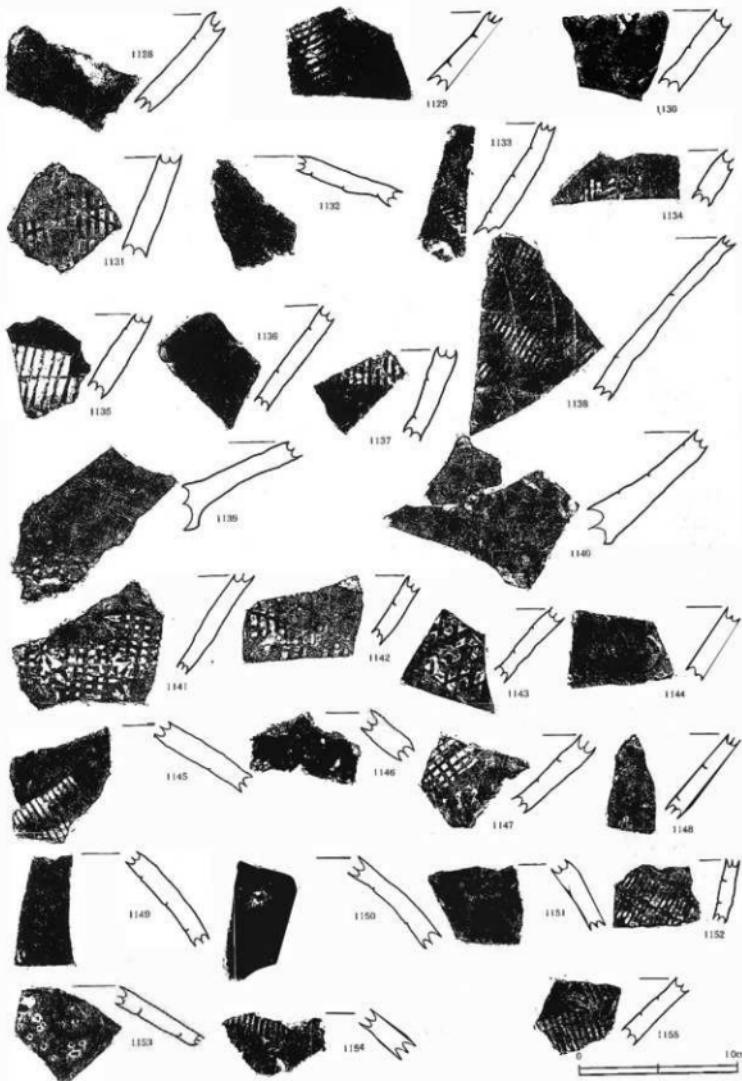
第25図 混美産陶器① (1055~1081)



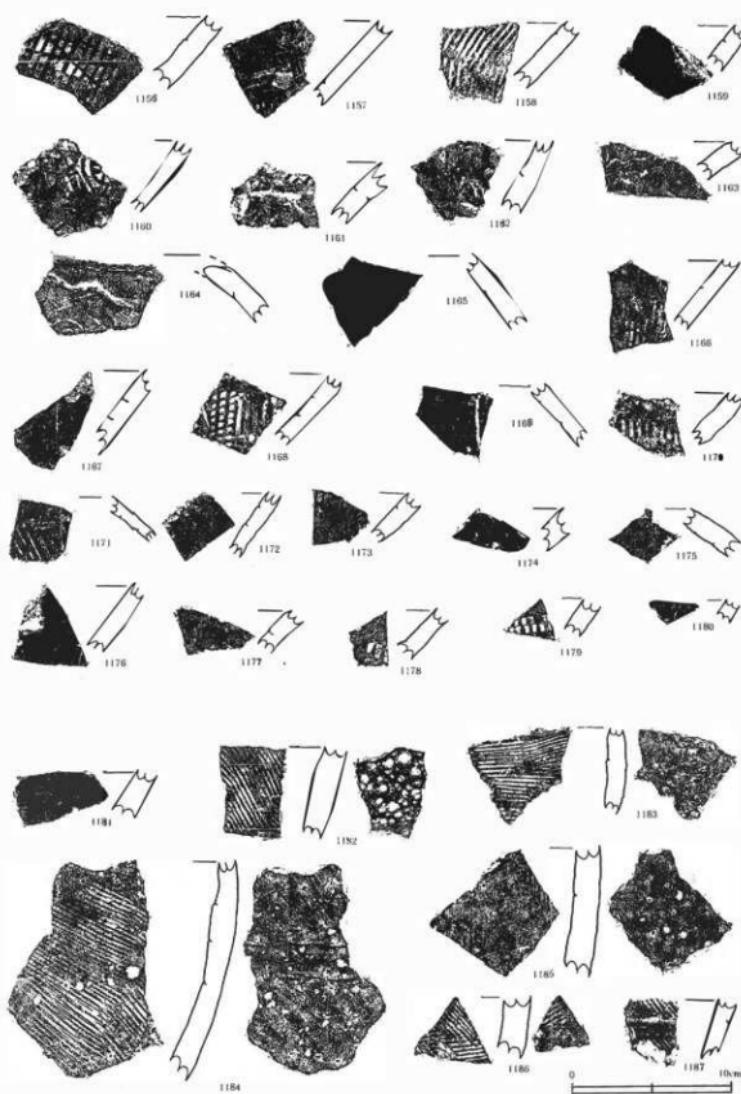
第26図 濱美産陶器② (1082~1104)



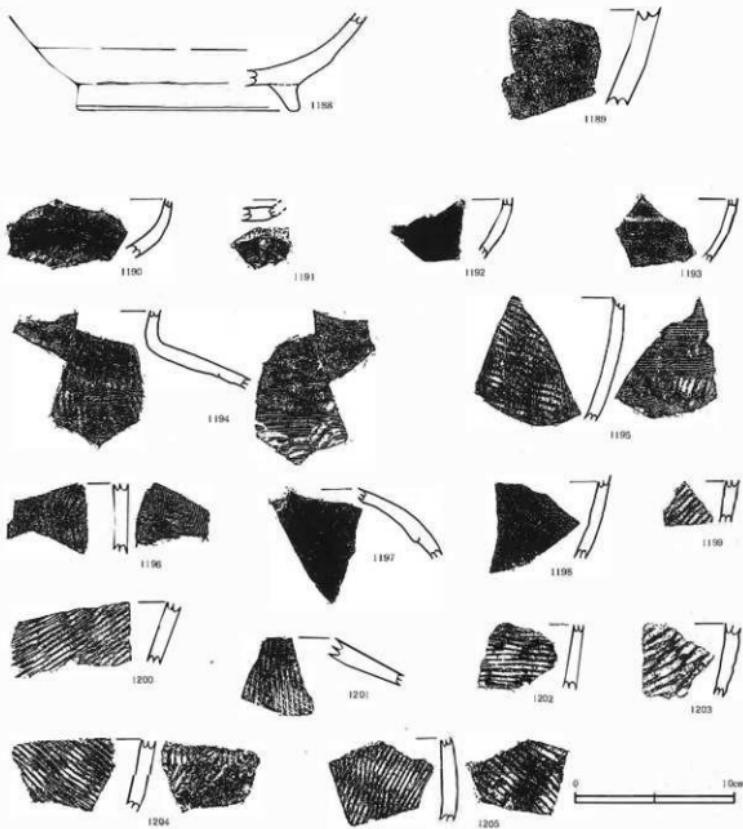
第27図 淀美庄陶器③ (1105~1127)



第28図 濱美産陶器④ (1128~1155)



第29図 濱美産陶器⑤(1156~1180)、須恵器系陶器(1181~1187)



第30図 水沼産陶器（1188）、瓷器系陶器（1189）、須恵器（1190～1205）

4. 中国産陶磁器

12世紀に属する中国産陶磁器は33点図示した。これは出土した全点である。白磁19点、青白磁4点、青磁2点、陶器8点である。他に15世紀後半～16世紀の染付皿2点も図示した。2026は中国産の青磁として取り扱ったが、その時期、産地を明らかにできず、確実に中国産の青磁か否か明らかにすることができなかった。佐賀県教育委員会の大橋康二氏に鑑定いただいたのであるが、近世の肥前産の青磁ではないとの判断をいただいている。

特筆されるのは50S E 3から出土した白磁四耳壺（2008）である。割れた状態で出土したが、接合する

とほぼ完器になった。このような白磁四耳壺の完形品は平泉遺跡群では初めての出土である。大宰府分類のⅢ系に相当し、12世紀第3四半期の輸入と考えられる。中国福建省付近の產と推測される。口縁部は玉縁状をなす。外面の色調にはむらがあり、白色の部分と黄色がかった色を呈する部分がある。内面はロクロ目が顯著で薄く釉がかかかる。口縁部内面には縱方向のカンナ痕が顯著に残る。他の供伴遺物との関係から、この壺が廃棄されたのは12世紀後半とことができる。

この壺の特異な点は漆の染み込んだ布で覆われていることである。出土した時点では多くの部分が漆布で覆われていたことが観察できたが、器面と布の間に泥が入っていた状態であり、多くの部分は取り上げの際に剥落した。残された部分を観察すると、意図的に漆の染みた布を器面に密着するように貼りつけたと考えられる。

外底面の無釉の部分にも漆の付着と布の痕跡が残されている。そして口縁から首の内面にも漆の痕跡がみられる。よって漆布が貼り付けられてた範囲は外底面から口縁外面までの外面全部、そして口縁内面の頸部付近までと推測される。この布の材質については未同定であるが麻布と推測される。

この漆布が白磁四耳壺に貼り付けられた意味については、現在答えを出しかねている。そもそもガラス質の磁器の表面に漆の染みた布を貼りつけても、乾燥すれば剥落してしまうはずである。現に出土した状態でも無釉の外底面には漆が付着しているが、釉のある他の部分は布と器面の間に泥が入り剥がれた状態であつたのである。

内部に何かを入れ密封するのが目的であったとも考えがたい、密封するのであれば、外底面まで覆う必要はなく、頭部から口唇にかけて覆えればよいであろう。また首部内面にも布を密着させる必要はない。

運搬などの際に器を保護するためにおこなったというのも考えがたい。梱包するのであればもっとやわらかい弾力性のあるもので覆つた方が適切である。また中国産陶磁器が多量に出土する陸揚げ港である博多遺跡群でもこのような事例は無いという。

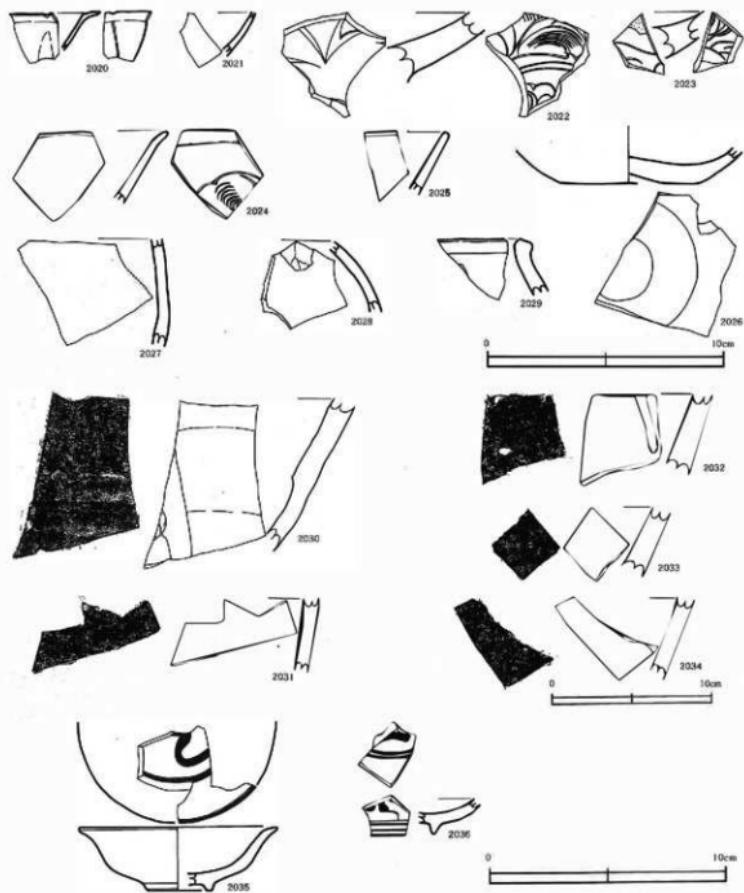
祭祀的な意味を与えるにしても出土状況には意図的に設置、埋納したような様子は看取できず、むしろ割れたものを廃棄したといった感じである。

貼りついている布には漆が染み込んでいる。この漆という点に注目して漆工の面から追求したい。蒔絵の工程の一つに「布着せ」という工程がある。これは漆を塗る前の素地を整えるために、素地に麻布を糊塗で貼る作業である。四耳壺の器面に底部から口縁外面、そして首部の内面にびつたりと布を漆で貼りついている状況は、この「布着せ」に類似すると思われる。この白磁四耳壺は「布着せ」の工程が終わった段階で不都合（壺が割れたとか、布が剥落したなど）が生じたため廃棄されたと考えられないだろうか。即ちこれは白磁四耳壺を素地として、蒔絵の装飾をおこなうとした可能性が考えられる。だがこの考えには難点もある。それは上述のように白磁の釉がついた器面には漆布はなじまず、乾燥すれば剥落するという点である。また本遺物以外に、平泉遺跡群で陶磁器を素地とした蒔絵や漆塗り製品は1点も出土していない。今回の漆布を貼りつけた白磁四耳壺は試行的な行為、即ち試作による結果で、それが技法上の不都合、他の出土が無い理由づくなるかもしれない。

柳之御所遺跡ではこれまでに、刷毛、漆布、など漆工に関連する遺物が出土している。また中尊寺の漆芸は高度なレベルのもので、蒔絵や螺鈿の技術が平泉内に存在していたことを示している。これらのこととは、今回のこの漆布が付着した白磁四耳壺も漆芸に関連したものである可能性を強める事象である。



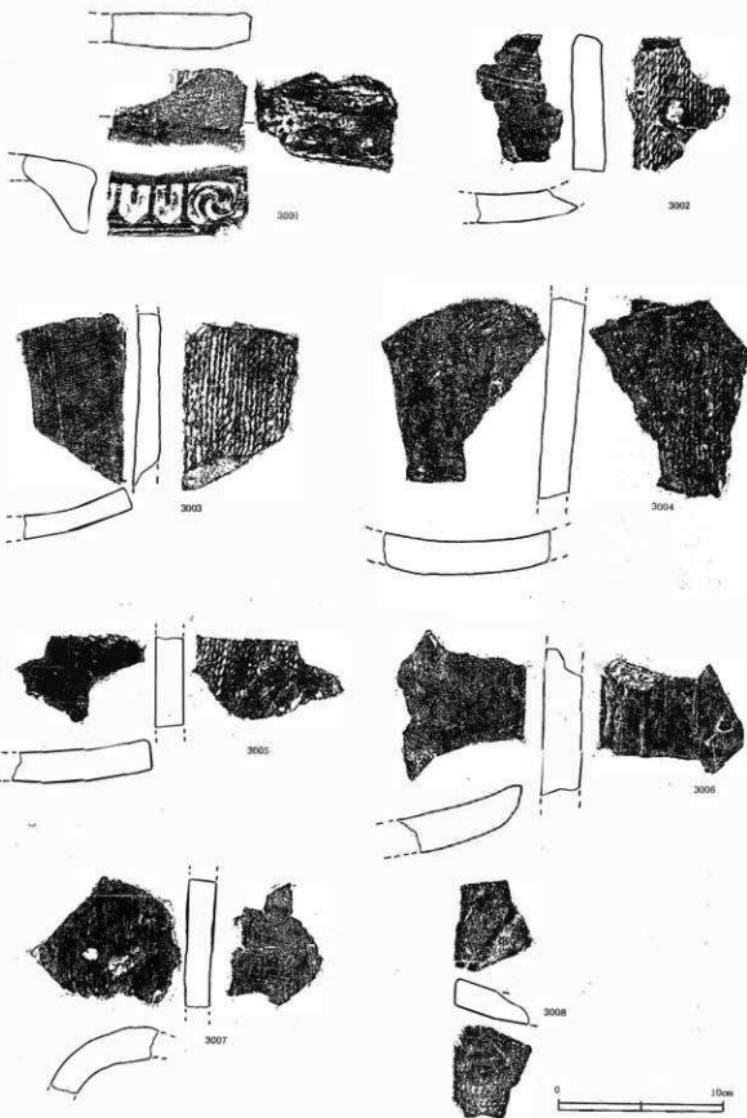
第31図 中國産陶磁器① (2001~2019)



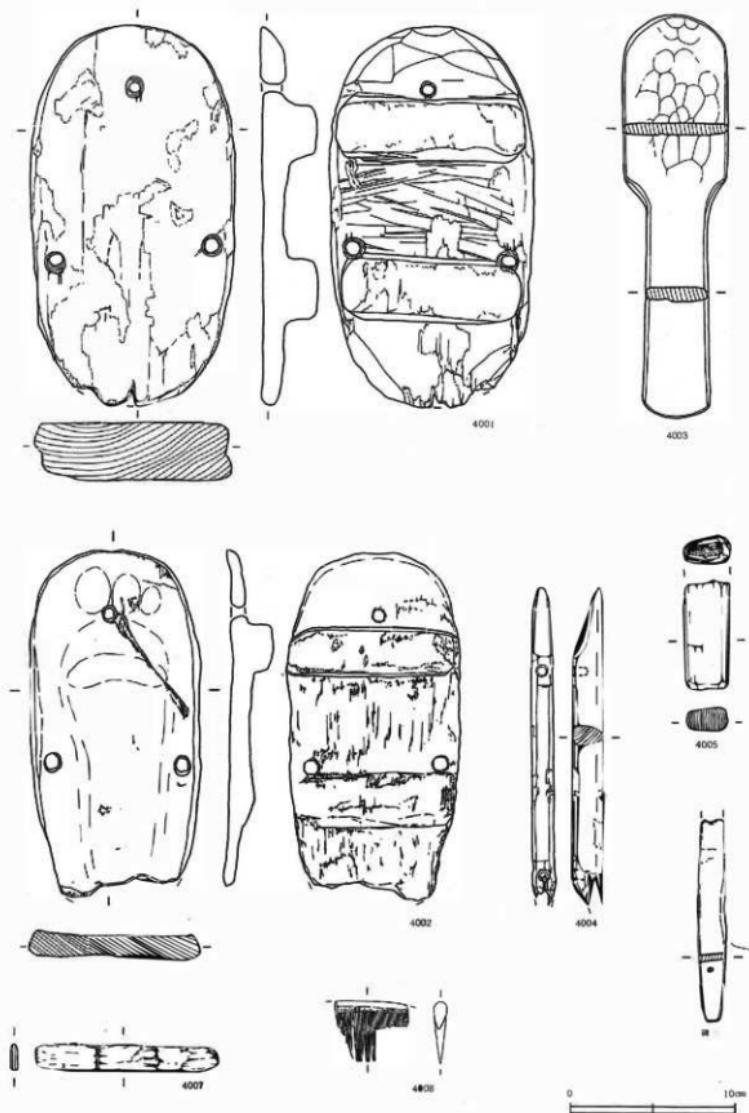
第32図 中国産陶磁器② (2020~2036)

5. 瓦

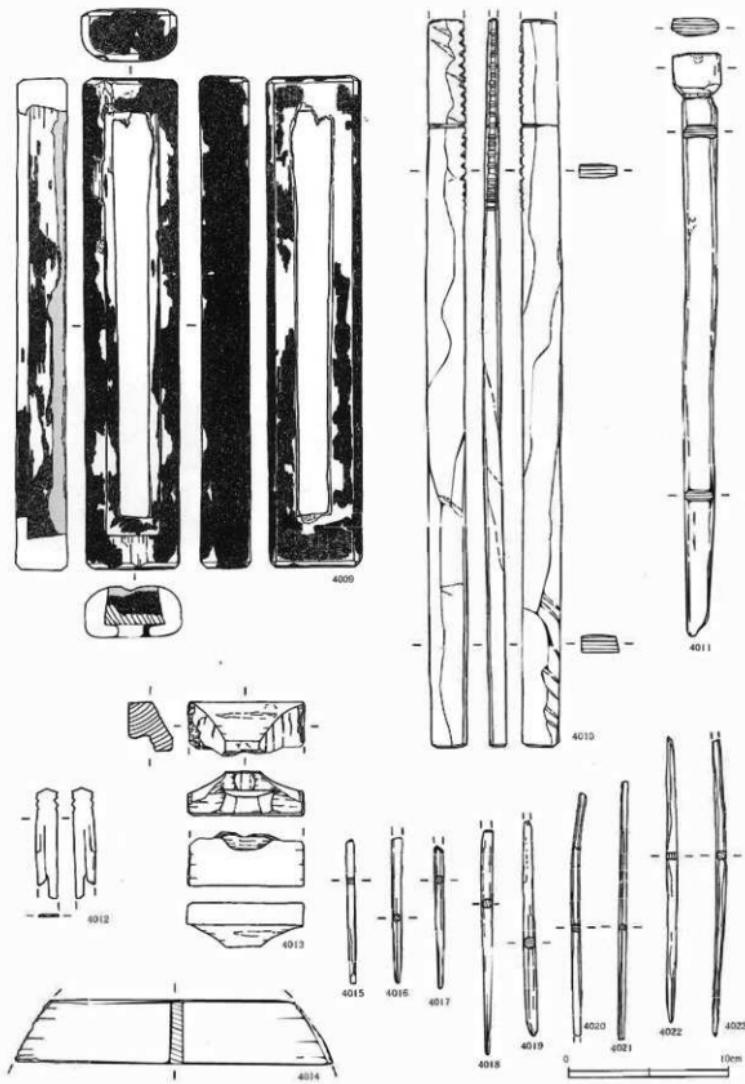
12世紀の瓦を8点図示した。出土した全品である。軒平瓦1点、平瓦6点、丸瓦1点である。平瓦としたものは対斗瓦の可能性もあるが、その別を判断できないので平瓦として扱う。3001の軒平瓦は右端に巴文を配しその左からは陰刻の刺頭文が連続する。3006は外側が暗灰色、破断面が赤褐色を呈し水沼産陶器に似る。水沼産の可能性が考えられる。



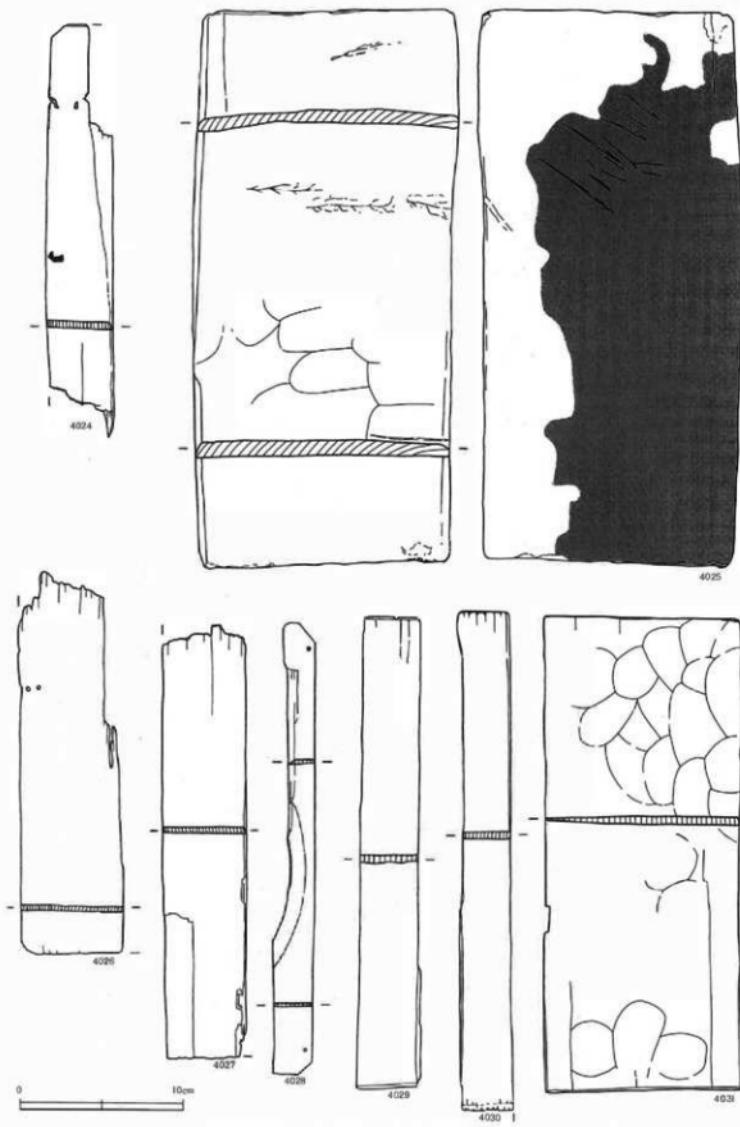
第33図 瓦 (3001~3008)



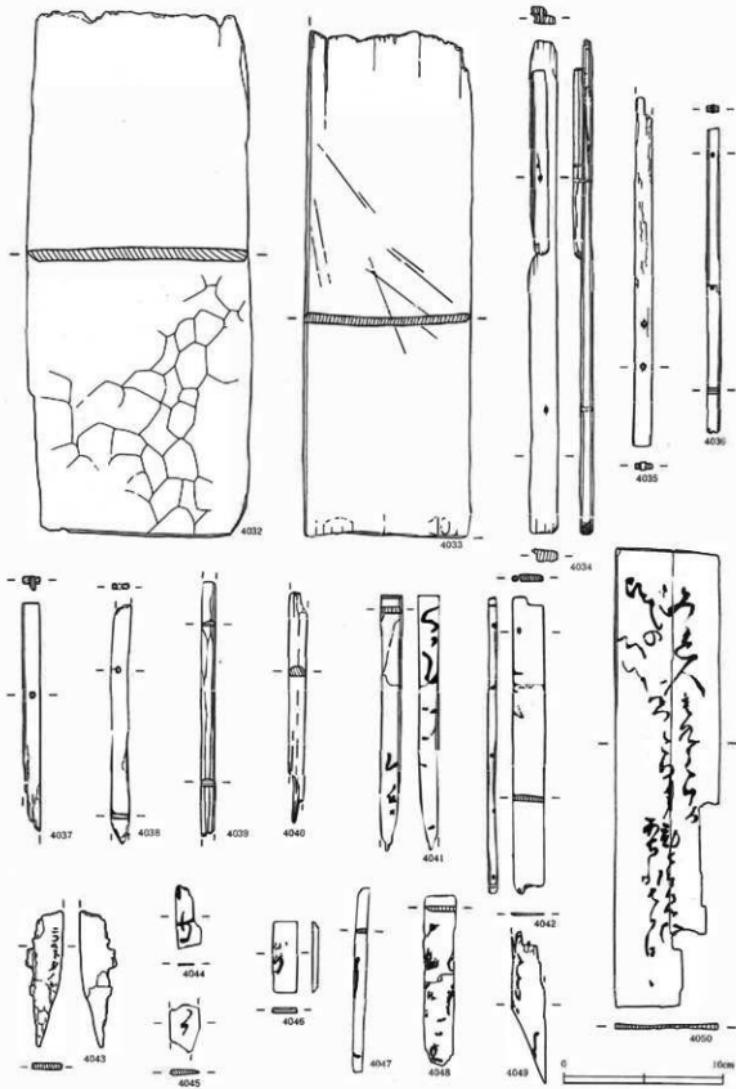
第34図 木製品① (4001~4008)



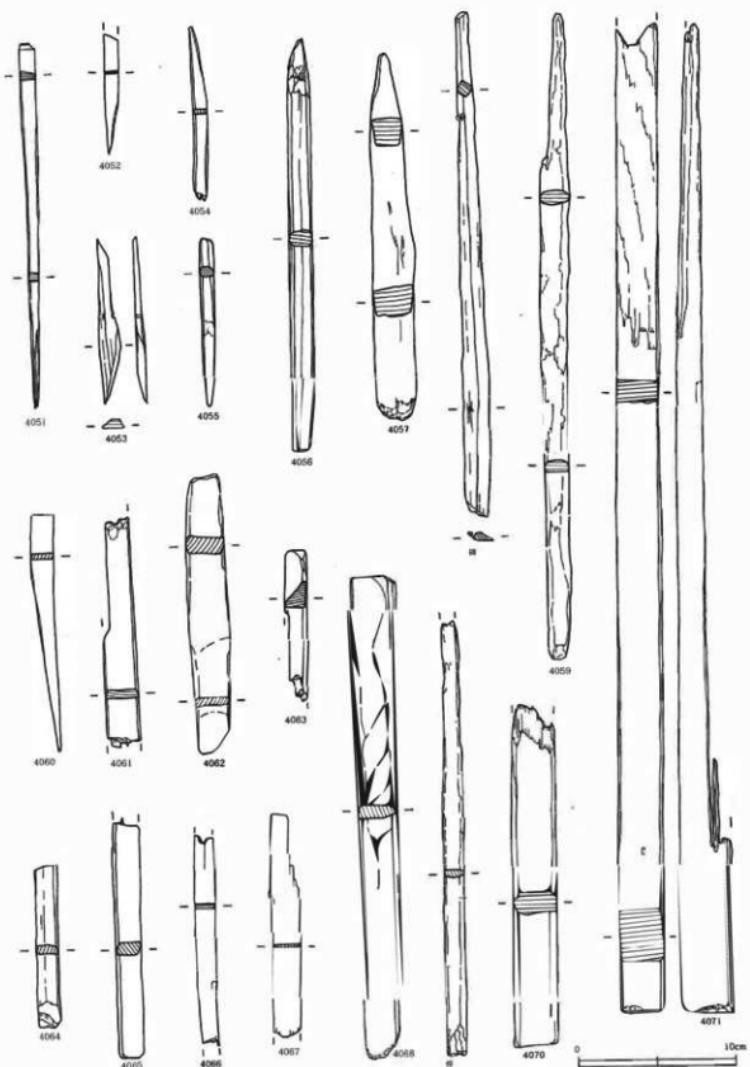
第35図 木製品② (4009~4023)



第36図 木製品③ (4024~4031)



第37図 木製品④ (4032~4050)



第38図 木製品⑤ (4051~4071)

6. 木製品

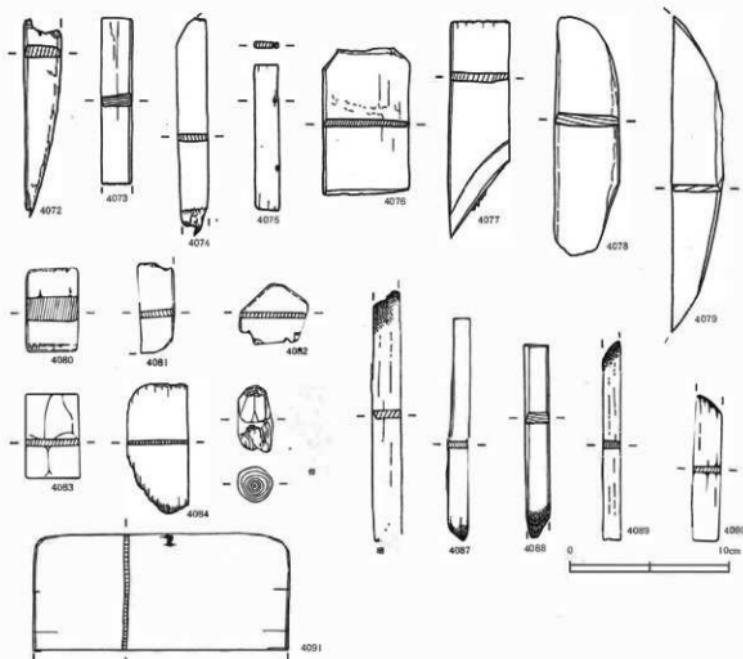
50S E 3、3層出土のもの90点、37S E 2出土のもの8点を図示した。

4009は断面形が蒲鉾形で、内側が割り貫かれた形状である。外面、内面ともに漆が塗られている。底面の両端に布の痕跡がある。内面にも漆塗があることから、何らかの容器の類と考えられるが具体的な用途はわからない。

4010は細長い板状の製品で、一方の端部の側面に刻みが19個施されている。これらの刻みの間隔は均一ではない。端部から10番目の刻みに対応する正面と背面に線が刻まれている。また刻みのある端部をよく観察すると完結しているのではなく、刻み部分から折れていることがわかる。ここにも正面と背面にも線があり、そこから欠損しているのである。この欠損部の線と10番目刻みの線の間の長さは6.75cmである。全体の厚さは均一ではなく刻みのある側に比べると刻みの無い側がやや厚い。用途、製品名は不明である。類似した形態の資料が富山県立山町辻遺跡で出土している。

4041~4050には墨書きがあるが、いずれもまだ未解読である。

4092~4098の部材は37S E 2の埋土中から出土したが、井戸枠などのように組み合わさった状態で出土したのではなく、ばらばらの状態で出土した。よって、これらの部材が37S E 2に伴うものであるか、他所から廃棄されたものかは判断できない。



第39図 木製品⑥ (4072~4091)



第40図 木製品⑦ (4092~4095)



第41図 木製品⑥ (4096~4098)

7. 土製品

5001は柱状高台かわらけの高台部分である。5002、5003は素焼の火鉢、手あぶりの類と推定される。5002はその脚部、5003はその本体部分である。どちらの胎土も手づくねかわらけの胎土に似る。5004～5007は羽口である。5006、5007は12世紀のものではない可能性もある。

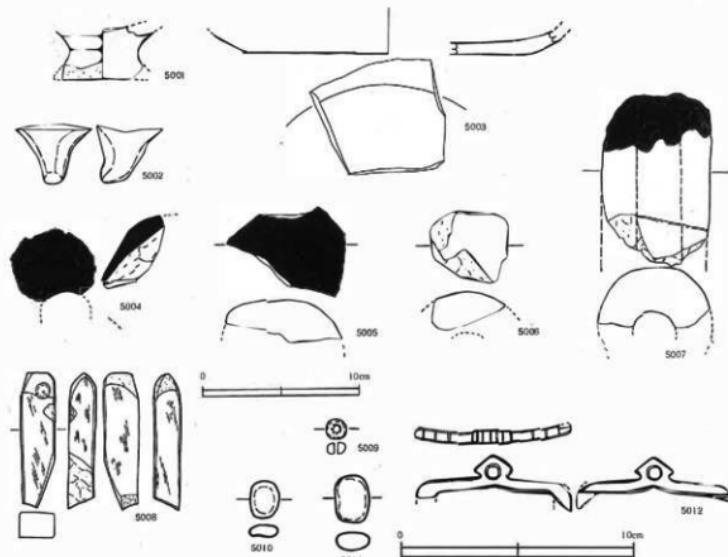
8. 石製品

5008は磁石で4面使用であるが、12世紀のものである確証はない。5009は材質が未同定であるがガラス製の玉と推定される。色は白色を呈する。時期は不詳。5010、5011は白色の石で碁石の可能性がある。

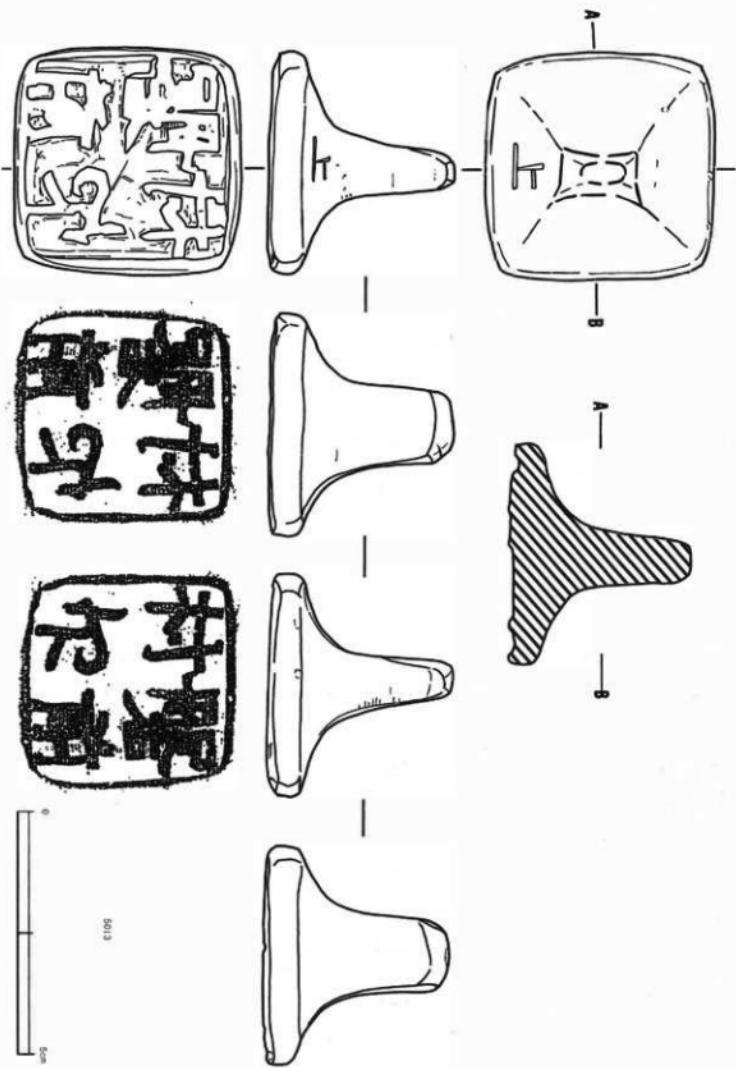
9. 金属製品

5012は提子（ひさげ）の金具である。銅製品である。90-67グリッドの遺構検出時に出土している。提子の容器部分の片口側と弦を連結するための金具である。提子の金具は他に平泉遺跡群では志羅山遺跡21次調査と66次調査で出土している。

5013は銅製の印章である。印面の大きさは縦4.7cm、横4.7cmで角はやや丸みを帯びておりほぼ正方形に近い形である。厚さは0.7cm、印面から鉢頂部までの高さは3.7cm、質量167.4g、密度7.99g/cm³で大きさのわりあいに非常に重量感がある。鉢の部分は弧状となっており、特に孔は穿たれていない（弧鉢無孔）。材質は銅で鋳造により製作され、型から取り出した後、細部を工具等で調整している。鉢底部には、印の方向を明示する「上」の文字が刻印される。印面は陽刻、楷書体で「磐前村印」の文字が認められる。印部の



第42図 土製品、石製品、金属製品① (5001～5012)

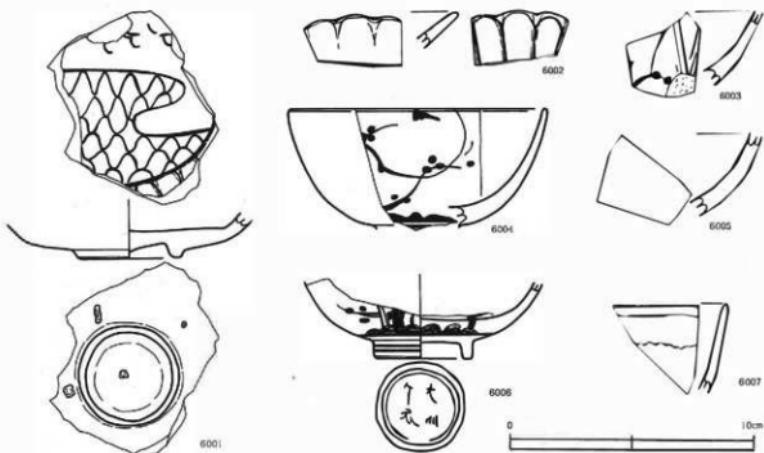


第43図 金属製品② (印章 5013)

凹部に、部分的に朱と思われる赤色顔料が残存しており、実際に使用した痕跡が認められる。印面の「磐前村印」は「いわさきむらいん」、あるいは「いわがさきむらいん」と読まれ、地名を表していると推定される。

10. 近世陶磁器

少量であるが近世の陶磁器が出土した。6001、6002は17世紀前半の肥前産磁器の皿である。別個体であるが、同じ文様と推定される。器面は灰色で真須は深緑色を呈する。6003、6004、6006は1690～1780年の肥前産の磁器碗である。6005は肥前産、6007は瀬戸・美濃産の陶器碗である。どちらも18世紀前半頃のものである。



第44図 近世陶磁器（6001～6007）

| 番号 | 出 土 位 置 | 分類 | 法量(cm) | | | 内面 ナメ | 色調 | 透湿度 (%) | 胎土 | 備 考 |
|----|---------------|----|--------|-----|-------|----------|------------------------|------------|---------------------|------------------------|
| | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | |
| 1 | 50SE3 3層 P28 | C3 | 14.2 | — | 3.0 | 130 | 黒 | 灰白 | 100 | 密 内外面や摩耗 |
| 2 | 50SE3 3層 P22 | C3 | 14.0 | — | 3.3 | 180 | 黒 | 灰白 | 100 | 密 内面に纏ぎ目が残る |
| 3 | 50SE3 3層 P24 | C3 | 14.5 | — | 3.5 | 200 | 黒 | 灰白 | 100 | 密 胎土に金雲母わざかに混入 |
| 4 | 50SE3 3層 P21② | C3 | 14.2 | — | 3.2 | 160 | 黒 | 灰黄 | 95 | 密 内面油煙付着 |
| 5 | 50SE3 3層 P5 | C3 | 14.6 | — | 3.2 | 60 | 黒 | 灰白 | 30 | 密 胎土に海綿状骨針、金雲母混入 |
| 6 | 50SE3 3層 P16 | C3 | 16.2 | — | 3.0 | 140 | 黒 | 褐灰 | 60 | やや粗 胎土に海綿状骨針わざかに混入 |
| 7 | 50SE3 3層 P35 | C3 | 14.2 | — | 3.3 | 160 | 黒 | 灰黄 | 90 | 密 胎土に海綿状骨針わざかに混入 |
| 8 | 50SE3 3層 P11 | C3 | 14.9 | — | 2.7 | 150 | 指・皮 | 黄灰 | 80 | 密 胎土に海綿状骨針わざかに混入 |
| 9 | 50SE3 3層 P21① | C3 | 14.2 | — | 2.8 | 100 | 黒 | 黄灰 | 60 | やや粗 胎土に海綿状骨針わざかに混入 |
| 10 | 50SE3 3層 P30 | C3 | 14.0 | — | 2.5 | 50 | 物 | 褐灰 | 30 | やや粗 胎土に金雲母、海綿状骨針わざかに混入 |
| 11 | 50SE3 3層 P34 | C3 | 14.8 | — | 2.8 | 65 | 物 | 褐灰 | 50 | 密 胎土に海綿状骨針わざかに混入 |
| 12 | 50SE3 3層 東半 | C3 | 14.0 | — | 2.8 | 70 | 物 | 黄灰 | 40 | 密 内面わざかに油煙付着 |
| 13 | 50SE3 3層 西 | C3 | 14.4 | — | 2.9 | 70 | 物 | 灰白 | 30 | 密 胎土に海綿状骨針わざかに混入 |
| 14 | 50SE3 3層 東半 | C3 | 14.2 | — | 3.0 | 115 | 指・皮 | 灰黄 | 80 | 密 胎土に金雲母わざかに混入 |
| 15 | 50SE3 3d層 | C3 | 14.4 | — | 2.8 | 50 | 物 | 謙黄 | 25 | 密 |
| 16 | 50SE3 3層 東半 | C3 | 14.1 | — | 2.9 | 130 | 物 | にじ謙黄 | 60 | 密 胎土に海綿状骨針わざかに混入 |
| 17 | 50SE3 3層 P23 | C4 | 14.0 | — | 3.0 | 180 | 物 | 灰黄 | 100 | 口縁部内外面に油煙付着 |
| 18 | 50SE3 3層 P29 | C5 | 13.8 | — | 2.6 | 180 | 物 | 灰白 | 95 | やや粗 胎土に金雲母混入 |
| 19 | 50SE3 3層 | C5 | 13.6 | — | 2.9 | 70 | 指・皮 | 褐灰 | 30 | 密 内外面皮による調整、口縁内面指調整 |
| 20 | 50SE3 3層 東半 | C5 | 15.1 | — | 3.0 | 230 | 指・皮 | 褐灰 | 95 | 密 厚厚か厚ぼったい |
| 21 | 50SE3 3層 東半 | D2 | 9.1 | — | 1.8 | 50 | 密 | 黄灰 | 75 | やや粗 胎土に金雲母、海綿状骨針混入 |
| 22 | 50SE3 3層 P12 | D2 | 14.4 | — | 2.9 | 170 | 物 | 灰白 | 100 | 全般的にやや摩耗 |
| 23 | 50SE3 3層 東半 | D2 | 14.0 | — | 2.7 | 50 | 物 | 灰白 | 30 | 密 胎土に金雲母わざかに混入 |
| 24 | 50SE3 3層 P19 | D3 | 9.1 | — | 1.9 | 50 | 物 | 謙黄 | 100 | 密 胎土に金雲母混入 |
| 25 | 50SE3 3層 P27 | D3 | 9.3 | — | 1.8 | 60 | 物 | 黄灰 | 100 | 密 内外面皮による調整、口縁内面指調整 |
| 26 | 50SE3 3層 P33 | D3 | 8.4 | — | 1.7 | 60 | 物 | 謙黄 | 100 | 密 内口縁部に油煙付着 |
| 27 | 50SE3 3層 P31 | D3 | 8.4 | — | 1.6 | 45 | 物 | にじ謙黄 | 70 | 密 内外に油煙付着 |
| 28 | 50SE3 3層 P15 | D3 | 9.3 | — | 2.1 | 45 | 物 | 灰白 | 60 | 密 外側に履き目がみえる |
| 29 | 50SE3 3層 西半 | D3 | 9.5 | — | 1.8 | 45 | 物 | 灰白 | 60 | やや粗 胎土に金雲母、海綿状骨針混入 |
| 30 | 50SE3 3層 東半 | D3 | 9.2 | — | 2.3 | 60 | 物 | 灰白 | 100 | 密 |
| 31 | 50SE3 3層 | D3 | 9.1 | — | 2.3 | 35 | 指・皮 | 灰白 | 50 | 密 胎土に金雲母わざかに混入 |
| 32 | 50SE3 3層 P17 | D3 | 8.6 | — | 1.5 | 45 | 不明 | 灰白 | 100 | 密 内外面摩耗している |
| 33 | 50SE3 3層 東半 | D3 | 9.0 | — | 2.1 | 30 | 物 | 灰白 | 40 | |
| 34 | 50SE3 3d層 P14 | D3 | 13.9 | — | 3.0 | 190 | 指 | 灰黄 | 100 | 密 口縁外側にわざかに油煙付着 |
| 35 | 50SE3 3層 P26 | D3 | 14.3 | — | 3.3 | 195 | 指 | 灰黄 | 100 | 密 内外面油煙付着 |
| 36 | 50SE3 3d層 P36 | D3 | 14.9 | — | 2.6 | 95 | 物 | 灰白 | 50 | 密 外側に履き目 胎土に金雲母混入 |
| 37 | 50SE3 3層 P3 | D3 | 13.8 | — | 2.6 | 20 | 指 | 謙黄 | 10 | 密 |
| 38 | 50SE3 3層 | D3 | 15.1 | — | 2.7 | 60 | 指 | 灰白 | 60 | 密 内外面摩耗著しい |
| 39 | 50SE3 3層 | D3 | 13.6 | — | 3.4 | 65 | 指・ \hookrightarrow 指 | 灰白 | 40 | 密 内底面へラジ調整、口縁内面指調整 |
| 40 | 50SE3 3層 | D3 | 14.4 | — | 3.0 | 60 | 物 | 黄灰 | 20 | 密 口縁内面油煙付着 |
| 41 | 50SE3 3層 | D3 | 14.0 | — | 2.7 | 60 | 物 | 謙黄 | 20 | 密 内口縁部に油煙付着 胎土に金雲母混入 |
| 42 | 50SE3 3層 | D3 | 15.5 | — | 3.0 | 60 | 物 | 謙黄 | 40 | 密 内口縁部に油煙付着 胎土に金雲母混入 |
| 43 | 50SE3 3層 東半 | D3 | 11.7 | — | 1.9 | 80 | 物 | 灰白 | 60 | 密 内外面油煙付着に付着 |
| 44 | 50SE3 3d層 P13 | D4 | 14.0 | — | 3.0 | 150 | 指 | 謙黄 | 100 | 密 内口縁部に油煙付着 |
| 45 | 50SE3 3層 P26 | D4 | 14.9 | — | 3.1 | 200 | 物 | 灰白 | 100 | 密 内外面へラジ調整、口縁内面指調整 |
| 46 | 50SE3 3層 P10 | D4 | 13.8 | — | 2.9 | 115 | 指・ \hookrightarrow 指 | 灰白 | 80 | 密 内外面に油煙付着 |
| 47 | 50SE3 3層 P6 | D4 | 15.0 | — | 3.0 | 185 | 物 | 灰白 | 100 | やや粗 胎土に金雲母、海綿状骨針混入 |
| 48 | 50SE3 3層 P7 | D4 | 14.3 | — | 3.0 | 70 | 物 | 灰白 | 25 | やや粗 胎土に金雲母、海綿状骨針混入 |
| 49 | 50SE3 3層 | D4 | 14.8 | — | 3.3 | 85 | 物 | 謙黄 | 50 | 密 胎土に金雲母、海綿状骨針わざかに混入 |
| 50 | 50SE3 3層 西半 | D4 | 13.8 | — | 3.1 | 95 | 指・ \hookrightarrow 指 | 灰白 | 60 | 密 胎土に海綿状骨針混入 |
| 51 | 50SE3 3層 P32 | 物 | 9.2 | 5.8 | 2.2 | 65 | 物 | 灰白 | 80 | 指(骨針多) |
| 52 | 50SE3 3層 | 物 | 8.9 | 6.2 | 1.6 | 40 | 物 | 褐灰 | 60 | 粗(骨針多) |
| 53 | 50SE3 3層 | 物 | 14.2 | 7.1 | 3.6 | 170 | 物 | にじ謙黄 | 90 | 粗(骨針多) 内外面摩耗している |
| 54 | 50SE3 3層 P8 | 物 | 13.9 | 6.6 | 3.5 | 170 | 物 | 灰白 | 50 | 粗(骨針多) |
| 55 | 50SE3 3層 P20 | 物 | 14.4 | 6.9 | 3.6 | 265 | 物(△) | 灰白 | 100 | 粗(骨針多) 胎土に小豆大の難(個)混入 |
| 56 | 50SE3 P1 | 物 | 14.5 | 5.8 | 3.0 | 195 | 物 | 灰白 | 100 | 粗(骨針多) |
| 57 | 50SE3 3層 西半 | 物 | 13.8 | 6.6 | 3.8 | 100 | 物 | 灰黄 | 50 | 粗(骨針多) 内外面摩耗している |
| 58 | 50SE3 3層 西半 | 物 | 14.3 | 6.2 | 3.1 | 90 | 物 | にじ謙黄 | 40 | 粗(骨針多) 内外面油煙わざかに付着 |
| 59 | 50SE3 3層 西半 | 物 | 15.2 | 9.0 | 3.1 | 175 | 物 | 灰白 | 70 | 粗(骨針多) 外側にやや摩耗 |
| 60 | 50SE3 3層 西半 | 物 | 14.3 | 7.2 | 3.7 | 210 | 物(△) | にじ謙黄 | 100 | 粗(骨針多) 内外面やや摩耗している |
| 61 | 50SE3 3層 P4 | 物 | 13.5 | 7.6 | 3.4 | 50 | 物 | 25 | 粗(骨針多) 内外面摩耗している | |
| 62 | 50SE3 3層 P9 | 物 | 14.7 | 6.3 | 2.4 | 65 | 物 | 50 | 粗(骨針多) 内外面非常に摩耗している | |
| 63 | 37SE2 底面NO.7 | C3 | 12.7 | — | (3.0) | 140 | 物 | 灰白 | 100 | 胎土に金雲母わざかに混入 |

| 番号 | 出 土 位 置 | 分類 | 法量(cm) | | | 内面 ナメ | 色調 | 透視度 (%) | 胎土 | 備 考 |
|-----|-------------------|----|--------|-----|-------|----------|-----|------------|-----|-----------------------|
| | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | | |
| 64 | 37SE2 1層 北半 | C3 | 15.3 | — | 3.4 | 145 | 指 | 淡黄 | 60 | やや粗 胎土に海綿状骨針わずかに混入 |
| 65 | 37SE2 1層 NO.9 | C3 | 14.8 | — | (2.8) | 15 | 指 | 灰黄 | 5 | 密 |
| 66 | 37SE2 5層 南半 | C3 | 14.5 | — | 3.0 | 70 | 指 | 灰白 | 40 | 密 |
| 67 | 37SE2 底面NO.11 | C5 | 14.3 | — | (3.0) | 50 | 指 | 灰白 | 15 | 密 |
| 68 | 37SE2 底面NO.4 | C5 | 13.7 | — | 2.8 | 95 | 指 | 灰白 | 50 | やや粗 胎土に細砂少量化入 |
| 69 | 37SE2 底面NO.13 | D4 | 15.0 | — | 3.4 | 135 | 指~△ | 灰白 | 60 | 密 内面にヘラ調整 口縁部指による調整 |
| 70 | 37SE2 底面NO.2 | C5 | 14.8 | — | 3.2 | 230 | 指~△ | 灰白 | 90 | やや粗 胎土に海綿状骨針、細砂少量化入 |
| 71 | 37SE2 底面NO.16 | D3 | 10.0 | — | 1.6 | 80 | 指 | 黄灰 | 100 | やや粗 胎土に海綿状骨針わずかに混入 |
| 72 | 37SE2 底面 | D3 | 9.7 | — | 1.8 | 65 | 指 | 灰白 | 95 | やや粗 胎土に海綿状骨針わずかに混入 |
| 73 | 37SE2 底面 | D3 | 9.8 | — | 2.1 | 75 | 指 | 灰黄 | 60 | やや粗 胎土に砂粒少量化入 |
| 74 | 37SE2 5層 南半 | D3 | 10.2 | — | 1.7 | 50 | 指 | 灰黄 | 60 | やや粗 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 75 | 37SE2 底面NO.5 | D3 | 15.7 | — | 3.2 | 240 | 指 | 灰白 | 100 | 密 |
| 76 | 37SE2 底面NO.6 | D3 | 14.1 | — | 3.3 | 220 | 指 | 灰白 | 100 | やや粗 胎土に砂粒少量化入 |
| 77 | 37SE2 底面NO.14.N.3 | D3 | 15.7 | — | 3.0 | 230 | 指 | 灰白 | 100 | やや粗 胎土に砂粒少量化入 |
| 78 | 37SE2 底面NO.10 | D3 | 14.5 | — | 3.2 | 210 | 指 | 褐灰 | 95 | やや粗 胎土に油煙厚く付着 |
| 79 | 37SE2 底面 | D3 | 13.8 | — | 2.8 | 190 | 指 | 灰黄 | 95 | 密 内面に油煙厚く付着 |
| 80 | 37SE2 底面NO.1 | D3 | 14.9 | — | 3.0 | 150 | 指 | 灰白 | 60 | やや粗 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 81 | 37SE2 9層 | D3 | 14.1 | — | 3.0 | 80 | 指 | 灰白 | 40 | やや粗 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 82 | 37SE2 9層 | D3 | 16.0 | — | 3.3 | 190 | 指 | 灰白 | 70 | やや粗 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 83 | 37SE2 底面 | D3 | 16.4 | — | 2.8 | 90 | 指 | 褐灰 | 40 | 密 外面に黒目が残る |
| 84 | 37SE2 2層 北半 | D3 | 12.8 | — | 2.5 | 80 | 指 | 浅黄橙 | 60 | 密 胎土に金雲母わずかに混入 |
| 85 | 37SE2 底面NO.8 | D4 | 15.2 | — | 2.3 | 240 | 指 | 浅黄 | 100 | 密 帽厚く浮きぼつたい |
| 86 | 37SE2 NO.1 | △ | 8.3 | 6.0 | 1.7 | 60 | □ | にじ黒帯 | 95 | 粗(骨針多) 胎土に砂がはこんど混じらない |
| 87 | 37SE2 2層 下半南 | △ | 12.6 | 7.2 | 4.0 | 150 | □ | 橙 | 60 | 粗(骨針多) 口縁部が角張る |
| 88 | 37SE2 1層 北半 | △ | 13.9 | 7.4 | 4.0 | 160 | □ | 橙 | 60 | 粗(細砂多) 口縁部が角張る |
| 89 | 37SE2 2層 下半南 | △ | 12.8 | 7.2 | 2.6 | 120 | □ | 浅黄橙 | 60 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 90 | 37SE2 NO.3 | △ | 14.1 | 7.4 | 4.0 | 235 | □ | にじ黒帯 | 80 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 91 | 37SE2 北半 | △ | 13.6 | 6.7 | 4.5 | 170 | □ | 浅黄橙 | 60 | 粗(細砂多) 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 92 | 37SE2 底面NO.15 | △ | 14.3 | 7.1 | 3.2 | 170 | □ | にじ黒帯 | 80 | 粗(骨針多) 胎土に砂がはこんど混じらない |
| 93 | 37SE2 1層 南半 | △ | 14.2 | 6.8 | 3.3 | 110 | □ | 浅黄橙 | 50 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 94 | 50SE1 NO.3 | △ | 9.4 | 6.8 | 1.9 | 40 | □ | 淡黄 | 30 | 粗(細砂多) 内外面摩耗 |
| 95 | 50SE1 NO.3 | △ | 8.8 | 6.3 | 1.6 | 50 | □ | 浅黄橙 | 80 | 粗(細砂多) 全体にゆかんでいる |
| 96 | 50SE1 NO.9 | △ | 9.9 | 7.2 | 1.9 | 50 | □ | 浅黄橙 | 60 | 粗(細砂多) 内外面摩耗 |
| 97 | 50SE1 NO.12 | △ | 9.0 | 6.3 | 1.9 | 40 | □ | 浅黄橙 | 60 | 粗(細砂多) 内外面摩耗 |
| 98 | 50SE1 NO.13 | △ | 9.8 | 6.9 | 1.7 | 40 | □ | にじ黒帯 | 70 | 粗(骨針多) 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 99 | 50SE1 NO.13 | △ | 9.0 | 6.2 | 2.0 | 40 | □ | 淡黄 | 60 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 100 | 50SE1 NO.13 | △ | 9.5 | 6.1 | 1.8 | 40 | □ | 浅黄橙 | 60 | 粗(骨針多) 胎土に砂がはこんど混じらない |
| 101 | 50SE1 NO.13 | △ | 10.6 | 7.0 | 1.8 | 30 | □ | 浅黄橙 | 30 | 粗(細砂多) 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 102 | 50SE1 NO.13 | △ | 9.9 | 7.3 | 2.2 | 90 | □ | にじ黒帯 | 70 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 103 | 50SE1 NO.14 | △ | 8.9 | 5.2 | 1.8 | 50 | □ | 浅黄橙 | 80 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 104 | 50SE1 NO.15 | △ | 9.0 | 6.6 | 1.8 | 60 | □ | 浅黄橙 | 70 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 105 | 50SE1 NO.19 | △ | 7.7 | 6.0 | 1.7 | 20 | □ | にじ黒帯 | 20 | 粗(骨針多) 胎土に砂がはこんど混じらない |
| 106 | 50SE1 NO.14 | C3 | 15.3 | — | 3.2 | 70 | 指 | 淡黄 | 40 | 密 内面に油煙付着 |
| 107 | 50SE1 NO.1 | △ | 14.6 | 6.3 | 4.0 | 100 | □ | 浅黄橙 | 50 | 粗(細砂多) 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 108 | 50SE1 NO.2 | △ | 15.4 | 7.9 | 3.4 | 210 | □ | 浅黄 | 80 | 粗(骨針多) 胎土に砂はほとんど含まない |
| 109 | 50SE1 NO.4 | △ | 13.8 | 7.0 | 3.1 | 215 | □ | 浅黄橙 | 100 | 粗(骨針多) ほとんど摩耗していない |
| 110 | 50SE1 NO.5 | △ | 15.8 | 8.5 | 3.1 | 210 | □ | 浅黄橙 | 70 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 111 | 50SE1 NO.6 | △ | 15.4 | 8.0 | 3.5 | 170 | □ | 灰白 | 60 | 粗(細砂多) 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 112 | 50SE1 NO.7 | △ | 15.0 | 8.2 | 3.2 | 210 | □ | 浅黄橙 | 80 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 113 | 50SE1 NO.8 | △ | 15.3 | 8.0 | 4.0 | 230 | □ | 浅黄橙 | 60 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 114 | 50SE1 NO.8 | △ | 15.0 | 7.0 | 3.8 | 150 | □ | 浅黄橙 | 50 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 115 | 50SE1 NO.9 | △ | 15.1 | 8.7 | 3.4 | 240 | □ | 灰白 | 60 | 粗(細砂多) 内外面摩耗 |
| 116 | 50SE1 NO.9 | △ | — | 8.0 | (3.0) | 160 | □ | 浅黄 | 60 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 117 | 50SE1 NO.10 | △ | 14.4 | — | (3.4) | 50 | □ | 浅黄橙 | 20 | 粗(骨針多) 浅黄(細砂) 外面摩耗 |
| 118 | 50SE1 NO.11 | △ | 14.0 | 7.5 | 3.8 | 220 | □ | 淡黄 | 90 | 粗(細砂多) 内外面摩耗 |
| 119 | 50SE1 NO.12 | △ | 15.2 | 7.3 | 3.4 | 190 | □ | 浅黄橙 | 90 | 粗(細砂多) 内外面摩耗 |
| 120 | 50SE1 NO.13 | △ | 16.0 | 7.8 | 3.4 | 150 | □ | 浅黄橙 | 60 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 121 | 50SE1 NO.13 | △ | 14.7 | 6.5 | 4.4 | 300 | □ | 浅黄橙 | 100 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 范図ゆかんでいる |
| 122 | 50SE1 NO.14 | △ | 15.0 | 6.5 | 3.6 | 100 | □ | 浅黄橙 | 50 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 123 | 50SE1 NO.16 | △ | 15.2 | 7.3 | 3.6 | 90 | □ | 浅黄橙 | 40 | 粗(骨針多) 胎土に砂をはとんど含まない |
| 124 | 50SE1 NO.17 | △ | 14.3 | 6.0 | 3.0 | 80 | □ | 浅黄橙 | 30 | 粗(細砂多) 内外面摩耗 |
| 125 | 50SE1 NO.18 | △ | 14.5 | 6.5 | 3.9 | 225 | □ | 浅黄橙 | 70 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量化入 |
| 126 | 50SE1 1層 | △ | 14.7 | 8.0 | 3.6 | 120 | □ | 浅黄橙 | 50 | 粗(骨針多) 胎土に細砂をはとんど含まない |

| 番号 | 出 土 位 置 | 分類 | 法量(cm) | | | 内面 ナード | 色調 | 透視度 (%) | 胎土 | 備 考 |
|-----|-----------|----|--------|-----|-----|-----------|------|------------|-----|-----------------------|
| | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | | |
| 127 | 505D8 集中東 | C3 | 8.8 | — | 1.8 | 40 | 指 | 灰白 | 60 | やや粗 胎土に海綿状骨針少量混入 |
| 128 | 505D8 集中東 | C3 | 10.8 | — | 1.8 | 70 | 不明 | 灰白 | 95 | やや粗 内外面摩耗 胎土骨針少量混入 |
| 129 | 505D8 集中東 | C3 | 15.8 | — | 3.5 | 200 | 指 | 灰白 | 100 | やや粗 内外面摩耗 |
| 130 | 505D8 集中東 | C3 | 15.4 | — | 3.1 | 190 | 指 | 灰白 | 95 | やや粗 内外面摩耗 |
| 131 | 505D8 集中東 | C3 | 16.0 | — | 3.4 | 190 | 指 | 灰白 | 70 | やや粗 内外面摩耗 |
| 132 | 505D8 集中東 | C3 | 14.9 | — | 2.6 | 170 | 指 | 灰白 | 90 | 密 外面摩耗 |
| 133 | 505D8 集中東 | C4 | 14.6 | — | 3.2 | 70 | 指 | 灰白 | 25 | 密 体部外面に崩れ目あり |
| 134 | 505D8 墓上 | C4 | 13.8 | — | 2.8 | 60 | 指 | 浅黄褐 | 30 | 密 器形ゆかいでいる |
| 135 | 505D8 集中東 | D3 | 15.0 | — | 3.0 | 80 | 指 | 浅黄褐 | 60 | 密 内外面摩耗 |
| 136 | 505D8 墓上 | C5 | 15.7 | — | 3.9 | 150 | 指 | 灰白 | 70 | 密 外面やや摩耗 |
| 137 | 505D8 集中東 | C5 | 13.6 | — | 3.4 | 115 | 指 | 灰白 | 60 | 密 内外面摩耗 |
| 138 | 505D8 集中東 | D3 | 10.1 | — | 2.1 | 45 | 指 | 浅黄褐 | 60 | 密 内外面摩耗 |
| 139 | 505D8 集中東 | D3 | 8.8 | — | 1.8 | 50 | 指 | 灰白 | 60 | やや粗 胎土に海綿状骨針わずかに混入 |
| 140 | 505D8 集中東 | D3 | 15.2 | — | 3.6 | 220 | 指・ヘラ | 灰白 | 10 | 密 内底面へラ調整、口縁内面筋調整 |
| 141 | 505D8 集中東 | D3 | 15.6 | — | 3.7 | 235 | 指・ヘラ | 灰白 | 95 | 密 内底面へラ調整、口縁内面筋調整 |
| 142 | 505D8 集中東 | D4 | 15.4 | — | 3.4 | 210 | 指・ヘラ | 灰白 | 100 | 密 内底面へラ調整、口縁内面筋調整 |
| 143 | 505D8 集中東 | 匁 | 8.4 | 5.3 | 1.7 | 50 | 吻 | 浅黄褐 | 70 | 粗(骨針多) 器形ゆかいでいる |
| 144 | 505D8 集中東 | 匁 | 9.5 | 5.4 | 2.0 | 80 | 吻 | 浅黄褐 | 70 | 粗(骨針多) 胎土に細砂も少量に含む |
| 145 | 505D8 集中東 | 匁 | 9.3 | 6.2 | 1.8 | 70 | 吻 | 灰白 | 80 | 粗(細砂多) 胎土に海綿状骨針も少量に含む |
| 146 | 505D8 墓上 | 匁 | 9.9 | 7.3 | 1.6 | 50 | 吻 | 浅黄褐 | 50 | 粗(細砂多) 胎土に海綿状骨針も少量に含む |
| 147 | 505D8 墓上 | 匁 | 8.9 | 5.1 | 1.7 | 50 | 吻 | にぬき痕 | 70 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 148 | 505D8 墓上 | 匁 | 9.2 | 5.9 | 2.0 | 60 | 吻 | 淡褐 | 80 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 149 | 505D8 墓上 | 匁 | 14.1 | 5.8 | 1.5 | 60 | 吻 | 淡褐 | 100 | 粗(骨針多) 胎土に海綿状骨針少量混入 |
| 150 | 505D8 集中西 | 匁 | 9.2 | 6.5 | 1.5 | 60 | 吻 | 褪 | 80 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量に含む |
| 151 | 505D8 集中東 | 匁 | 8.3 | 6.1 | 1.6 | 90 | 吻 | 浅黄褐 | 95 | 粗(骨針多) 内外面摩耗している |
| 152 | 505D8 集中西 | 匁 | 9.6 | 7.4 | 1.6 | 45 | 吻 | 浅黄褐 | 60 | 粗(骨針多) 胎土に細砂ほとんど混入しない |
| 153 | 505D8 集中東 | 匁 | 9.9 | 6.5 | 1.8 | 90 | 吻 | 灰白 | 95 | 粗(骨針多) 内外面摩耗している |
| 154 | 505D8 集中東 | 匁 | 8.4 | 5.8 | 1.2 | 40 | 吻 | 浅黄褐 | 70 | 粗(骨針多) 内外面摩耗している |
| 155 | 505D8 集中西 | 匁 | 13.9 | 6.6 | 1.5 | 60 | 吻 | 淡褐 | 80 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 156 | 505D8 集中東 | 匁 | 9.3 | 4.5 | 1.9 | 60 | 吻 | 灰白 | 50 | 粗(骨針多) 胎土に細砂ほとんど混入しない |
| 157 | 505D8 集中西 | 匁 | 9.7 | 5.3 | 1.9 | 70 | 吻 | 褪 | 100 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 158 | 505D8 集中東 | 匁 | 8.9 | 6.6 | 1.2 | 60 | 吻 | 浅黄褐 | 80 | 粗(骨針多) 胎土に細砂ほとんど混入しない |
| 159 | 505D8 集中東 | 匁 | 9.6 | 5.2 | 1.7 | 90 | 吻 | 浅黄褐 | 95 | 粗(骨針多) 胎土に海綿状骨針少量化入 |
| 160 | 505D8 墓上 | 匁 | 9.4 | 4.8 | 2.4 | 80 | 吻 | 灰白 | 95 | 粗(骨針多) 底部が突き出る |
| 161 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.6 | 6.6 | 3.7 | 235 | 吻 | にぬき痕 | 90 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 162 | 505D8 集中東 | 匁 | 15.0 | 8.7 | 3.7 | 120 | 吻 | 浅黄褐 | 40 | 粗(骨針多) 胎土に細砂の痕はほとんどなし |
| 163 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.4 | 9.0 | 3.3 | 80 | 吻 | 浅黄褐 | 80 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 164 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.4 | 8.2 | 3.5 | 140 | 吻 | 浅黄褐 | 50 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 165 | 505D8 集中西 | 匁 | 14.0 | 6.7 | 3.6 | 100 | 吻 | 浅黄褐 | 40 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 166 | 505D8 集中西 | 匁 | 13.9 | 8.0 | 3.5 | 90 | 吻 | 浅黄褐 | 40 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 167 | 505D8 集中西 | 匁 | 14.7 | 8.0 | 3.0 | 220 | 吻 | 浅黄褐 | 100 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 168 | 505D8 集中西 | 匁 | 14.3 | 7.0 | 3.8 | 195 | 吻 | 浅黄褐 | 90 | 粗(骨針多) 胎土に海綿状骨針少量混入 |
| 169 | 505D8 墓上 | 匁 | 14.3 | 7.4 | 3.5 | 140 | 吻 | 浅黄褐 | 50 | 粗(骨針多) ほとんど摩耗していない |
| 170 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.5 | 6.8 | 3.4 | 180 | 吻 | 浅黄褐 | 100 | 粗(骨針多) 胎土に細砂の痕はほとんどない |
| 171 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.2 | 6.5 | 3.8 | 90 | 吻 | 淡褐 | 40 | 粗(骨針多) 胎土に細砂の痕はほとんどない |
| 172 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.6 | 6.0 | 3.3 | 100 | 吻 | 浅黄褐 | 40 | 粗(骨針多) 胎土に細砂の痕はほとんどない |
| 173 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.6 | 5.6 | 3.5 | 85 | 吻 | 浅黄褐 | 50 | 粗(骨針多) 胎土に細砂の痕はほとんどない |
| 174 | 505D8 集中西 | 匁 | 15.4 | 8.4 | 4.0 | 110 | 吻 | 褪 | 40 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 175 | 505D8 集中東 | 匁 | 13.1 | 7.5 | 3.1 | 100 | 吻 | 灰白 | 50 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 176 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.0 | 8.0 | 3.4 | 220 | 吻 | 浅黄褐 | 95 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 177 | 505D8 集中西 | 匁 | 14.0 | 6.2 | 2.7 | 80 | 吻 | 浅黄褐 | 40 | 粗(骨針多) 内外面摩耗している |
| 178 | 505D8 集中東 | 匁 | 15.0 | 5.7 | 3.3 | 170 | 吻 | 浅黄褐 | 80 | 粗(骨針多) 内外面摩耗している |
| 179 | 505D8 集中東 | 匁 | 15.0 | 7.5 | 3.5 | 235 | 吻 | 浅黄褐 | 90 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 180 | 505D8 集中東 | 匁 | 16.0 | 8.0 | 4.0 | 190 | 吻 | 浅黄褐 | 70 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 181 | 505D8 集中東 | 匁 | 15.0 | 7.1 | 3.3 | 145 | 吻 | 浅黄褐 | 50 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 182 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.5 | 6.4 | 3.4 | 200 | 吻 | 灰白 | 80 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 183 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.8 | 7.8 | 2.9 | 205 | 吻 | 浅黄褐 | 100 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 184 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.5 | 9.5 | 3.2 | 230 | 吻 | 淡褐 | 90 | 粗(骨針多) 胎土に細砂の痕はほとんどない |
| 185 | 505D8 集中東 | 匁 | 13.8 | 7.4 | 3.0 | 160 | 吻 | 浅黄褐 | 90 | 粗(骨針多) 内外面摩耗 |
| 186 | 505D8 集中東 | 匁 | 14.9 | 6.7 | 3.0 | 150 | 吻 | 灰白 | 70 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 187 | 505D8 集中西 | 匁 | 14.7 | 7.7 | 2.9 | 180 | 吻 | 浅黄褐 | 100 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |
| 188 | 505D8 集中東 | 匁 | 15.1 | 7.5 | 4.0 | 175 | 吻 | 浅黄褐 | 95 | 粗(骨針多) 胎土に細砂ほとんど混入しない |
| 189 | 505D8 集中西 | 匁 | 15.0 | 8.4 | 3.6 | 225 | 吻 | 褪 | 90 | 粗(骨針多) 胎土に細砂少量混入 |

| 番号 | 出 土 位 置 | 分類 | 法量(cm) | | | | 内面 ナデ | 色調 | 透視度 (%) | 胎土 | 備 考 |
|-----|--------------------|----|--------|-----|-------|------|----------|------|------------|--------|----------------|
| | | | 口径 | 底径 | 高さ | 重き回数 | | | | | |
| 190 | 50SD8 集中西 | 吻口 | 14.5 | 6.8 | 3.3 | 100 | 吻口 | 浅黄褐色 | 60 | 粗(骨針多) | 内外面摩耗 |
| 191 | 50SD8 集中東 | 吻口 | 14.4 | 5.8 | 3.6 | 175 | 吻口 | 浅黄褐色 | 80 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂少量混入 |
| 192 | 50SD8 集中東 | 吻口 | 14.8 | 6.8 | 4.1 | 205 | 吻口 | 灰白 | 90 | 粗(骨針多) | 胎土上に細砂少量混入 |
| 193 | 50SD8 集中東 | 吻口 | 12.5 | 6.1 | 3.8 | 200 | 吻口 | 淡褐色 | 95 | 粗(骨針多) | 内部が突き出している |
| 194 | 50SB3 P116埋土 | C3 | 14.4 | — | 3.0 | 175 | 指 | 灰白 | 100 | 密 | 外側わずかに摩耗 |
| 195 | 50SB3 P116埋土 | C3 | 13.3 | — | 2.8 | 225 | 指 | 浅黄褐色 | 100 | 密 | 器形ゆがんでいる |
| 196 | 50SB3 PP23 | C3 | 14.0 | — | 2.6 | 170 | 指 | 浅黄褐色 | 100 | 密 | 胎土に海綿状骨針少量混入 |
| 197 | 50SB3 P116埋土 | C5 | 15.0 | — | 2.9 | 120 | 指 | 灰白 | 70 | 密 | 外側に織ぎ目残る |
| 198 | 50SB3 PP14 | C5 | 13.5 | — | 2.7 | 25 | 指 | 灰白 | 10 | 密 | |
| 199 | 50SB3 PP116埋土 | D2 | 13.7 | — | 3.3 | 200 | 指 | 灰白 | 100 | 密 | |
| 200 | 50SB3 PP9柱桿 | D3 | 8.8 | — | 2.1 | 30 | 指 | 灰白 | 50 | 粗(骨針多) | ロクロかわらけの胎土に似る |
| 201 | 50SB3 PP116埋土 | D3 | 14.3 | — | 2.9 | 150 | 指 | 浅黄褐色 | 90 | やや粗 | 胎土に海綿状骨針わずかに混入 |
| 202 | 50SB3 P116埋土 | D4 | 14.8 | — | 3.1 | 135 | 指 | 灰白 | 60 | やや粗 | 胎土に海綿状骨針箇量混入 |
| 203 | 50SB3 PP23 | D4 | 14.6 | — | 3.1 | 195 | 指 | 浅黄褐色 | 100 | やや粗 | 胎土に海綿状骨針箇量混入 |
| 204 | 50SB3 PP50 | 吻口 | 12.9 | 6.3 | 3.3 | 50 | 吻口 | 褐色 | 25 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂の混入はとんどない |
| 205 | 50SA1(88-63) 墓土 | C3 | 12.8 | — | 2.9 | 25 | 指 | 灰白 | 5 | やや粗 | 胎土に海綿状骨針少量混入 |
| 206 | 50SA1(88-63) 墓土 | C5 | 13.8 | — | 2.8 | 35 | 指 | 灰白 | 5 | 密 | |
| 207 | 50SD1 墓土 | C5 | 14.0 | — | 2.8 | 50 | 指 | 灰白 | 10 | 密 | |
| 208 | 50SA10 墓土上部(88-69) | D3 | 8.4 | — | 1.3 | 20 | 指 | 灰白 | 20 | やや粗 | 胎土に海綿状骨針わずかに混入 |
| 209 | 50SK1 墓土 | D3 | 14.4 | — | 2.5 | 40 | 指 | 灰白 | 15 | やや粗 | 内外面摩耗している |
| 210 | 50SA1(88-63) 東側埋土 | D3 | 16.4 | — | 2.9 | 25 | 指 | 灰白 | 10 | 密 | 外側に油付付着 |
| 211 | 50SK2 墓土 | D4 | 9.4 | — | 1.6 | 50 | 指 | 灰白 | 100 | 密 | 体面部に織ぎ目痕あり |
| 212 | 50SD1 墓土 | D4 | 15.0 | — | 2.8 | 25 | 指 | 灰白 | 5 | 密 | |
| 213 | 50SA1 墓土(88-63) | 吻口 | 9.6 | 5.1 | 1.9 | 50 | 吻口 | 浅黄褐色 | 70 | 粗(磁砂多) | 胎土に海綿状骨針少量混入 |
| 214 | 50SD1 墓土 | 吻口 | 8.4 | 7.0 | 1.8 | 214 | 吻口 | 浅黄褐色 | 40 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂の混入はとんどない |
| 215 | 50SK3 1層 | 吻口 | 8.4 | 6.1 | 1.7 | 25 | 吻口 | 浅黄褐色 | 40 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂の混入はとんどない |
| 216 | 50SE2 上層 | 吻口 | 8.2 | 5.1 | 1.5 | 40 | 吻口 | 灰白 | 70 | 輕削(剥離) | 内外面摩耗している |
| 217 | 50SK3 1層 | 吻口 | 9.0 | 5.8 | 1.8 | 45 | 吻口 | 浅黄褐色 | 60 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂の混入はとんどない |
| 218 | 50SK3 1層 | 吻口 | 8.8 | 5.2 | 1.8 | 35 | 吻口 | 浅黄褐色 | 50 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂の混入はとんどない |
| 219 | 50SA2 墓土 | 吻口 | — | 5.9 | (1.4) | 25 | 吻口 | 浅黄褐色 | 50 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂の混入はとんどない |
| 220 | 50SA2 墓土 | 吻口 | — | 6.4 | (1.6) | 10 | 吻口 | 浅黄褐色 | 5 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂の混入はとんどない |
| 221 | 50SK3 1層 | 吻口 | 13.1 | 5.2 | 3.7 | 115 | 吻口 | 浅黄褐色 | 40 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂はとんど混入しない |
| 222 | 50SK3 1層 | 吻口 | 15.6 | 6.1 | 4.5 | 145 | 吻口 | 灰白 | 50 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂の混入はとんどない |
| 223 | 50SA1 墓土(88-63) 東側 | 吻口 | 13.1 | 8.0 | 3.1 | 35 | 吻口 | 浅黄褐色 | 10 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂少量混入 |
| 224 | 50SA1 墓土(88-63) 東側 | 吻口 | 13.8 | 7.0 | 3.8 | 70 | 吻口 | 浅黄褐色 | 30 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂はとんど混入しない |
| 225 | 50SE2 1層 | 吻口 | 13.8 | 5.6 | 4.1 | 55 | 吻口 | 灰白 | 25 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂はとんど混入しない |
| 226 | 50SA1 墓土(88-63) | 吻口 | 12.9 | 6.5 | 3.9 | 30 | 吻口 | 灰白 | 15 | 粗(骨針多) | 胎土に細砂の混入はとんどない |

| 番号 | 種類 | 断面 | 部位 | 出土位置 | 年代など | 色調 | その他 |
|------|----|--------|------|-----------------|------|-------|--------------------|
| 1001 | 常滑 | 片口鉢 | 身下 | 37SE2 2層 | 12C | 灰褐色 | 内面摩耗している |
| 1002 | 常滑 | 片口鉢 | 体部 | 90-65検出時 | 12C | 明赤褐 | 1001と同 側体か 内面摩耗 |
| 1003 | 常滑 | 片口鉢 | 体部 | 42SD1 墓土(85-69) | 12C | 赤褐色 | 1001, 1002と同 側体か |
| 1004 | 常滑 | 片口鉢 | 口縁部 | 50SB1 布施中 | 3型式? | 灰 | 口唇部面取りなし 内面自然釉 |
| 1005 | 常滑 | 片口鉢 | 体部 | 98-69検出時 | 3型式? | 灰 | 口唇部面取りなし |
| 1006 | 常滑 | 片口鉢 | 体部 | 87-63検出時 | 12C | 灰 | 内面摩耗著しい |
| 1007 | 常滑 | 片口鉢 | 体部 | 50SB1 布施中 | 12C | 灰 | 内面や摩耗 |
| 1008 | 常滑 | 片口鉢 | 体部 | 37SD9 墓土(90-62) | 12C | 灰 | 内面や摩耗 |
| 1009 | 常滑 | 三筋帯 体下 | 底 | 81-62 ベルトカット | 12C | にぶい赤褐 | 沈線は細い・横目状か? |
| 1010 | 常滑 | 広口壺 | 口縁部 | 50SE3 3層 | 12C | にぶい赤褐 | 口縁内面に沈線状のくぼみがない |
| 1011 | 常滑 | 広口壺 | 口縁部 | 91-62 検出時 | 12C | にぶい褐 | 口縁内面に沈線状のくぼみがある |
| 1012 | 常滑 | 広口壺 | 肩部 | 37SE1 1層 | 12C | 暗オリーブ | 37SE1は現代のからん 外面自然釉 |
| 1013 | 常滑 | 広口壺 | 各部上半 | 37SD9 墓土(88-69) | 12C | 地 | 器厚か 手びばついた 外面自然釉 |
| 1014 | 常滑 | 広口壺 | 体部上半 | 37SE2 2層 下部南半 | 12C | 晴灰黄 | 外面上半自然釉 |
| 1015 | 常滑 | 広口壺 | 体部上半 | 87-67 検出時 | 12C | オリーブ | 外外面自然釉 |
| 1016 | 常滑 | 広口壺 | 体部下半 | 96-68 検出時 | 12C | 灰 | |
| 1017 | 常滑 | 広口壺 | 体部上半 | 37SE1 墓土 | 12C | 暗オリーブ | 外外面自然釉 |
| 1018 | 常滑 | 広口壺 | 体部 | 85-62 表土 | 12C | 灰オリーブ | |
| 1019 | 常滑 | 広口壺 | 体部 | 42SD1 墓土 | 12C | 灰オリーブ | 外外面自然釉 |
| 1020 | 常滑 | 広口壺 | 体部 | 87-62 表土 | 12C | 灰オリーブ | 外外面自然釉 |
| 1021 | 常滑 | 広口壺 | 体部上半 | 93-67 検出時 | 12C | 暗オリーブ | 外外面自然釉 |

| 番号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 年代など | 色調 | その他 |
|------|----|------|------|------------------|------|-------|---------------------------|
| 1022 | 常滑 | 甕 | 体部上半 | 50SD2 墓土 (93-67) | 16型式 | オリー・ブ | 粗い胎土 12C前半か |
| 1023 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 墓土 | 12C | 褐色 | 42SD1 墓土(85-67)からも出土 |
| 1024 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 墓土(85-67) | 12C | 褐色 | 1023と同じ 倒体 88-70表土からも出土 |
| 1025 | 常滑 | 甕 | 体ド・底 | 97-69 検出時 | 12C | 黒褐色 | 底部へ底辺部の破片 |
| 1026 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 97-69 検出時 | 12C | 黒褐色 | 1025と同じ 倒体 |
| 1027 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 1層 | 12C | 褐色 | 緻密な胎土 |
| 1028 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 87-62 表土 | 12C | 黒 | |
| 1029 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 90-64 検出時 | 12C | 褐色 | |
| 1030 | 常滑 | 甕 | 体部上半 | 98-69 検出時 | 12C | 灰オリーブ | 外面自然釉 |
| 1031 | 常滑 | 甕 | 体部上半 | 50SD2 墓土 (93-67) | 12C | オリー・ブ | 外面自然釉 |
| 1032 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 37SE2 3層 南面 | 12C | 褐色 | |
| 1033 | 常滑 | 甕 | 肩部 | 37SE1 墓土 | 12C | オリー・ブ | 外面自然釉 |
| 1034 | 常滑 | 甕 | 肩部 | 88-61 37SD2 墓土 | 12C | 灰 | 外面自然釉 |
| 1035 | 常滑 | 甕 | 体部上半 | 98-69 検出時 | 12C | 灰 | 外面摩耗? |
| 1036 | 常滑 | 甕 | 肩部 | 92-63 検出時 | 12C | 浅黄 | |
| 1037 | 常滑 | 甕 | 体部上半 | 50SD2 墓土 (93-67) | 12C | 暗オリーブ | 外面自然釉 |
| 1038 | 常滑 | 甕 | 体部上半 | 50SD2 墓土 (93-67) | 12C | 灰オリーブ | 器厚が薄く 広口甕の可能性もある |
| 1039 | 常滑 | 甕 | 体部上半 | 86-62 表土 | 12C | 灰オリーブ | |
| 1040 | 常滑 | 甕 | 体部上半 | 86-69 表土 | 12C | 灰オリーブ | |
| 1041 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 50SA1 墓土 (86-63) | 12C | 黒褐色 | 外面に自然釉の流れ |
| 1042 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 88-68 検出時 | 12C | 褐色 | 内外面摩滅 |
| 1043 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 50SD1 墓土 | 12C | に赤い黄 | |
| 1044 | 常滑 | 甕 | 体部上半 | 90-63 検出 | 12C | 褐色 | 外面に自然釉の流れ |
| 1045 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 89-64 頸裂 | 12C | 黒褐色 | 外面に窓付蓋 |
| 1046 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 墓土 | 12C | 褐色 | |
| 1047 | 常滑 | 甕 | 体部 | 95-68 検出時 | 12C | 褐色 | 内面に自然釉付蓋 |
| 1048 | 常滑 | 甕 | 体部 | 37SD9 墓土(90-62) | 12C | 灰 | |
| 1049 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 墓土(86-67) | 12C | 褐色 | |
| 1050 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 37SD9 墓土(91-62) | 12C | 灰 | 内外面摩滅 |
| 1051 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 50SD4 墓土 | 12C | 灰 | 内外面白自然釉 外面は自然釉が剥落 |
| 1052 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 50SE3 1~2層 | 12C | 灰 | 外面に指ナデによる調整 |
| 1053 | 常滑 | 甕 | 体部下半 | 87-63 検出時 | 12C | 褐色 | 内面自然釉 |
| 1054 | 常滑 | 甕 | 体部 | 37SD9 墓土(91-62) | 12C | に赤い褐 | |
| 1055 | 鹿美 | 齿突瓶? | 口縁部 | 50次調査区内表探 | 12C | 灰 | 片口部分のつけ根の破片 |
| 1056 | 鹿美 | 片口鉢 | 口縁部 | 50SE3 3層 | 12C | 灰 | 1057と同じ 倒体 |
| 1057 | 鹿美 | 片口鉢 | 体部 | 50SE3 3層 | 12C | 灰 | 圓筒合成で完成の状態を示した 内面著しく摩耗 |
| 1058 | 鹿美 | 片口鉢 | 体部 | 37SE1 墓土 | 12C | 灰 | 内面摩耗、外面にヘラケズリ調整がない |
| 1059 | 鹿美 | 片口鉢 | 体部下半 | 37SD9 墓土(90-62) | 12C | 灰白 | 内面摩耗 |
| 1060 | 鹿美 | 片口鉢 | 口縁部 | 50SE3 3層 | 12C | 灰 | 50SD2 墓土からも出土 1061と同じ 倒体 |
| 1061 | 鹿美 | 片口鉢 | 口縁部 | 50SE3 3層 | 12C | 灰 | 片口部付け根の破片 1068と1067と同じ 倒体 |
| 1062 | 鹿美 | 片口鉢 | 高台部 | 50SK1 墓土 | 12C | 灰白 | 高台部が削られたもの |
| 1063 | 鹿美 | 片口鉢 | 口縁部 | 50SB1 布編中 | 12C | 灰白 | 口縁部面取りあり |
| 1064 | 鹿美 | 片口鉢 | 口縁部 | 50SE3 1~2層 | 12C | 褐色 | 口縁部欠損 |
| 1065 | 鹿美 | 片口鉢 | 体部 | 50SD1 墓土 | 12C | 褐色 | 内面摩耗 |
| 1066 | 鹿美 | 片口鉢 | 高台部 | 50SK1 墓土 | 12C | 灰白 | 高台部が削られたもの |
| 1067 | 鹿美 | 片口鉢 | 高台部 | 50SK1 墓土 | 12C | 灰白 | 高台部が削られたもの |
| 1068 | 鹿美 | 壺 | 体下~底 | 50SD2 墓土 (93-67) | 12C | 灰白 | 外面底辺部に回転ヘラケズリ |
| 1069 | 鹿美 | 壺 | 肩部 | 93-66 検出時 | 12C | 灰オリーブ | 外面自然釉 |
| 1070 | 鹿美 | 壺 | 肩部 | 42SD1 墓土(85-68) | 12C | 灰オリーブ | 外面自然釉 |
| 1071 | 鹿美 | 壺 | 体部上半 | 93-67 検出時 | 12C | 灰オリーブ | 外面自然釉 |
| 1072 | 鹿美 | 壺 | 体部上半 | 37SD9 墓土(88-61) | 12C | 灰オリーブ | 外面自然釉 |
| 1073 | 鹿美 | 壺 | 体部下半 | 90-64 検出時 | 12C | 灰 | 1074と同じ 倒体 |
| 1074 | 鹿美 | 壺 | 体部下半 | 91-67 検出時 | 12C | 灰 | |
| 1075 | 鹿美 | 壺 | 体部下半 | 50SD1 布編中 | 12C | 灰 | 外面に自然釉の流れ |
| 1076 | 鹿美 | 壺 | 体部 | 50SE3 3層 | 12C | 灰 | 外面上半に自然釉 1077と同じ 倒体 |
| 1077 | 鹿美 | 壺 | 体部 | 50SE3 3層 | 12C | 灰 | 下側破断面に堆積 |
| 1078 | 鹿美 | 壺 | 体部下半 | 50SD5 墓土(85-67) | 12C | 灰白 | |
| 1079 | 鹿美 | 壺 | 体部下半 | 50次 調査区内表探 | 12C | 灰 | |
| 1080 | 鹿美 | 壺 | 体部下半 | 50次 調査区内表探 | 12C | 褐色 | 外面に横走する沈線がある |
| 1081 | 鹿美 | 壺 | 体下~底 | 37SE1 1層 | 12C | 褐色 | |
| 1082 | 鹿美 | 壺 | 口縁部 | 50SD8 墓土 | 12C | 褐色 | 口縁部かなり開く |
| 1083 | 鹿美 | 壺 | 口縁部 | 90-62 検出時 | 12C | 灰 | 口縁部が立ち番形 |
| 1084 | 鹿美 | 壺 | 口縁部 | 37SE1 1層 | 12C | 灰白 | |
| 1085 | 鹿美 | 壺 | 口縁部 | 50SE3 3層 | 12C | 灰 | |

| 番号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 年代など | 色調 | その他 |
|------|----|----|------|-----------------|------|-------|----------------------|
| 1086 | 縄美 | 甕 | 口縁部 | 90-65 棲出時 | 12C | 灰黄褐色 | |
| 1087 | 縄美 | 甕 | 口縁部 | 90-63 棲出 | 12C | 灰 | 外面に灰褐色毛塗り |
| 1088 | 縄美 | 甕 | 口縁部 | 37SE1 埋土 | 12C | 灰 | |
| 1089 | 縄美 | 甕 | 口縁部? | 37SE2 I層 | 12C | 灰褐色 | 口縫部破片と思われる |
| 1090 | 縄美 | 甕 | 口縁部 | 50SE3 3a層 | 12C | 灰 | |
| 1091 | 縄美 | 甕 | 肩部 | 37SE1 埋土 | 12C | 褐色 | |
| 1092 | 縄美 | 甕 | 肩部 | 37SE1 I層 | 12C | 灰 | 外面に灰褐色毛塗り |
| 1093 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE2 I層 | 12C | 灰褐色 | 1094~1101と同一個体 |
| 1094 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE2 埋土 上部 | 12C | 灰褐色 | |
| 1095 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 88-66 棲乱 | 12C | 灰褐色 | |
| 1096 | 縄美 | 甕 | 体部 | 89-67 棲乱 | 12C | 灰褐色 | |
| 1097 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 埋土 | 12C | 灰褐色 | |
| 1098 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 埋土 | 12C | 灰褐色 | |
| 1099 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 90-64 棲出時 | 12C | 灰褐色 | 50SD1 埋土からも出土 |
| 1100 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 50SD5 埋土(83-67) | 12C | 灰褐色 | |
| 1101 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 88-64 棲出 | 12C | 灰褐色 | |
| 1102 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 50SD5 埋土(85-67) | 12C | 暗灰 | 1103, 1104と同一個体 |
| 1103 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 埋土(85-67) | 12C | 暗灰 | |
| 1104 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 埋土(85-68) | 12C | 褐色 | |
| 1105 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SD9 埋土(86-61) | 12C | 灰 | 1106~1108と同一個体 |
| 1106 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 埋土(85-68) | 12C | 灰 | |
| 1107 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 88-61 棲出時 | 12C | 褐色 | |
| 1108 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 37SD9 埋土(91-62) | 12C | 灰 | |
| 1109 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 埋土 | 12C | 黄灰 | 1110と同一個体 |
| 1110 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 50SD5 埋土(85-67) | 12C | 黄灰 | |
| 1111 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 50SB1 布刷り下 | 12C | 灰オリーブ | 1112と同一個体 |
| 1112 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 90-64 棲出時 | 12C | 灰 | |
| 1113 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 埋土 | 12C | 褐色 | 1114と1115と同一個体 |
| 1114 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 埋土(85-67) | 12C | 褐色 | |
| 1115 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 50SB1 布刷り中 | 12C | 灰 | |
| 1116 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SD9 埋土(80-62) | 12C | 灰 | 1117, 1118と同一個体 |
| 1117 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 埋土 | 12C | 灰 | |
| 1118 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 埋土 | 12C | 灰 | |
| 1119 | 縄美 | 甕 | 体部 | 37SE1 埋土 | 12C | 灰 | 外面に反転の飛沫付着 |
| 1120 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 37SD9 埋土(88-61) | 12C | 灰オリーブ | 外面に灰褐色の刷毛塗り |
| 1121 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 埋土 | 12C | 灰 | |
| 1122 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 90-68 棲出時 | 12C | 灰白 | 外面に自然釉 |
| 1123 | 縄美 | 甕 | 体部下部 | 42SD1 埋土(86-67) | 12C | 灰 | |
| 1124 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 85-62 棲出 | 12C | 灰 | |
| 1125 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 埋土(85-68) | 12C | 灰 | 内面に自然釉 |
| 1126 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 90-68 棲出時 | 12C | 黑 | |
| 1127 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 埋土(86-67) | 12C | 灰白 | |
| 1128 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 埋土 | 12C | 褐色 | |
| 1129 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 埋土(85-68) | 12C | 灰 | |
| 1130 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 50次調査区表様 | 12C | 灰 | |
| 1131 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 37SE1 埋土 | 12C | 灰 | |
| 1132 | 縄美 | 甕 | 肩部下部 | 50SE3 I~2層 | 12C | 灰白 | 外面に釉付着、刷毛塗りか |
| 1133 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 50SE3 I~2層 | 12C | 暗灰 | |
| 1134 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 I層 | 12C | 黄灰 | |
| 1135 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 42SD1 埋土(85-68) | 12C | 暗灰 | |
| 1136 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 37SD9 埋土(88-61) | 12C | 灰白 | 内面に自然釉の飛沫付着 |
| 1137 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 42SD1 埋土 | 12C | 灰 | |
| 1138 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 91-67 棲出 | 12C | 灰 | 内面に自然釉付着 |
| 1139 | 縄美 | 甕 | 体部下部 | 37SE2 I層 | 12C | 暗灰 | 内面に自然釉付着 |
| 1140 | 縄美 | 甕 | 体部下部 | 37SE1 埋土 | 12C | 灰褐色 | 50SD7 埋土(85-68)からも出土 |
| 1141 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 37SE1 I層 | 12C | にぶい褐色 | |
| 1142 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 85-62 棲出時 | 12C | 黑 | |
| 1143 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SD9 埋土(91-62) | 12C | 灰 | |
| 1144 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 37SD9 埋土(88-61) | 12C | 灰 | |
| 1145 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 37SE1 埋土 | 12C | 暗オリーブ | 外面上に自然釉 |
| 1146 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 87-66 棲出時 | 12C | 暗オリーブ | 外面上に自然釉 |
| 1147 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 37SD9 埋土(88-61) | 12C | 灰白 | |
| 1148 | 縄美 | 甕 | 体部下半 | 50次調査区表様 | 12C | 灰 | |
| 1149 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 50SD5 埋土(85-67) | 12C | 暗オリーブ | 外面上に自然釉 |
| 1150 | 縄美 | 甕 | 体部上半 | 90-68 棲出時 | 12C | 暗オリーブ | 外面上に自然釉 |

| 番号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 年代など | 色調 | その他 |
|------|-----|-----|------|-----------------|--------|-------|---------------------|
| 1151 | 凝灰 | 甕 | 体部上半 | 91-67 棲出時 | 12C | 灰オリーブ | 外画に自然釉 |
| 1152 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 91-62 棲出時 | 12C | 灰 | |
| 1153 | 凝灰 | 甕 | 体部上半 | 37SE1 墓土 | 12C | 灰オリーブ | 外画に自然釉 |
| 1154 | 凝灰 | 甕 | 体部上半 | 37SD9 墓土(88-61) | 12C | 灰 | |
| 1155 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 85-62 棲出時 | 12C | 黄灰 | |
| 1156 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 墓土(85-58) | 12C | 灰 | |
| 1157 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 1層 | 12C | 褐灰 | |
| 1158 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 91-62 棲出時 | 12C | 褐灰 | |
| 1159 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 50SB3 PP20埋土 | 12C | 褐灰 | |
| 1160 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 墓土 | 12C | 黄灰 | |
| 1161 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 90-63 棲出時 | 12C | 灰白 | |
| 1162 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 90-62 棲出時 | 12C | 暗灰 | |
| 1163 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 37SD9 墓土(91-62) | 12C | 褐 | 内画に自然釉 |
| 1164 | 凝灰 | 甕 | 体部上半 | 86-68 棲出時 | 12C | 灰 | 輪積の墨分が剥落 |
| 1165 | 凝灰 | 甕 | 体部上半 | 85-67 棲出時 | 12C | 灰オリーブ | 外画に輪付墨 |
| 1166 | 凝灰 | 甕 | 体部下中 | 37SE1 墓土 | 12C | 黒褐 | 内画にも押印あり |
| 1167 | 凝灰 | 甕 | 体部下中 | 37SE1 1層 | 12C | 灰 | |
| 1168 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 50SD1 墓土 | 12C | 褐 | |
| 1169 | 凝灰 | 甕 | 体部上半 | 37SD9 墓土(88-61) | 12C | 灰 | |
| 1170 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 墓土(85-67) | 12C | 灰 | |
| 1171 | 凝灰 | 甕 | 体部上半 | 98-67 棲出 | 12C | 灰 | 薄手の破片 |
| 1172 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 84-67 からん | 12C | 灰 | |
| 1173 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 墓土(85-67) | 12C | 暗灰 | |
| 1174 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 96-69 棲出時 | 12C | 褐灰 | |
| 1175 | 凝灰 | 甕 | 体部上半 | 42SD1 墓土 | 12C | 灰オリーブ | 外画に自然釉 |
| 1176 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 墓土(86-67) | 12C | 灰 | |
| 1177 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 37SD9 墓土(91-62) | 12C | 灰 | |
| 1178 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 37SE1 墓土 | 12C | 灰 | |
| 1179 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 37SD9 墓土(90-62) | 12C | 褐灰 | |
| 1180 | 凝灰 | 甕 | 体部下半 | 42SD1 墓土(85-68) | 12C | 灰 | |
| 1181 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 37SE1 1層 | 12C | 褐灰 | 胎土 橙色を呈する ロクロ調整 |
| 1182 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 42SD1 墓土(85-67) | 12C | 灰 | 内面被熱?によりはじけている |
| 1183 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 50SE3 1~2層 | 12C | 褐灰 | |
| 1184 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 93-66 棲出時 | 12C | 暗褐 | 内面、横段、斜位になでている |
| 1185 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 93-66 棲出時 | 12C | 灰 | 内面なで調整 |
| 1186 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 37SD9 墓土(88-61) | 12C | 灰 | 内面にもタキ目がある |
| 1187 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 42SD1 墓土 | 12C | 灰 | やや軟質の胎土 |
| 1188 | 水呑 | 片口鉢 | 体下~底 | 37SE2 2層 | 12C前半? | 赤黒 | 胎土 赤褐色を呈する |
| 1189 | 設器系 | 甕 | 体部 | 50SB1 布縮中 | 13C以降? | 黒褐 | 東北地方在地産の13~14Cの陶器か? |

| 番号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 年代など | 色調 | その他 |
|------|-----|-----|----|-----------------|-------|----|----------------------|
| 1190 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 87-68 棲出時 | 9~10C | 褐灰 | 胎土に海綿状骨針混入する |
| 1191 | 須恵器 | 壺 | 底部 | 42SD1 墓土(85-68) | 9~10C | 褐灰 | 底面に輪糸切痕 |
| 1192 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 90-62 棲出時 | 9~10C | 灰 | 壺の体部の可能性もある |
| 1193 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 50SK1 墓土 | 9~10C | 灰 | |
| 1194 | 須恵器 | 壺 | 前部 | 50SE3 1~2層 | 9~10C | 灰黄 | 37SD9 墓土(91-62)からも出土 |
| 1195 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 50SE3 1~2層 | 9~10C | 黒褐 | 内面にカキ目とテヌー具痕 |
| 1196 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 50SE2 墓土 | 9~10C | 暗灰 | 1194, 1195と同一個体 |
| 1197 | 須恵器 | 長頸壺 | 肩部 | 89-63 棲出時 | 9~10C | 灰 | |
| 1198 | 須恵器 | 壺 | 体部 | 50SK3 1層 | 9~10C | 暗灰 | 長頸壺の可能性もある |
| 1199 | 須恵器 | 大甕 | 体部 | 37SD9 墓土(91-62) | 9~10C | 灰 | 胎土 赤褐色 |
| 1200 | 須恵器 | 大甕 | 体部 | 50SE3 1~2層 | 9~10C | 灰 | 胎土 赤褐色 |
| 1201 | 須恵器 | 大甕 | 体部 | 91-62 棲出時 | 9~10C | 灰 | 胎土 赤褐色 |
| 1202 | 須恵器 | 大甕 | 体部 | 90-63 棲出時 | 9~10C | 灰 | 胎土 灰色 |
| 1203 | 須恵器 | 大甕 | 体部 | 86-69 棲出時 | 9~10C | 灰 | 胎土 灰色 |
| 1204 | 須恵器 | 大甕 | 体部 | 50SB1 布縮中 | 9~10C | 黒褐 | 内面アテ具痕 胎土 赤褐色 |
| 1205 | 須恵器 | 大甕 | 体部 | 50SB1 布縮中 | 9~10C | 灰 | 内面アテ具痕 胎土 赤褐色 |

| 番号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 太宰府分類 | 太宰府の年代観 | その他 |
|------|-----|-----|------|-----------------|-------|-------------|-------------------------|
| 2001 | 白磁 | 碗 | 底部 | 91-63 検出時 | II | IIC後半～12C前半 | 化粧土あり 外面高台は露胎 |
| 2002 | 白磁 | 碗 | 口縁部 | 91-67 検出時 | IV | 12C | 玉縁口縁 |
| 2003 | 白磁 | 碗 | 体部 | 50SE1 表抜 | IVか | 12C | 全体に摩滅している |
| 2004 | 白磁 | 碗 | 体部 | 50SD5 墓土(85-67) | IVか | 12C | |
| 2005 | 白磁 | 皿 | 口縁部 | 37SD9 墓土(91-62) | VII | IIC後半～12C前半 | 化粧土あり |
| 2006 | 白磁 | 皿か | 体部 | PP586 面方 | VIIか | IIC後半～12C前半 | 化粧土あり 縞片のため確実に皿かどうか不明 |
| 2007 | 白磁 | 皿 | 口縁部 | 50SE3 3層 P8 | VIIb | 12C | 内面に白堀線あり |
| 2008 | 白磁 | 四耳壺 | 完形 | 50SE3 3層 | VIII | 12C | 外腹全体と口縁内面に漆のしみ込んだ布付着 |
| 2009 | 白磁 | 皿 | 体部 | 37SE1 1層 | II系 | IIC後半～12C前半 | 化粧土あり 大形の壺か |
| 2010 | 白磁 | 四耳壺 | 体部 | 37SD9 墓土(90-62) | II系 | 12C | 底近部の破片 |
| 2011 | 白磁 | 四耳壺 | 体部 | 50SA13 墓土 | II系 | IIC後半～12C前半 | 内面無釉 化粧土はつきりしないが胎に買入が入る |
| 2012 | 白磁 | 四耳壺 | 体部 | 37SD9 墓土(90-62) | II系 | IIC後半～12C前半 | 内面無釉 化粧土 |
| 2013 | 白磁 | 四耳壺 | 体部 | 37SD9 墓土(90-62) | II系 | IIC後半～12C前半 | 内面無釉 化粧土 |
| 2014 | 白磁 | 壺 | 体部下半 | 37SE2 1層 | II系 | 12C | 小形の壺 |
| 2015 | 白磁 | 四耳壺 | 体部 | 50SD5 墓土(85-67) | II系 | 12C | |
| 2016 | 白磁 | 四耳壺 | 体部 | 42SD1 埋土 | II系 | 12C | 外腹摩滅している |
| 2017 | 白磁 | 四耳壺 | 体部 | 37SD9 墓土(88-61) | II系 | 12C | |
| 2018 | 白磁 | 四耳壺 | 体部 | 37SD9 墓土(88-61) | II系 | 12C | 全体に摩滅 |
| 2019 | 白磁 | 蓋 | 下部 | 50次調査区内表抜 | II系 | 12C | 外腹下部無釉 蓋と考えられる |
| 2020 | 青白磁 | 皿 | 口縁部 | 50SD3 墓土 | 青白磁 | 12Cか | 薄手のつくり |
| 2021 | 青白磁 | 碗 | 体部 | 50SB1 布鉢中 | 青白磁 | 12Cか | 小破片のため器種ははつきりしない |
| 2022 | 青白磁 | 皿 | 体部 | 50SD5 墓土(85-67) | 青白磁 | 12Cか | 二次被熱している |
| 2023 | 青白磁 | 皿 | 体部 | 37SE1 埋土 | 青白磁 | 12Cか | 2022と同個体 |
| 2024 | 青磁 | 碗 | 口縁部 | 42SD1 墓土(85-68) | 13 | 12C | |
| 2025 | 青磁 | 碗 | 口縁部 | 89-69 検出時 | 1 | 12C | 文様の有無はつきりしない |
| 2026 | 青磁 | 皿 | 底部 | 50次調査区内表抜 | | | |
| 2027 | 陶器 | 皿 | 底部 | 89-61 検出時 | 陶器 | 12Cか | 外面に褐釉 2028と同個体 |
| 2028 | 陶器 | 壺 | 体部 | 89-61 検出時 | 陶器 | 12Cか | 内面には薄い釉 |
| 2029 | 陶器 | 壺 | 口縁部 | 50次調査区内表抜 | 陶器 | 12Cか | 外腹褐色がかかった釉 |
| 2030 | 陶器 | 壺 | 体部 | 50SD2 墓土(93-67) | 陶器 | 12Cか | 外腹に褐釉の流れあり 2031～2034同個体 |
| 2031 | 陶器 | 壺 | 体部 | 96-68 検出時 | 陶器 | 12Cか | 外腹に褐釉 内面無釉 |
| 2032 | 陶器 | 壺 | 体部 | 50SD2 墓土(93-67) | 陶器 | 12Cか | |
| 2033 | 陶器 | 皿 | 体部 | 50SD2 墓土(92-68) | 陶器 | 12Cか | かなり大形の壺 |
| 2034 | 陶器 | 壺 | 体部 | 50SD2 墓土(92-68) | 陶器 | 12Cか | |
| 2035 | 染付 | 皿 | 完形 | 86-69 検出時 | — | 15C後半～16C | 底面に砂付着 磁反りの皿 小野B1類 |
| 2036 | 染付 | 皿 | 体部下半 | 42SD1 墓土(85-68) | — | 15C後半～16C | 磁反りと思われる 小野B1類か |

| 番号 | 器種 | 出土位置 | その他 |
|------|-----|------------|-----------------------------|
| 3001 | 軒平瓦 | 85-61 検出時 | 右肩に三巴文であるは陰刻の刺繡文が連続 灰色の硬い胎土 |
| 3002 | 平瓦 | 37SE1 墓土 | 灰色の硬い胎土 |
| 3003 | 平瓦 | 37SE1 墓土 | 灰色の硬い胎土 |
| 3004 | 平瓦 | 37SE2 2層 | 黑色～褐色の軟い胎土 |
| 3005 | 平瓦 | 50SE3 1～2層 | 灰白色の硬い胎土 |
| 3006 | 平瓦 | 89-69 検出時 | 断面が赤褐色の硬い胎土 水沼産か |
| 3007 | 丸瓦 | 37SE1 1層 | 灰色～青灰色の軟い胎土 |
| 3008 | 平瓦 | 50SD5 墓土 | 黑色～褐色の軟い胎土 全体に摩耗著しい |

| 番号 | 器種 | 出土位置 | その他 |
|------|------|-------------|-----------------------------------------|
| 4001 | 下駄 | 50SF3 3層 東半 | 23.1 12.5 3.6 進歩下駄 取上げNO.13 |
| 4002 | 下駄 | 50SE3 3層 東半 | 21.2 10.5 2.6 進歩下駄 磁が摩耗している 右足 取上げNO.10 |
| 4003 | 皿 | 50SE3 3層 | 24.5 6.4 0.8 因の裏面 漆化している 取上げNO.7 |
| 4004 | 系巻 | 50SE3 3層 | 19.5 1.9 1.3 因の下端要欠損 取上げNO.16 |
| 4005 | 刀削 | 50SE3 3層 | 6.7 2.8 1.6 實実に刀子の柄かどうか不明 |
| 4006 | 扇子の骨 | 50SE3 3層 | 12.4 1.7 0.4 上半部欠損 |
| 4007 | もの | 50SE3 3層 | 11.2 1.6 0.5 鋏尺 相当か 飲食著しい |
| 4008 | 梯 | 50SE3 3層 | 4.5 3.7 0.8 |
| 4009 | 不明 | 50SE3 3層 東半 | 31.1 5.9 3.3 黑漆塗り 底面両端に布付着 取上げNO.15 |

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法徳(cm) | | | その他 |
|------|-------|-------------|--------|------|-----|------------------------------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 厚さ | |
| 4010 | 不明 | 50SE3 3層 | 46.1 | 2.4 | 1.1 | 囲の上端部は欠損しており、本末はまだ続く 取上げNO.9 |
| 4011 | 不明 | 50SE3 3層 | 36.9 | 3.0 | 1.1 | 刀の形代か? |
| 4012 | 鉢(壺?) | 50SE3 3層 | 7.0 | 1.3 | 0.1 | 文字は確認できない |
| 4013 | 宝塔 | 50SE3 3層 | 7.3 | 3.4 | 2.8 | 宝塔の笠、半分に欠損 |
| 4014 | 舟物の底 | 50SE3 3層 | 19.9 | 4.1 | 0.9 | 取上げNO.8 |
| 4015 | 若 | 50SE3 3層 | 9.0 | 0.5 | 0.4 | |
| 4016 | 若 | 50SE3 3層 | 9.1 | 0.5 | 0.4 | |
| 4017 | 若 | 50SE3 3層 | 8.9 | 0.6 | 0.4 | |
| 4018 | 若 | 50SE3 3層 | 14.0 | 0.7 | 0.5 | |
| 4019 | 若 | 50SE3 3層 | 13.5 | 0.7 | 0.7 | |
| 4020 | 若 | 50SE3 3層 | 15.3 | 0.5 | 0.5 | |
| 4021 | 若 | 50SE3 3層 | 16.2 | 0.5 | 0.4 | |
| 4022 | 若 | 50SE3 3層 | 17.9 | 0.6 | 0.4 | |
| 4023 | 若 | 50SE3 3層 | 18.6 | 0.7 | 0.5 | |
| 4024 | 舟物 | 50SE3 3層 | 25.6 | 4.1 | 0.5 | 折敷と思われる 繻りの崩れが残存 |
| 4025 | 折敷板 | 50SE3 3層 | 33.7 | 16.0 | 1.0 | スクリーントーン部分は抜化した部分 取上げNO.6 |
| 4026 | 方形容物 | 50SE3 3層 | 23.7 | 6.3 | 0.3 | 折敷と思われる 繻りの穴がある |
| 4027 | 折敷板 | 50SE3 3層 東半 | 26.4 | 5.1 | 0.4 | 取上げNO.11 |
| 4028 | 折敷板 | 50SE3 3層 | 27.9 | 2.5 | 0.3 | 釘穴あり |
| 4029 | 折敷板 | 50SE3 3層 | 29.2 | 3.9 | 0.5 | |
| 4030 | 折敷板 | 50SE3 3層 | 30.9 | 3.2 | 0.5 | |
| 4031 | 折敷板 | 50SE3 3層 | 29.5 | 12.6 | 0.5 | 板加工痕が顯著 取上げNO.17 |
| 4032 | 折敷板 | 50SE3 3層 | 33.3 | 14.0 | 0.8 | 取上げNO.3 |
| 4033 | 折敷板 | 50SE3 3層 東半 | 32.0 | 10.4 | 0.7 | 取上げNO.14 |
| 4034 | 折敷 | 50SE3 3層 | 31.2 | 1.7 | 1.1 | 縁の部分が残存 |
| 4035 | 折敷の縁 | 50SE3 3層 | 21.9 | 1.1 | 0.4 | |
| 4036 | 折敷の縁 | 50SE3 3層 | 19.3 | 0.8 | 0.4 | |
| 4037 | 折敷の縁 | 50SE3 3層 | 14.5 | 1.1 | 0.5 | |
| 4038 | 折敷の縁 | 50SE3 3層 | 15.2 | 1.1 | 0.4 | |
| 4039 | 折敷の縁 | 50SE3 3層 | 16.0 | 1.0 | 0.5 | |
| 4040 | 折敷の縁 | 50SE3 3層 | 14.6 | 1.1 | 0.6 | |
| 4041 | 墨書き片 | 50SE3 3層 | 16.2 | 1.3 | 0.4 | 墨書きのある木片 取上げNO.22 |
| 4042 | 墨書き片 | 50SE3 3層 | 18.9 | 2.0 | 0.5 | 箱?の側板か 墨書きがある 取上げNO.21 |
| 4043 | 墨書き片 | 50SE3 3層 | 8.7 | 2.2 | 0.4 | 墨書きがある |
| 4044 | 墨書き片 | 50SE3 3層 | 4.0 | 1.5 | 0.1 | 墨書きがある 取上げNO.20 |
| 4045 | 墨書き片 | 50SE3 3層 | 3.1 | 1.9 | 0.4 | 墨書きがある |
| 4046 | 墨書き片 | 50SE3 3層 | 4.5 | 1.5 | 0.4 | 墨書きがある |
| 4047 | 墨書き片 | 50SE3 3層 | 11.7 | 0.8 | 0.3 | 墨書きがある |
| 4048 | 墨書き片 | 50SE3 3層 | 10.8 | 2.0 | 0.3 | 墨書きがある 取上げNO.19 |
| 4049 | 墨書き片 | 50SE3 3層 | 9.7 | 2.1 | 0.1 | 墨書きがある |
| 4050 | 折敷板 | 50SE3 3層 | 29.2 | 6.6 | 0.4 | 墨書きがある |
| 4051 | 不明 | 50SE3 3層 | 23.5 | 1.0 | 0.6 | |
| 4052 | 不明 | 50SE3 3層 | 7.8 | 0.9 | 0.2 | |
| 4053 | 不明 | 50SE3 3層 | 10.7 | 1.4 | 0.6 | |
| 4054 | 不明 | 50SE3 3層 | 11.2 | 0.9 | 0.3 | |
| 4055 | 不明 | 50SE3 3層 | 10.7 | 0.9 | 0.6 | |
| 4056 | 不明 | 50SE3 3層 | 26.8 | 1.6 | 1.0 | 岡の上部 扇って尖らせている |
| 4057 | 不明 | 50SE3 3層 | 23.6 | 2.7 | 1.9 | 杭か? 取上げNO.5 |
| 4058 | 不明 | 50SE3 3層 | 32.4 | 1.7 | 1.1 | 釘穴?がある |
| 4059 | 不明 | 50SE3 3層 | 41.5 | 1.9 | 0.9 | |
| 4060 | 不明 | 50SE3 3層 | 15.3 | 1.5 | 0.4 | |
| 4061 | 不明 | 50SE3 3層 | 14.7 | 2.1 | 0.6 | |
| 4062 | 不明 | 50SE3 3層 | 18.0 | 2.5 | 1.1 | |
| 4063 | 不明 | 50SE3 3層 | 9.7 | 1.5 | 1.7 | 面取りしている |
| 4064 | 不明 | 50SE3 3層 | 10.5 | 1.5 | 0.6 | |
| 4065 | 不明 | 50SE3 3層 | 15.5 | 1.6 | 0.8 | |

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(cm) | | | その他 |
|------|-----|------------|--------|------|-----|--------------------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 厚さ | |
| 4066 | 不明 | 50SE3 3層 | 13.6 | 1.4 | 0.3 | |
| 4067 | 不明 | 50SE3 3層 | 14.4 | 1.8 | 0.2 | |
| 4068 | 不明 | 50SE3 3層 | 31.0 | 2.9 | 0.9 | |
| 4069 | 不明 | 50SE3 3層 | 28.0 | 1.8 | 0.5 | |
| 4070 | 不明 | 50SE3 3層 | 22.0 | 2.8 | 1.5 | |
| 4071 | 不明 | 50SE3 3層 | 63.6 | 2.8 | 3.4 | 製材している 取上げNO.12 |
| 4072 | 不明 | 50SE3 3層 | 12.5 | 2.3 | 0.8 | |
| 4073 | 不明 | 50SE3 3層 | 10.5 | 2.0 | 0.8 | 取上げNO.1 |
| 4074 | 不明 | 50SE3 3層 | 13.8 | 1.9 | 0.5 | |
| 4075 | 不明 | 50SE3 3層 | 9.2 | 1.5 | 0.4 | 釘穴あり |
| 4076 | 不明 | 50SE3 3層 | 9.3 | 1.4 | 0.5 | |
| 4077 | 不明 | 50SE3 3層 | 13.8 | 3.7 | 0.6 | |
| 4078 | 不明 | 50SE3 3層 | 15.1 | 4.0 | 0.7 | 取上げNO.2 |
| 4079 | 不明 | 50SE3 3層 | 20.0 | 3.3 | 0.4 | 取上げNO.4 |
| 4080 | 不明 | 50SE3 3層 | 5.4 | 3.2 | 1.6 | |
| 4081 | 不明 | 50SE3 3層 | 5.7 | 2.3 | 0.5 | |
| 4082 | 不明 | 50SE3 3層 | 3.8 | 4.3 | 0.4 | |
| 4083 | 不明 | 50SE3 3層 | 5.4 | 3.4 | 0.4 | |
| 4084 | 不明 | 50SE3 3層 | 8.2 | 3.9 | 0.2 | 取上げNO.18 |
| 4085 | 不明 | 50SE3 3層 | 4.2 | 2.3 | 2.3 | 自然の樹皮が残る |
| 4086 | 不明 | 50SE3 3層 | 15.9 | 1.8 | 0.5 | 端部が炭化している |
| 4087 | 不明 | 50SE3 3層 | 14.1 | 1.5 | 0.4 | 端部が炭化している |
| 4088 | 不明 | 50SE3 3層 | 12.1 | 1.5 | 0.7 | 端部が炭化している |
| 4089 | 不明 | 50SE3 3層 | 12.6 | 1.1 | 0.5 | 端部が炭化している |
| 4090 | 不明 | 50SE3 3層 | 9.3 | 1.7 | 0.4 | 端部が炭化している |
| 4091 | 瓦製鏡 | 37SE2 瓦面直上 | 16.1 | 7.3 | 0.3 | 縫りの樹皮が残る 取上げNO.12 |
| 4092 | 部材 | 37SE2 墓土 | 109.8 | 10.5 | 7.5 | 閑食著い 取上げNO.1 |
| 4093 | 部材 | 37SE2 墓土 | 107.4 | 11.1 | 7.2 | 取上げNO.2 |
| 4094 | 部材 | 37SE2 墓土 | 109.5 | 11.0 | 7.7 | 加工痕顯著 取上げNO.3 |
| 4095 | 部材 | 37SE2 墓土 | 88.5 | 6.6 | 4.5 | 他の部材よりも小形 取上げNO.7 |
| 4096 | 部材 | 37SE2 墓土 | 111.9 | 11.1 | 8.1 | 取上げNO.4 |
| 4097 | 部材 | 37SE2 墓土 | 111.0 | 11.4 | 8.2 | 閑食著い 取上げNO.5 |
| 4098 | 部材 | 37SE2 墓土 | 111.6 | 10.8 | 7.6 | 圓の上部にえぐりあり 取上げNO.6 |

| 番号 | 器種 | 出土位置 | その他 | | | | | |
|------|----------------|-----------------|-----------------------------|-----------|---------------------------|--|--|--|
| | | | 柱状高台 | 90-68 検出時 | 柱状高台かわらけの高台部 横色を呈する 底面凹凸有 | | | |
| 5002 | 上蓋鏡 | 37SE2 2層 | 火鉢 手あぶりの跡か 本体から剥落している | | | | | |
| 5003 | 大型土器 | 93-66 検出時 | 火鉢 手あぶりの跡か 手づくねかわらけと同じ船 | | | | | |
| 5004 | 羽口 | 90-68 検出時 | 羽口の先端部 12Cのものかどうかは不明 | | | | | |
| 5005 | 羽口 | 93-69 検出時 | 12Cのものかどうかは不明 | | | | | |
| 5006 | 羽口 | 91-67 検出時 | 12Cのものかどうかは不明 | | | | | |
| 5007 | 羽口 漆飾面②(92-68) | | 溝には遺物名を付していない、12Cの可能性が高い | | | | | |
| 5008 | 砥石 | 42SD1 墓土(86-67) | 4面使用 12Cのものかは不明 | | | | | |
| 5009 | ガラス玉 | 93-67 検出時 | 12Cのものかどうかは不明 確実にガラス製か否か未同定 | | | | | |
| 5010 | 笄石? | 37SE2 2層 | 白色の石 12Cの可能性が高い | | | | | |
| 5011 | 笄石? | SOSKI 墓土 | 白色の石 12Cの可能性が高い | | | | | |
| 5012 | 笄子の詰物 | 90-67 検出時 | 銅製品 笄子の片口部に付し金具 12Cのもの | | | | | |
| 5013 | 印章 | 50SE3 3層 | 銅製品 印面に「菅前印」とある | | | | | |

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(cm) | | | 釉上 | 釉葉・繪付 | 製作地 | 製作年代 | その他 |
|------|-----|-----------------|--------|-----|-------|-----|--------|-------|------------|------------|
| | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | | |
| 6001 | 磁蓋鏡 | 88-68 検出時 | — | 4.0 | (2.1) | 灰色 | 染付 | 肥前 | 17C前半 | 6002と同じ文様 |
| 6002 | 磁蓋鏡 | 42SD1 墓土(86-87) | — | — | (1.2) | 灰色 | 染付 | 肥前 | 17C前半 | |
| 6003 | 磁蓋鏡 | 86-69 検出時 | — | — | (3.0) | 白色 | 染付 | 肥前 | 1690~1780年 | |
| 6004 | 磁蓋鏡 | 85-69 検出時 | 10.6 | — | (4.9) | 白色 | 染付 | 肥前 | 1690~1780年 | |
| 6005 | 陶蓋鏡 | 93-64 表様 | — | — | (3.1) | 淡黄色 | 透明釉 | 肥前 | 18C前 | |
| 6006 | 磁蓋鏡 | 91-67 検出時 | — | 4.0 | (3.2) | 白色 | 染付 | 肥前 | 1690~1780年 | 外底面に「大明年製」 |
| 6007 | 陶蓋鏡 | 86-69 検出時 | — | — | (3.2) | 灰色 | 釉葉 黄灰釉 | 瀬戸・美濃 | 18C前半 | 尾呂茶碗 |

第IV章 まとめ

1. 遺構

(1) 12世紀の検出遺構

今回の50次調査区においては、重複関係、軸方向から12世紀の遺構が4時期に分けられる。Ⅰ期→Ⅱ期→Ⅲ期古→Ⅲ期新である。Ⅲ期については新、古どちらに所属するか判らないもの、両方にまたがっていると判断される遺構は単にⅢ期の所属とする。

Ⅰ期 概ねN-17° - Eの軸方向

堀 50SA2、50SA13、建物 50SB6、50SB10、50SB19

井戸 50SE3もⅠ期所属の可能性があるが、確定できない。

Ⅱ期 堀、溝はN-3° - Eの軸方向、建物は概ねN-19° - E

堀 50SA5、50SA7 溝 50SD8 建物 50SB5、50SB8、50SB9

堀、溝と建物の軸方向が異なるのが問題点といえる。

Ⅲ期 新、古に分けられる。軸方向は概ねN-11° - E

Ⅲ期古 堀 50SA6、50SA8 建物 50SB4、50SB17

Ⅲ期新 建物 50SB3、50SB16 井戸 37SE2

Ⅲ期 (新、古どちらか不明のもの、または新、古両方にまたがるもの) 堀 50SA1、50SA10、50SA12 建物 50SB7、50SB18

(2) 12世紀の遺構についての課題

今次調査区では12世紀の遺構は4時期の変遷に分けられる。しかし現段階ではこの変遷と(跡埋文センター)の報告書で示された、堀内部地区の中心建物群の変遷とはすり合わせをおこなっていない。これについては直接重複する遺構が少なく、切り合い関係から判断するのは難しい状態である。唯一、今回のⅢ期古に属する50SB4が中心建物群の28SB4(42SB1)と重複し、50SB4が新しいことが判っている。また中心建物群は重複するどの建物も軸方向は正方位であり、今次調査区のように、様々な角度を示してはいない。このように軸方向から遺構の同時性を判断するのも難しい状況である。よって、ここでは中心建物群と今次調査区の遺構についての変遷のすり合わせはおこなわず、平成12年度以降の調査で得られる成果に期待し、それらと合わせた全体の遺構変遷を示したい。

また今次のⅡ期に属する堀50SA5は、以前の調査で検出されているL字形の堀23SA1の東辺の北側の延長線上にある。材の並び方も共通しており、両者は同一の堀の可能性が指摘できる。この堀の存在から、堀内部地区をさらに囲画する、軸方向がほぼ正方位の約120m四方の堀の存在が想定される。この想定の堀の北辺、西辺は現在まだ未検出であり、その実証には今後の調査での検出が必要となる。

また上の囲画する堀とは別に、軸方向がN-11° - Eの堀50SA1が、西側に長く伸びることが以前の調査の図面から判断できた。この長さは今回検出分も合わせて約60m分にも及ぶ。この50SA1を北辺とし、また今回検出の50SA10、50SA12を東辺とし、軸方向がN-11° - Eの堀で、堀内部地区を方形に囲画し

ている可能性がある。この辯の存在の実証も上と同様に今後の調査での検出が必要である。

(3) 近世の遺構

今次の調査区では幕政時代の「平泉御蔵場」に関連する遺構が検出された。「御蔵場」とは年貢米を納入し集積、出荷する施設である。

建物は50SB1、50SB2、50SB11、50SB12、50SB13、50SB14、50SB15が属する。

溝は42SD1が「平泉御蔵場」に属する。42SD12、50SD2、50SD3、50SD4、50SD5、50SD6、50SD7は近世以降の所属であるか「平泉御蔵場」に属する遺構か判断できない。近代の所属の可能性もある。

2. 遺物

出土遺物の多くは12世紀のものである。特筆すべき遺物には銅印「磐前村印」(掲載番号5013)と、ほぼ完形の漆の染みた布の付着する白磁四耳壺(掲載番号2008)がある。

銅印は国立歴史民俗博物館の永崎正春教授に自然科学的分析を依頼しており現在分析中である。その結果については今後の柳之御所遺跡関係の刊行物に掲載したい。

なお銅印の印面は文字の彫り込みが浅く、写真などで見ると、かなり磨耗しているような印象を受ける。しかし実際に実物を観察すると、ほとんど印面の磨耗が無いことが看取される(斎藤、羽柴の観察)。今後この印章の議論の中で、使用の頻度の点から「磨耗度」が問題にならうから、この点を記述しておく。

白磁四耳壺は、ほぼ完形であるということに加え、漆の染みた布の付着の意味が注目される。だが、現在この意味についてはっきりした答えを見つけかねている状況である。今後広く、美術工芸の分野などから事例を調べる必要がある。また布、漆の自然科学的分析を行なう必要もある。

また木製品では、折敷にある墨書きの内容が未解読でこれも課題として残っている。そして、特異な漆塗りの木製品(掲載番号4009)、刻み目のある棒状製品(掲載番号4010)の用途、製品名の解明も課題である。

提子の金具(掲載番号5012)は平泉遺跡群では志羅山遺跡21次、66次調査に続く3例目の事例である。宴會儀礼の具体的な姿を復元する上で重要な資料といえる。

12世紀の遺物の他に16世紀、近世の遺物が少量はあるが出土している。12世紀以外の遺構の所属の時期を決定するためには欠くことのできない遺物である。12世紀の遺構構成を知るためにには、12世紀以外の遺構を抽出する必要がある。今後も12世紀以外の遺物についても注目していく必要がある。

本書は柳之御所遺跡第50次調査についての概要を示した「概報」である。今後の調査の進展、研究の深化によって、本書に記された内容に訂正が必要とされる部分が生じる可能性も多い。「第IV章 まとめ」に示した課題も含め、第1次3ヵ年計画の終了以後に刊行予定の本報告において、訂正、課題について対応したい。

第V章 付編

岩手県平泉町柳之御所遺跡出土銅印

国立歴史民俗博物館

平川 南

一、出土銅印

1. 駕文

「磐 村
前 印」

2. 保存状態

保存状態はきわめて良好で、銅色の輝きは出土後に若干失われているが、現状でも部分的に光沢をとどめている。

3. 印の特徴

(1) 印面の法量

本印は、縦4.7cm、横4.7cm、高さ3.7cm、重量167.4g。從来知られている古代印に関していえば、郷印の法量約3.3cmよりも都印の平均的数値に近い。

(2) 印面の形状

本印は、8～9世紀代の四隅の鋭い正方形の印面ではなく、やや隅丸の方形である。さらに本印の印面は明瞭な反りが認められ、外郭が印文よりやや低くなっている。

(3) 彫り方

印面の文字の彫り方はきわめて浅く、鋳出後にタガネ工具で部分的に字画の切れ目を補ったり、底部をさらっており、字画の断面が逆U字形を呈する。一方、8～9世紀代の出土印は、彫りが深く、字画の断面が逆V字形となっている。

(4) 鍔の形状

本印の鍔は弧鉢無孔である。8～9世紀代の現存印によるかぎり、弧鉢無孔は公印（倉印・郡印・軍團印など）に共通し、私印は原則として苔鉢有孔である。郷印は苔鉢有孔であり、いわば私印の範疇に位置づけられている。

参考までに、伝世印である宮城県七ヶ浜町鼻節神社蔵「国府厨印」は、縦4.1cm、横4.1cm、高さ3.9cm、重量124.2gである。鍔の形状（弧鉢無孔）は、現在知られている古代印のなかで、「磐前村印」に最も近似している。

(5) 字体

本印の字体は楷書体である。一般に、都印は8世紀後半の一時期に楷書体の都印がつくられるものの、平安期のものは中央の八省印や各國印と同じ篆書体であり（都印の字体の変遷については拙稿「古代都印論」「国立歴史民俗博物館研究報告」第79集、1999年参照）、公印は篆書体が基本であったと考えられる。これに対して、郷印を含む私印は一般に楷書体であり、その点からすると私印的な要素が強い。

ただし都印にも例外があり、正暦2(991)年の文書に押印された「添上郡印」は楷書体である。この楷書体は、8世紀半ばにつくられる楷書体の都印とは明らかに異なり、印影をみると筆画に全く勢いがなく、線質は太く平板である。本印の字体も太く平板であり、その点で「添上郡印」と共通した特徴をもっている。

(6) 鋳造技術

本銅印は現段階ではX線透過撮影を実施していないが⁵、「磐前村印」の見かけの密度は $7.99 \approx 8.0 \text{ g/cm}^3$ である。

これまでの全国各地の出土印・伝世印の永嶋正春氏による分析結果は、古代印はほぼ 7.0 g/cm^3 前後、近世印はほぼ 8.5 g/cm^3 前後という大きな傾向を示している。

この密度の相違は、鋳造技術の差を端的に示唆している。古代印と想定される銅印は、X線透過撮影によると、全面に平均的な鬆（ス）がみられるのに対し、近世印はその傾向を見い出すことはできない。この銅印全体に細かな鬆が入る鋳造技術が、古代印の密度をおおむね 7.0 g/cm^3 台にしており、その重量を軽く仕上げているとみられている。一方、近世印は鬆が全面的に認められず、そのために資料密度は 8.5 g/cm^3 台を示し、ずつしりした重量感があるのである。〔永嶋正春「非破壊手法による銅印の科学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』79集 1999年〕

結局、本銅印は、その鋳造技術の面から判断すると、古代印と近世印の中間的位置、または若干近世に傾斜しているともとらえられるであろう。この点は銅印の技術史的変遷の上で、きわめて注目すべき資料といえる。

まとめ

本印「磐前村印」は、現段階では、日本古代印のなかで村印として初めての例である。本村印は、郷印に比して、一まわり大きい。法量の点からいえば、郡印の平均的数値に近いのである。

錫の形状においても、郷印がすべて苔鍾有孔であるのにくらべ、郡印は「見湯郡印」の変形錫を除けば、出土印「山邊郡印」のように弧錫無孔であり、この点でも本印は郡印などの公印に近い。

ところで、こうした古代印の法量・形状および字体などに関する規制は、律令制下の文書行政に伴うものであった。こうした律令文書行政が変容した10世紀以降、国印・郡印などの印影による字体と印面の大きさなどをみる限り、大きく変化し、次第にその識別基準が厳密さをなくしていくのではないかと推測できる。

しかし、それを決定できる実物資料がこれまで現存していないかった。すなわち、古代印の変遷を見るためには、10世紀以降の実物資料に関する錫の形状や印文の彫り方そして鋳造技術全体に及ぶ觀察が不可欠な条件である。本銅印は、12世紀後半という明確な年代を有している出土資料だけに、その意義はばかりではない。

また法量の点で、郷印を上回り、郡印相当であり、錫の形状も私印特有の苔鍾有孔ではなく、倉印・郡印などに見られる公印特有の弧錫無孔である。つまり、8・9世紀代の公印を意識した形状になっている。

一方、字体やその鋳造技術の点では、明らかに8~9世紀代の出土印と異なる。字体は楷書体であり、彫り方は浅く、字画の線が太く、8世紀代の鋭い字画とは異なっている。しかも鋳造技術の点で、8~9世紀代の古代印特有の印全体にわたる細かな鬆を認めることができず、重量と密度はむしろ近世印に若干傾斜しているといえる。これまでの研究では、8~9世紀代の出土印と近世印との比較で、その差を論じてきた。しかし、今回、12世紀後半の出土印が登場したことにより、鋳造技術は古代末に変質を遂げ、それ以降、その技術が近世印に継承されていったのではないかという見通しを得ることができた。

現段階ではまだ、分析データ数が少なく性急な結論を下すことは慎まねばならないが、一定の傾向を見通すことは十分に意義がある。したがって、上記のような傾向を現段階では指摘しておくこととする。

以上のように、「磐前村印」はあらゆる意味において、古代印の終焉を象徴する貴重な資料といえる。

二、「村」と地名「磐前」

印の訳文「磐前村印」は訓み「いわさきのむらのいん」、磐前は、石崎・岩崎などの表記と通じるであろう。

古代における村については、一般的に次のように述べられている。

まず、律令期の村については、山田英雄氏が、「村は郷とは別個の考え方に基づく区画であって、人口の数によるものであるよりは、開拓された地域を主体にし、その地域がひとつのまとまりをもっているならば、既存の行政区画にはこだわらない性格を有している」と指摘している（『律令成立期の地方問題』『古代の日本』9、1976年）。

つぎに王朝国家期の村については、齊藤利男氏によれば、11世紀前半に『和名類聚抄』郷が解体し、郡の内部は一般に「村」で構成されるようになるが、この「村」は中世の村には連続せず、12世紀に再度解体して新たな村（これが中世の村）を分出する過渡的なものだったとされる。

また、村は中世村落とは異なり、10世紀王朝国家の村落共同体の特質を基本的な点で残した解体期の古代村落と評価したほうがよいという（『11～12世紀の郡司・刀禰と国衙支配』『日本史研究』205号、1979年9月号）。

「磐前村印」の「磐前」という地名は、次のように推測される。

平泉柳之御所遺跡出土の折敷墨書（平成2年度、第28次調査）は、人々に給与されることになった納穀物のリストを書き留めた日記であると報告されている。その人名のなかに「石崎次郎殿」という地名を冠した人物が見える。

入間田宣夫氏は「石崎次郎殿」「石川三郎殿」「石川太郎殿」などが、奥六郡〔伊沢（胆沢）・和賀・江刺・稗抜（稗貫）・志波（紫波）・岩井（磐井）〕の地名を名乗る根本被官（家人）層であったと推定している。石崎は、伊（胆）沢郡内のうち、建武年間の文書に、金色堂御詫経田五段の在所と記されていた（奥州平泉文書79）（『平泉柳之御所遺跡出土の折敷墨書を読む』（助岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター『紀要』X I）（平成2年度）1991年、『平泉柳之御所遺跡出土の折敷墨書を読む（続）』同センター『紀要』X VII（平成8年度）1997年）。

三、全体の意義

- ① 本銅印「磐前村印」は、日本古代印のなかで村印として初めての例である。
- ② その特徴は公印と私印両方の要素をあわせもっている。古代印はあくまでも律令国家の文書行政にともなってその存在意義を有したものである。10世紀以降の古代印は形式化し、それ以前の公印のなかの国印・郡印との間の厳密な区分や、公印と私印との識別基準もしだいに失われていったと想定できる。12世紀後半という明確な年代をもつ本銅印は上記の特徴をよく表している。
- ③ 鑄造技術の面からいっても、これまで8～9世紀代の古代印と近世印の分析データの知られるなかで、本銅印が両者の中间的位置を示す点が注目される。

奥州藤原氏三代によって築かれた平泉は、あらゆる面で古代国家の政治体制および京の文化を積極的に受容したとされている。古代印はいわば古代国家の最も象徴的存在であった。その意味において奥州藤原氏が支配下の奥六郡内の地域名の銅印を作成したことはきわめて象徴的な施策と評価できるであろう。

〔付記〕まだ、出土後まもない段階であり全体にわたる詳細な観察と分析を終えていないので、小稿はあくまでも一応の見通しを述べた中間報告であることをお断りしておきたい。

表1 郡印の印面法量（縦×横）

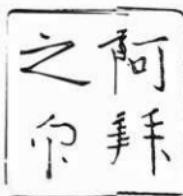
| 印文 | 文書名 | 文書の年代 | 西暦 | 文書出典 | 印面 | 縦 (mm) | 横 (mm) |
|-------|----------------|-------------|------|--------------|----|-----------|-----------|
| 宇治郡印 | 山背国宇治郡加美郷家地壳買券 | 天平20年8月26日 | 748 | 大古3-112~113 | 方形 | 49 | 48 |
| 阿伴之印 | 伊賀国阿伴郡柘植郷堅田壳買券 | 天平勝宝3年4月12日 | 751 | 大古3-500~501 | タ | 42 | 42 |
| 坂井郡印 | 越前国坂井郡司解 | 天平宝字2年正月12日 | 758 | 大古4-257~258 | タ | 54 | 51 |
| 宇治郡印 | 矢田郡造麻呂家地壳券 | タ 5年11月2日 | 761 | 大古15-127~129 | タ | 45 | 44 |
| 十市郡印 | 大和国十市郡池上郷家地壳買券 | タ 5年11月27日 | 761 | 大古4-520~522 | 八角 | 43 | 42 |
| 山田郡印 | 山田郡弘福寺田校出注文 | タ 7年10月29日 | 763 | 大古5-459~461 | 方形 | 47 | 44 |
| 足羽郡印 | 越前国足羽郡司解 | 天平神護2年9月19日 | 766 | 大古5-543~544 | タ | 49 | 49 |
| 津高郡印 | 春前国津高郡菟垣村常地畠壳券 | 宝龟5年11月23日 | 774 | 大古6-577 | タ | | |
| 爱智郡印 | 近江国八木郷堅田壳券 | 延暦15年11月2日 | 796 | 平1-16 | タ | 45 | 45 |
| 郡賀郡印 | 紀伊国郡賀郡司解 | 承和12年2月5日 | 845 | 平1-79 | タ | 49 | 49 |
| 伊都郡印 | 紀伊国在伊郡司解 | 仁寿4年6月7日 | 854 | 平1-115 | タ | 41~42 | 41~42 |
| 名草郡印力 | 紀伊国直川郷堅田壳券 | 貞觀3年2月25日 | 861 | 平1-130 | タ | 46 | 46 |
| 添下郡印 | 大和国矢田郷長解 | 元慶3年5月27日 | 879 | 平1-173 | タ | 42 | 42 |
| 添上郡印 | 東大寺上座慶賛懸状 | 延喜11年4月11日 | 911 | 平1-206 | タ | 38 | 43 |
| 高草郡印 | 因幡國東大寺領高庭莊坪付 | 天慶3年9月2日 | 940 | 平1-251 | タ | 46 | 45 |
| 足羽郡印 | 越前国足羽郡序裏 | 天暦5年10月23日 | 951 | 平1-263 | タ | 46 | 45 |
| 紀伊郡印 | 法勝院領目録 | 安和2年7月8日 | 969 | 平2-302 | タ | 46 | 45 |
| 平群郡印 | 法隆寺僧某家地壳券 | 正暦2年10月23日 | 991 | 平2-352 | タ | 41 | 43 |
| 添上郡印 | 大和国添上郡牒 | 正暦2年3月14日 | 991 | 平2-349 | タ | 49 | 48 |
| 答志郡印 | 石部松春畠地等壳券 | 天喜2年10月28日 | 1054 | 平10-4934 | 円形 | 径45 | |
| 可児郡印 | 大宰大貳原經平宅解 | 承暦2年12月22日 | 1078 | 平3-1160 | 方形 | 43 | 41 |

表2 郷印の印面法量（縦×横）

| 印文 | 現所在 | 印面 | 縦 (mm) | 横 (mm) |
|------|-----------|----|-----------|-----------|
| 伊保郷印 | 豊田市郷土資料館 | 方形 | 33 | 33 |
| 余戸郷印 | 印影一個人 | 方形 | 32 | 32 |
| 次田郷印 | 天理大学付属図書館 | 方形 | 34 | 34 |



坂井郡印 天平宝字二年（758）



阿井之印 天平勝宝三年（751）



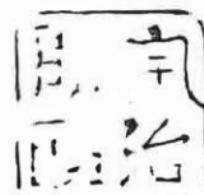
宇治郡印 天平廿年（748）



山田郡印 天平宝字七年（763）



十市郡印 天平宝字五年（761）



宇治郡印 天平宝字五年（761）



愛智郡印 延暦十五年（796）



津高郡印 宝龜五年（774）



足羽郡印 天平神護二年（766）

図1 郡印〔印影資料〕の変遷（その1）



高草郡印 天慶三年（940）



宇治郡印 承和十四年（847）



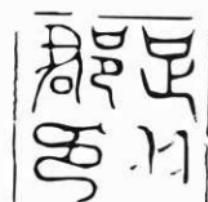
那賀郡印 承和十二年（845）



平郡印 正暦二年（991）



紀伊郡印 安和二年（969）



足羽郡印 天慶五年（951）



可見郡印 承暦二年（1078）



名張郡印 天喜二年（1054）



南多摩郡印 正暦二年（991）

図2 郡印〔印影資料〕の変遷（その2）

秀良

| | | | | | | | | |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------|----|------|-----|--|--|
| 資料名称 | 「次田郷印」 | | 残存形態 | 伝世 | 資料番号 | 156 | | |
| 古印の状態 | 完存 | 鍛錆有 | | | | | | |
| 出土遺跡 | | | | | | | | |
| 出土遺構 | | | 鍛錆有 | | | | | |
| 伝来の経緯 | 加藤千蔵の蒐集印を、のちに根岸武香が入手。「根岸武香珍藏」と漆描きした箱内に用箋があり、もとは「御笠郡印」と共に大安寺内の菅原天満宮に納められていたとの由来を記す。1967年頃、村口四郎氏の書籍類と共に購入したか。 | | | | | | | |
| 現所在 (寄託を含む) | 名称(氏名) 天理大学附属図書館 | | | | | | | |
| 原所在 | 名称(氏名) | | | | | | | |
| 法量 | 現存高 34 mm 印側高 mm 重量 63.91 g | | | | | | | |
| | 印面 縦 34 mm × 横 34 mm (方形の場合) | | | | | | | |
| | 長径 mm × 短径 mm (円形・有頭形の場合) | | | | | | | |
| 形状・形態 | 鉢の形状 蒜頭有孔 | | | | | | | |
| | 印面の形状 方形 | | | | | | | |
| | 印類 陽刻 | | | | | | | |
| | 輪郭 有郭 | | | | | | | |
| | 材質 青銅 | | | | | | | |



御笠郡印



見湯郡印



山邊郡印

図3 郡印【出土・伝世資料】の印影

[資料は以下、すべて『国立歴史民俗博物館研究報告』
第79集 - 日本古代印の基礎的研究、1999年、より引用。]

愛知

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------|--------------|-----|------|------|-------|----|----|----|----|----|----|----|
| 資料名称 | 「伊保郷印」① | | 残存形態 | 伝世 | 資料番号 | 111 | | | | | | | | | | |
| 古印の状態 | 完存 <input checked="" type="checkbox"/> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 出土遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 出土・遺構 | | | <input checked="" type="checkbox"/> | | | | | | | | | | | | | |
| 伝来の経緯 | 元は個人蔵であった。1971年3月1日、豊田市の市制20周年に当たり同市に寄贈されて今に至る。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現所在 (寄託を含む) | 名称(氏名) 豊田市郷土資料館 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 原所在 | 名称(氏名) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 法量 | 現存高 印面 長径 | 34 mm 縦 33 mm × 横 33 mm (方影の場合) mm × 短径 mm (円影・椭円影の場合) | 印側高 mm | 1.5 mm | 重量 58.4 g | | | | | | | | | | | |
| 形状・形態 | <table border="1"> <tr><td>鉢の形状</td><td>杏鉢有孔</td></tr> <tr><td>印面の形状</td><td>方形</td></tr> <tr><td>印顎</td><td>陽刻</td></tr> <tr><td>輪郭</td><td>有郭</td></tr> <tr><td>材質</td><td>青銅</td></tr> </table> | | | | | | 鉢の形状 | 杏鉢有孔 | 印面の形状 | 方形 | 印顎 | 陽刻 | 輪郭 | 有郭 | 材質 | 青銅 |
| 鉢の形状 | 杏鉢有孔 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 印面の形状 | 方形 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 印顎 | 陽刻 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 輪郭 | 有郭 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材質 | 青銅 | | | | | | | | | | | | | | | |



| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------|----|---------|-----|------|--|-------|----|----|----|----|----|----|--|
| 資料名称 | 〈印影〉「余戸郷印」 | | 残存形態 | 伝世 | 資料番号 | 186 | | | | | | | | | | |
| 古印の状態 | <input checked="" type="checkbox"/> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 出土遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 出土・遺構 | | | <input checked="" type="checkbox"/> | | | | | | | | | | | | | |
| 伝来の経緯 | 明治期に慧日寺から古物商へ流出した古印四点を個人が購入し、安田善次郎氏(安田財閥創設者)に献呈、安田文庫(現在は存在せず)に収蔵された。戦後、所在不明。現在、会津若松市在住の個人が印影のみ所蔵。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現所在 (寄託を含む) | 名称(氏名) 〈印影〉個人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 原所在 | 名称(氏名) 慧日寺 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 法量 | 現存高 印面 長径 | mm 縦 32 mm × 横 32 mm (方影の場合) mm × 短径 mm (円影・椭円影の場合) | 印側高 mm | mm | 重量 g | | | | | | | | | | | |
| 形状・形態 | <table border="1"> <tr><td>鉢の形状</td><td></td></tr> <tr><td>印面の形状</td><td>方形</td></tr> <tr><td>印顎</td><td>陽刻</td></tr> <tr><td>輪郭</td><td>有郭</td></tr> <tr><td>材質</td><td></td></tr> </table> | | | | | | 鉢の形状 | | 印面の形状 | 方形 | 印顎 | 陽刻 | 輪郭 | 有郭 | 材質 | |
| 鉢の形状 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 印面の形状 | 方形 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 印顎 | 陽刻 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 輪郭 | 有郭 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材質 | | | | | | | | | | | | | | | | |

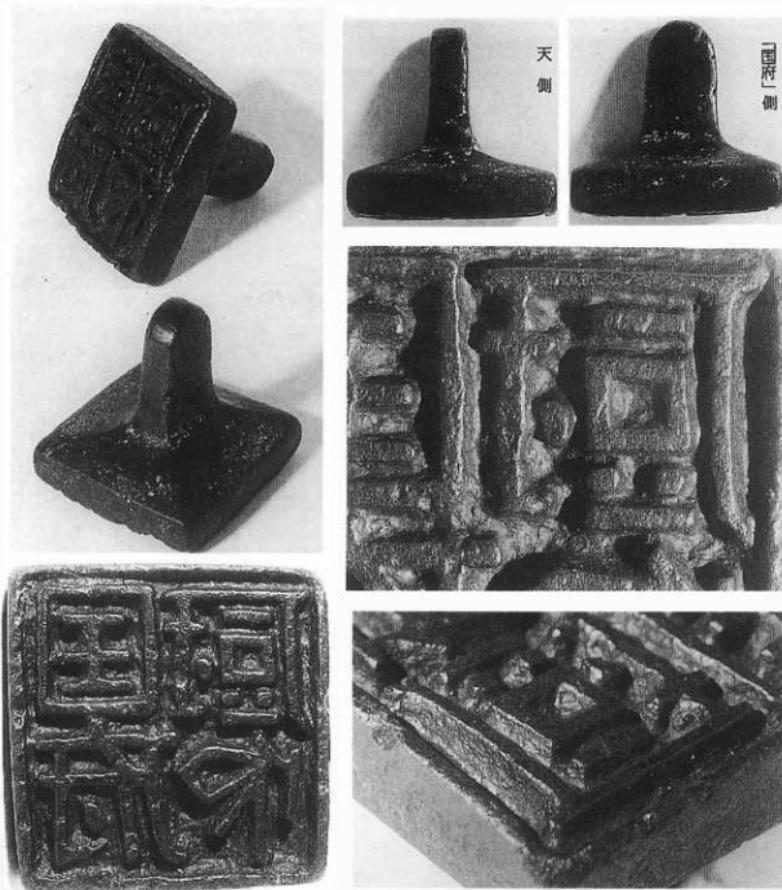




伊保郷印



〔『豊田の文化財』1985年、豊田市教育委員会〕

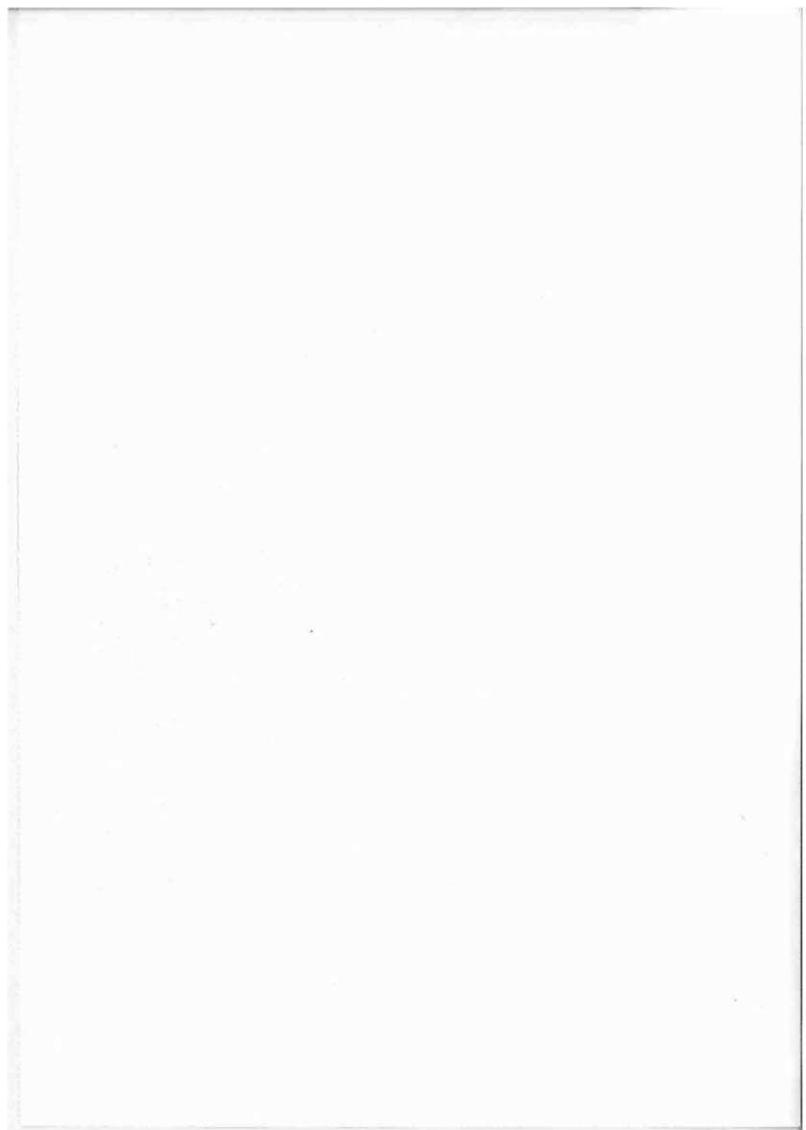


「国府厨印」 宮城県七ヶ浜町 鼻節神社蔵

縦41×横41×高さ39mm
重量 124.1515g

永崎正春「非破壊手法による網印の科学的研究」
『国立歴史民俗博物館研究報告79集
日本古代印の基礎的研究』1999年

写 真 図 版





柳之御所遺跡全体図



柳之御所遺跡第50次調査区

写真図版1 航空写真



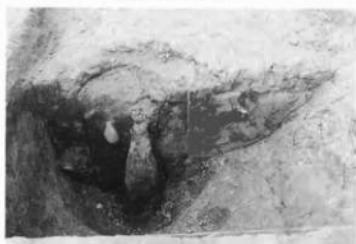
50SB1 (E→)



50SB1 (W→)



50SB1 PP3断面



50SB1 PP14断面



50SB1 布掘内集石



50SB1 集石断面

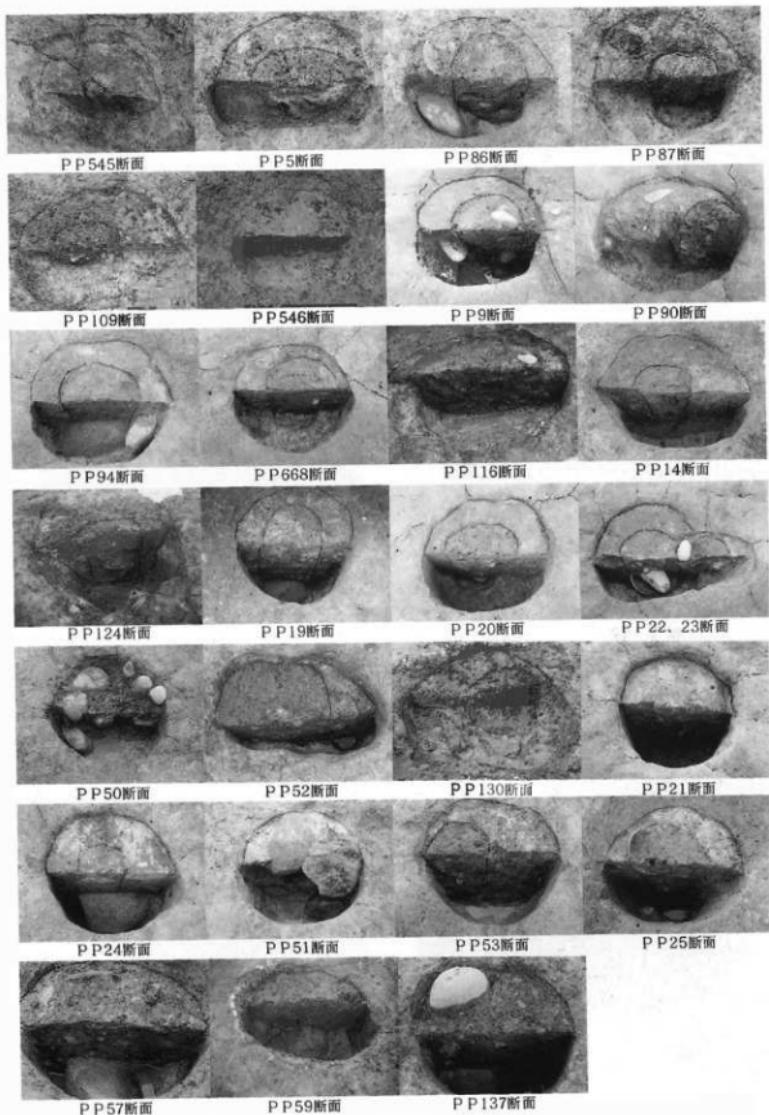


50SB2 PP1断面



50SB2 PP1完掘

写真図版2 50SB1、SB2



写真図版3 50SB3柱穴断面



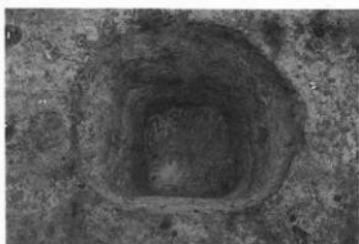
かわらけ集中 (50SE1) 検出



かわらけ集中 断面



50SE2 断面



50SE2 完掘



37SE2 断面



37SE2 完掘



37SE2 部材、かわらけ出土状況



37SE2 部材出土状況

写真図版4 50SE1、50SE2、37SE2



50SE3 完掘 (N→)



50SE3 完掘 (E→)



50SE3 断面 (上位)



50SE3 断面 (中位)



50SE3 断面 (下位)



白磁四耳壺出土状況



白磁四耳壺出土状況

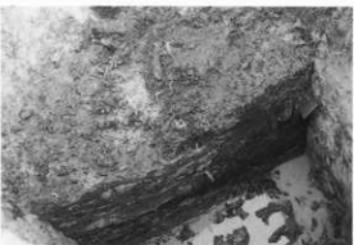


白磁四耳壺出土状況

写真図版5 50SE3①



白磁四耳壺出土状況



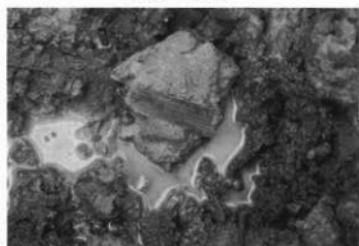
印章出土状況



印章出土状況



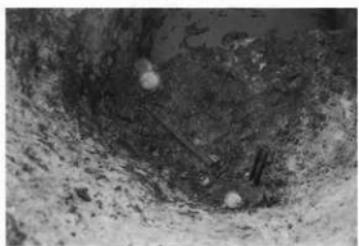
墨書出土状況



墨書出土状況



墨書出土状況

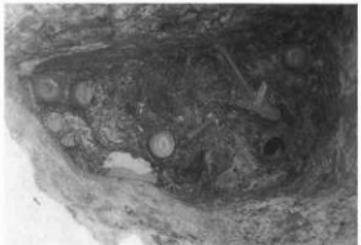


遺物出土状況



漆塗り製品出土状況

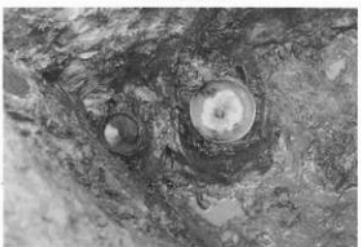
写真図版6 50SE3②



遺物出土状況



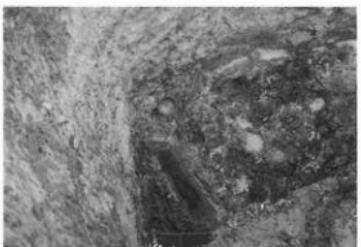
遺物出土状況



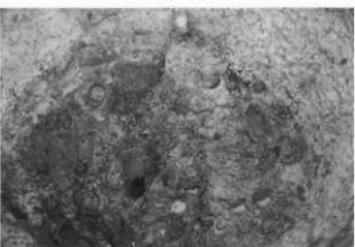
遺物出土状況



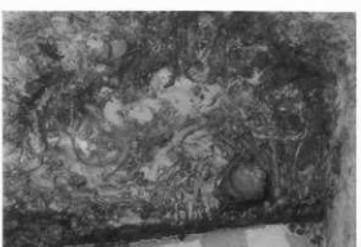
遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況

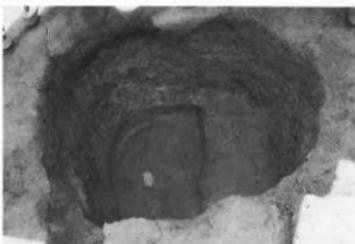


遺物出土状況

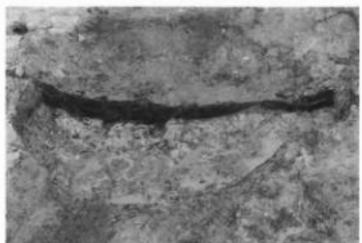
写真図版7 50SE3③



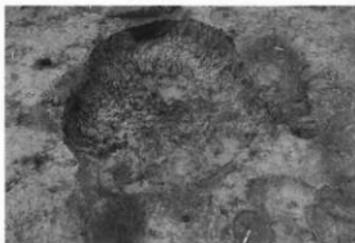
50SK1 断面



50SK1 完掘



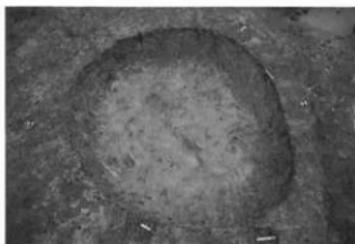
50SK2 断面



50SK2 完掘



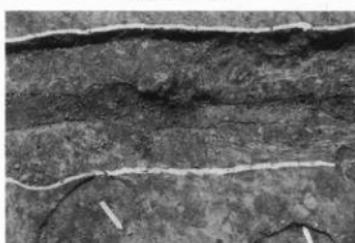
50SK3 断面



50SK3 完掘



50SA1 材痕跡

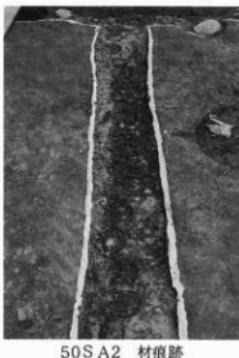


50SA1 材痕跡

写真図版B 50SK1~3、50SA1



50SA1 検出



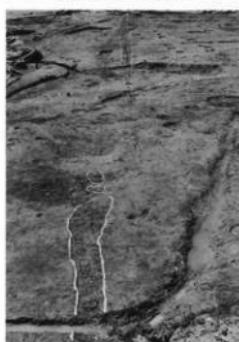
50SA2 材痕跡



50SA2 材痕跡



50SA2 検出



50SA2 材痕跡 東西辺



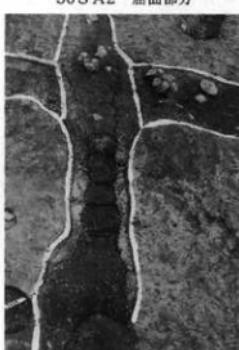
50SA2 層曲部分



50SA3 検出

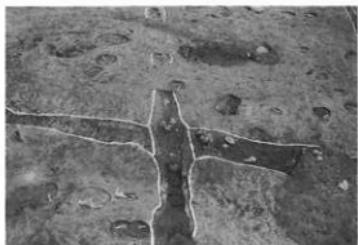


50SA4 検出



50SA5 材痕跡

写真図版9 50SA1~5



50SA5 検出



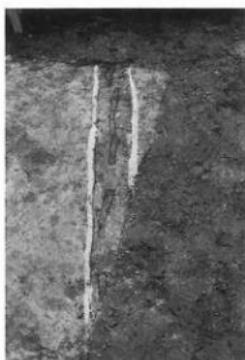
50SA6 植出



50SA7 植出



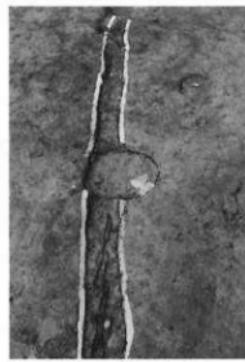
50SA7 材痕跡



50SA7 材痕跡



50SA8 材痕跡



50SA8 材痕跡



50SA8 植出

写真図版10 50SA5~8



50S A9 検出



50S A10 検出 (W→)



50S A10 検出 (S→)



50S A10 検出 (E→)



50S A12 検出



50S A13 検出

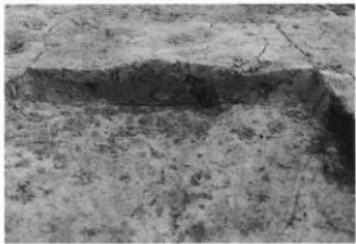


50S D1 断面



50S D2 断面

写真図版11 50SA9~13、50SD1、2



50SD3 断面



50SD4 断面



42SD1, 50SD5, 50SD6 断面



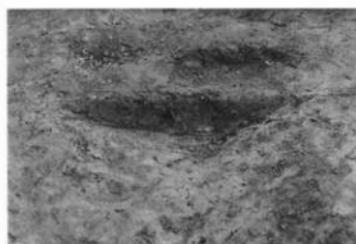
42SD1 断面



42SD1, 50SD5, 50SD6 完掘



42SD1 完掘



50SD7 断面



50SD8 完掘

写真図版12 50SD3~8、42SD1



50S D8 かわらけ集中 (東)



50S D8 かわらけ集中 (西)



50S D8 完掘 (W→)



50S D8 完掘 (E→)



92-68 グリッド内溝断面



37SD9 断面

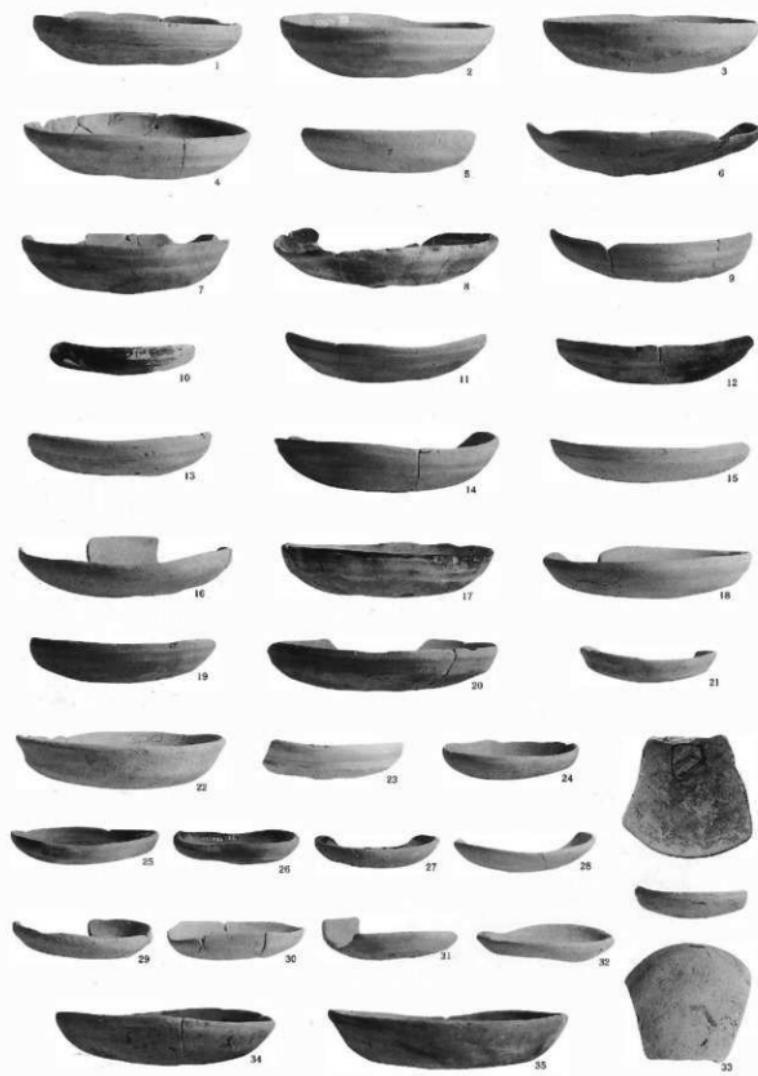


42SD12 断面

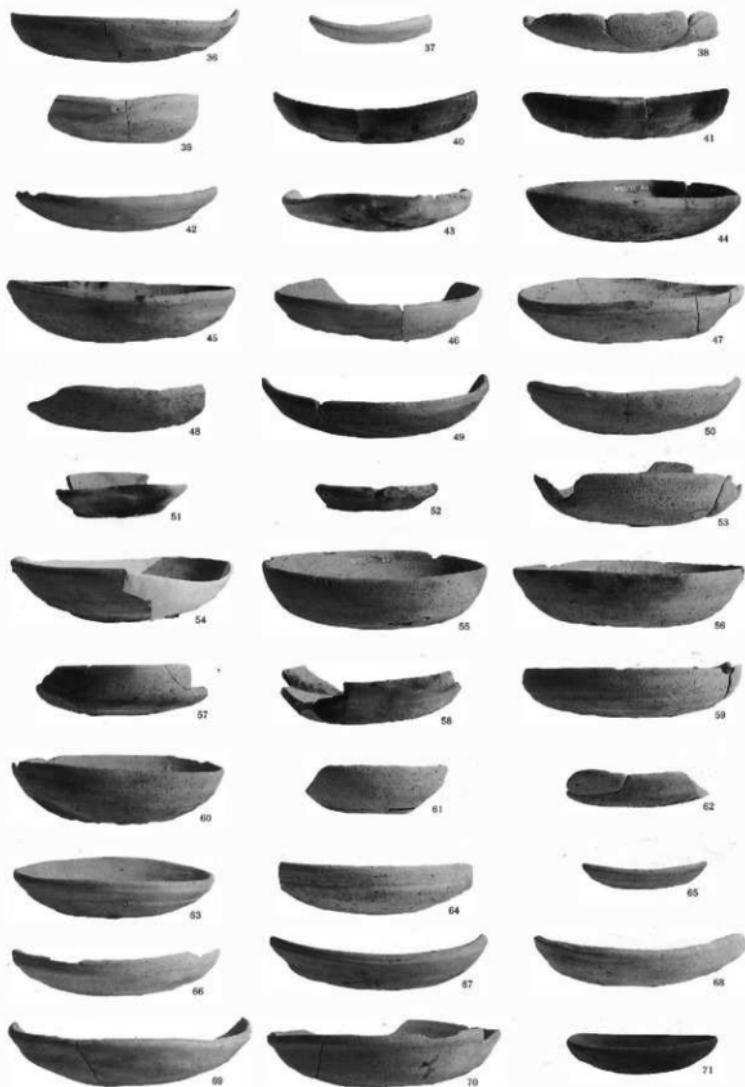


調査区より南方を望む

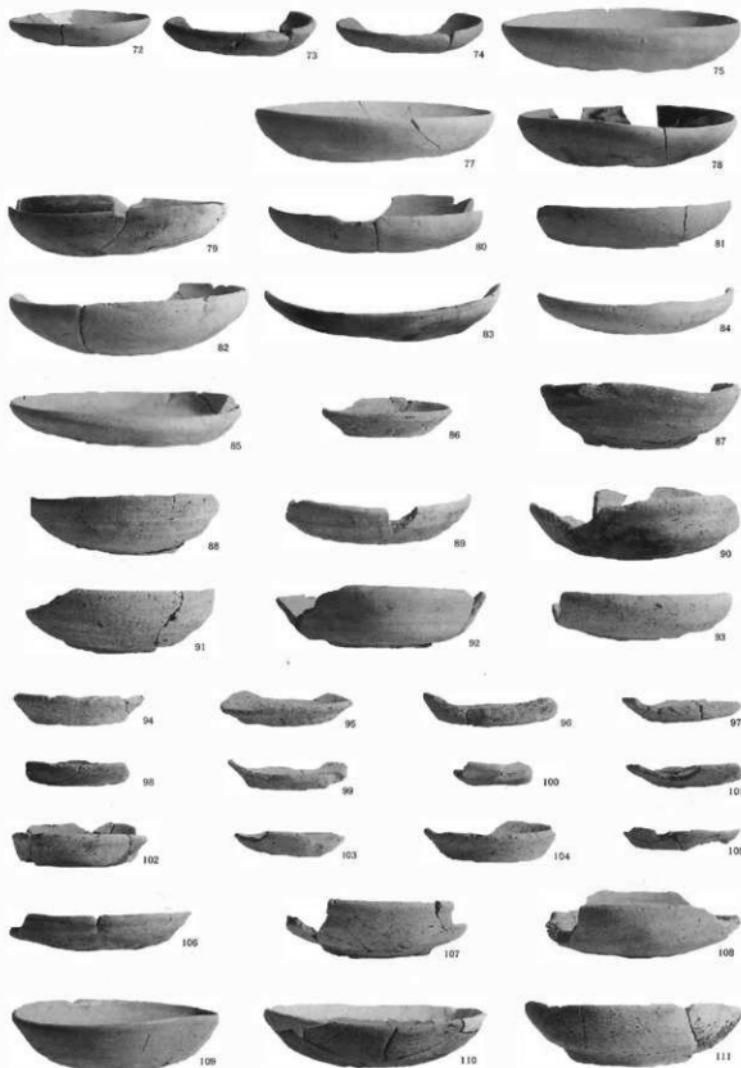
写真図版13 50SD8、37SD9、42SD12



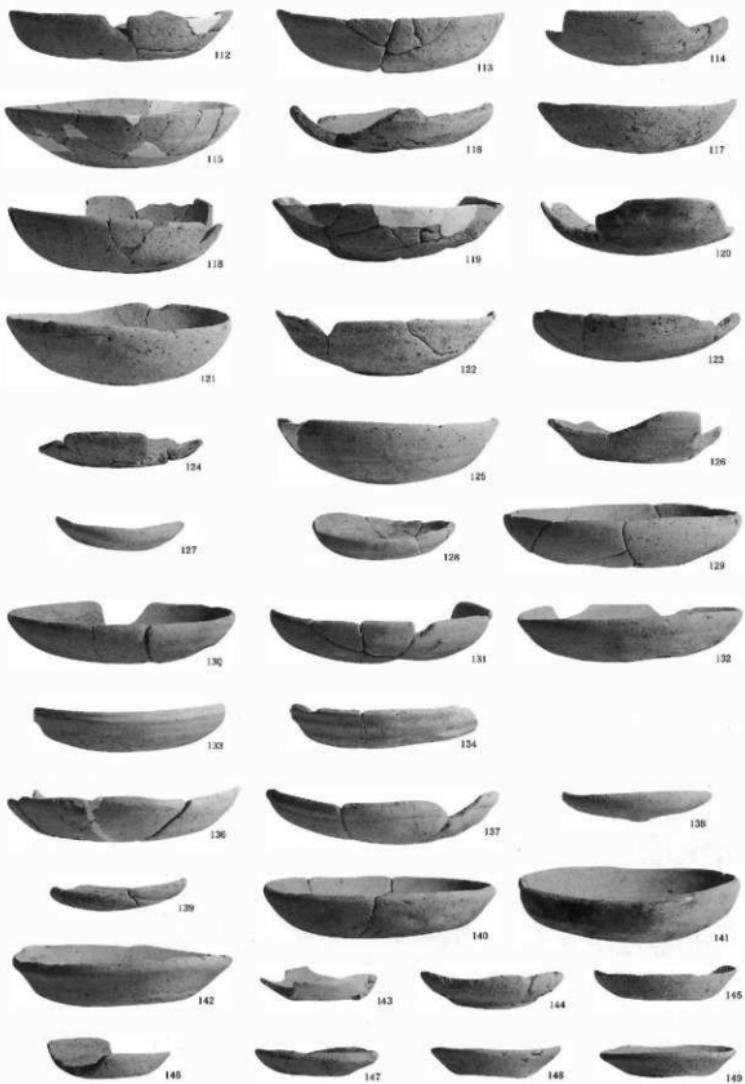
写真図版14 かわらけ① (1~35) S=約1/3



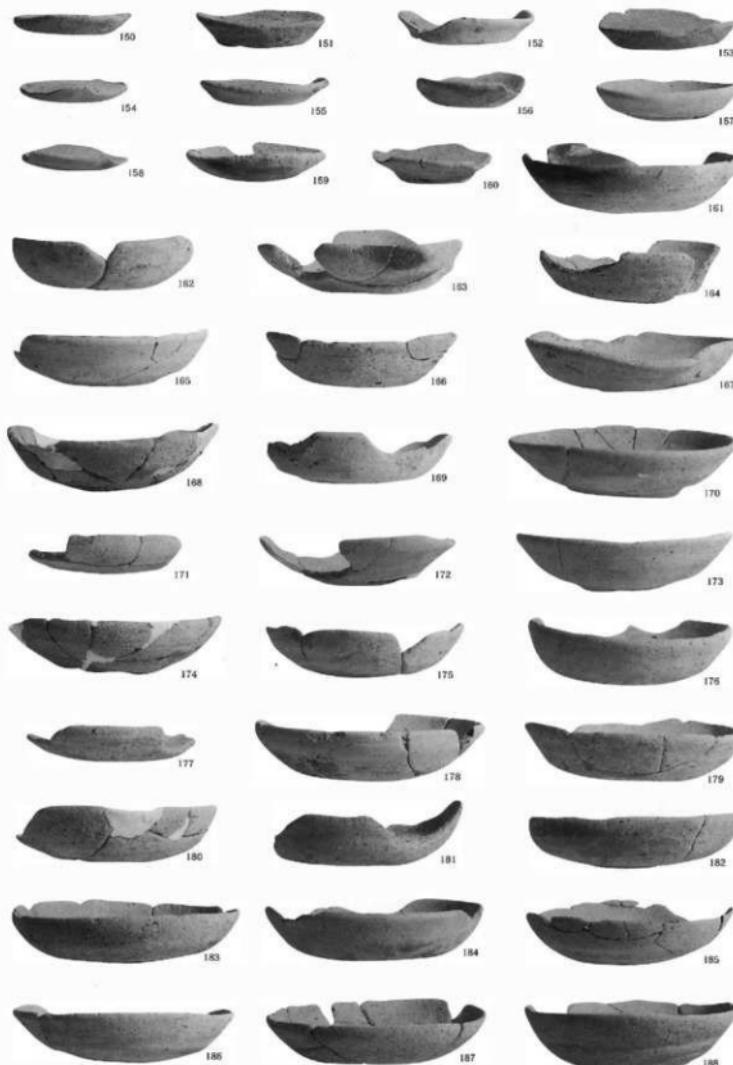
写真図版15 かわらけ② (36~71) S=約1/3



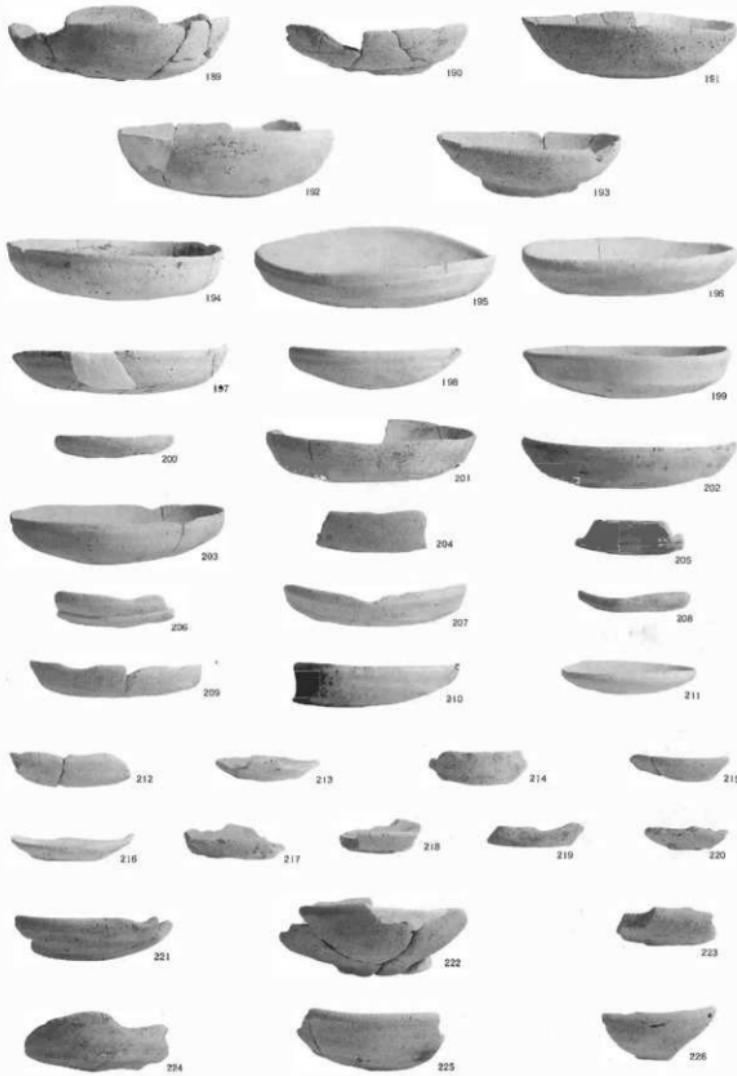
写真図版16 かわらけ③ (72~111) S=約1/3



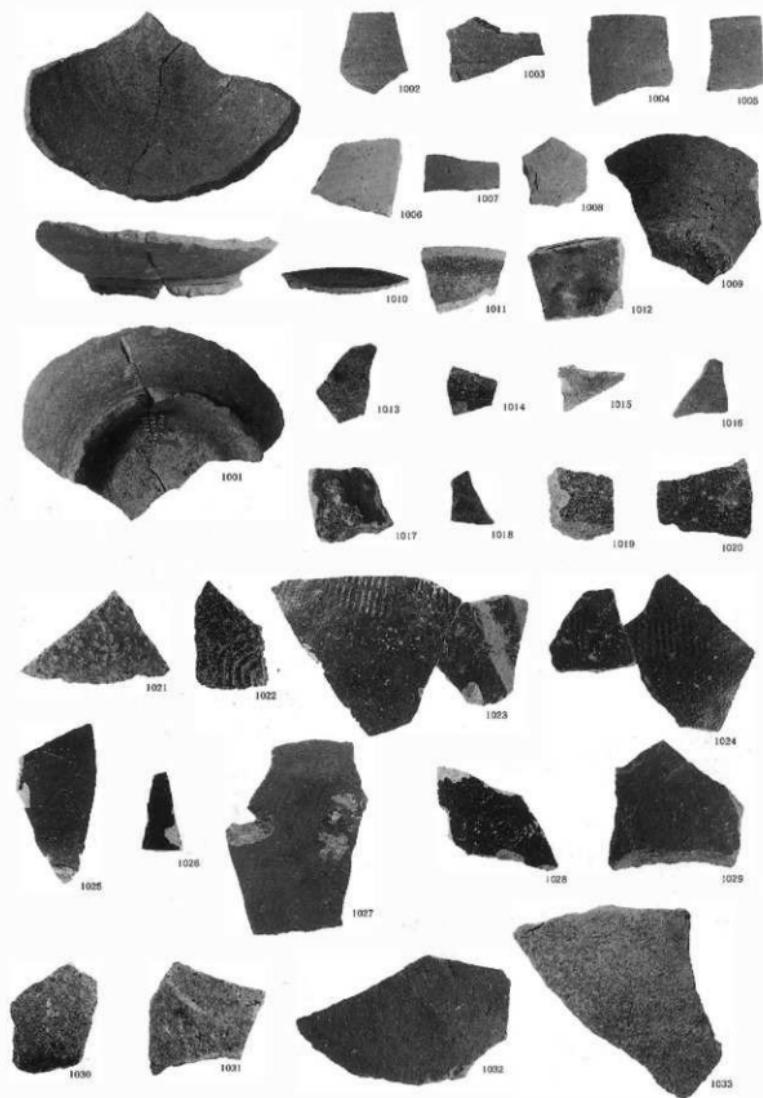
写真図版17 かわらけ④ (112~149) S=約1/3



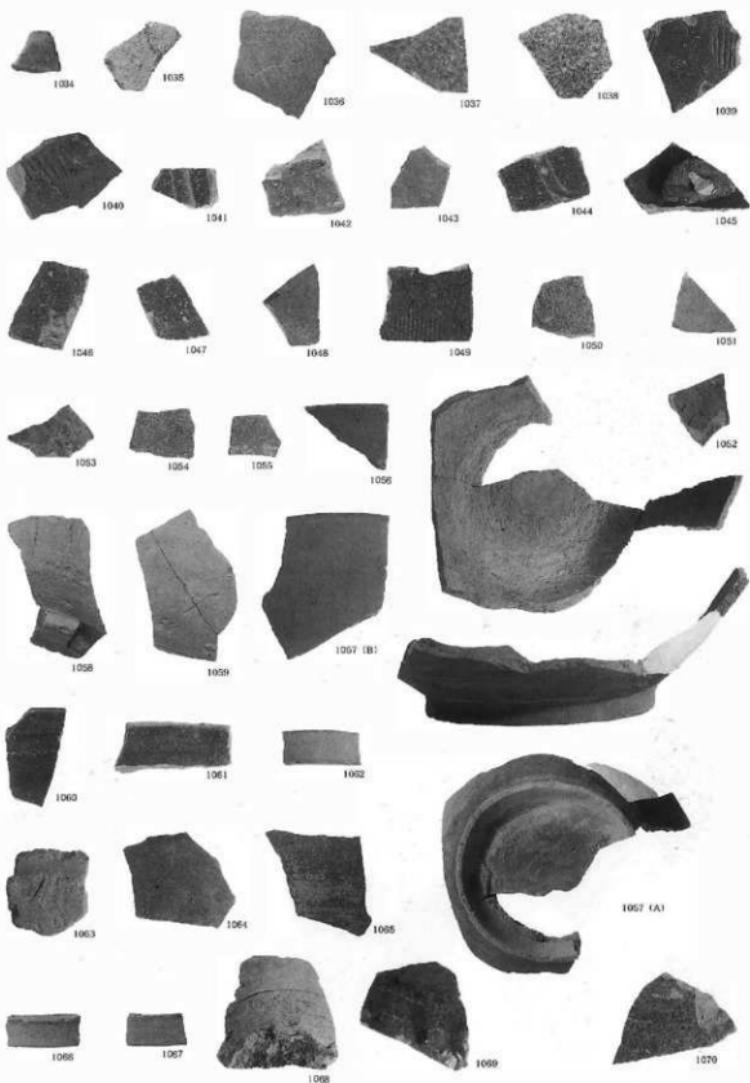
写真図版18 かわらけ⑤ (150~188) S=約1/3



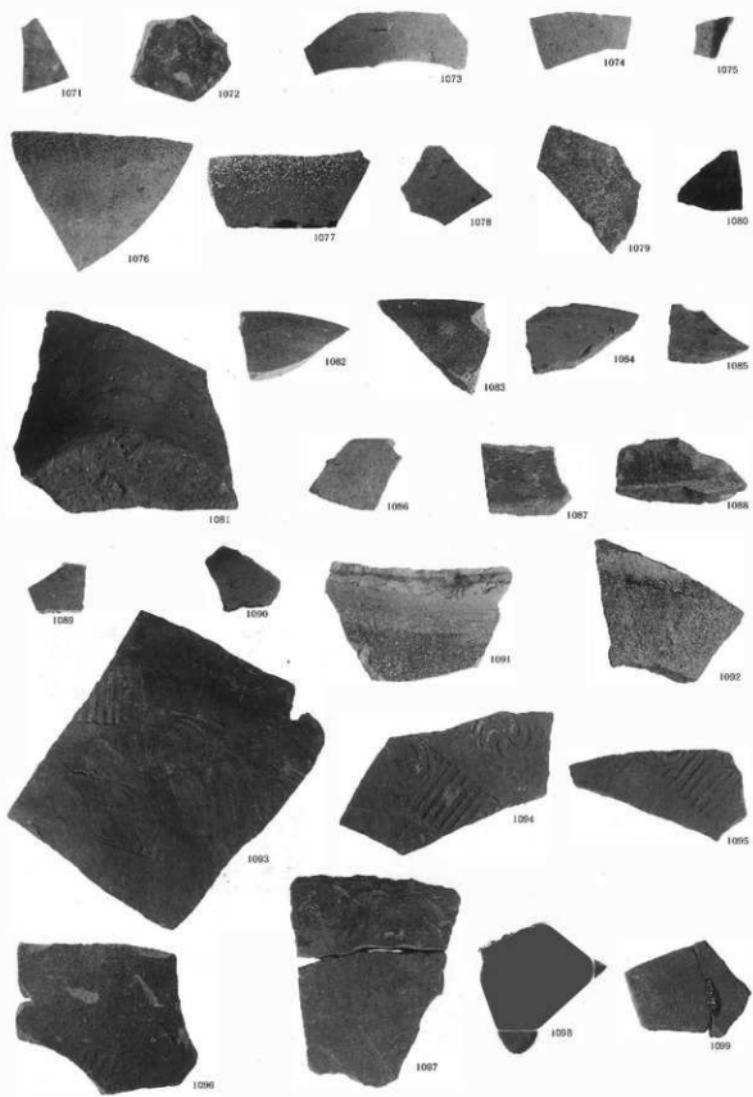
写真図版19 かわらけ⑥ (189~226) S=約1/3



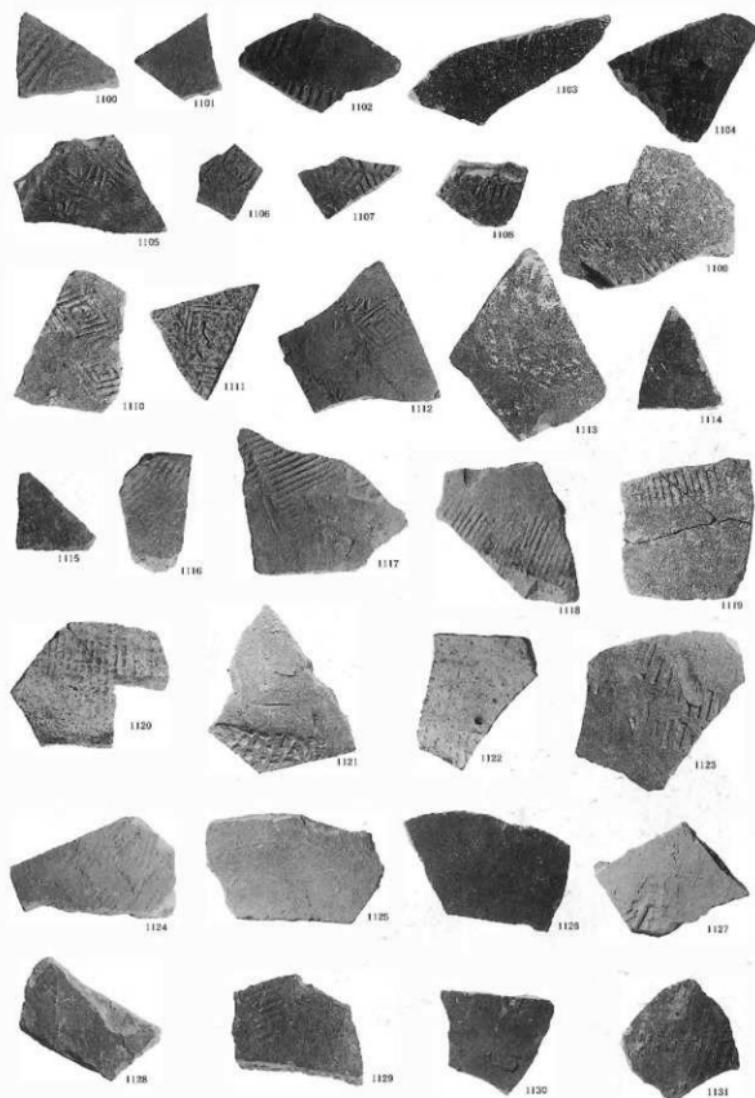
写真図版20 国産陶器① (1001~1033) S=約1/3



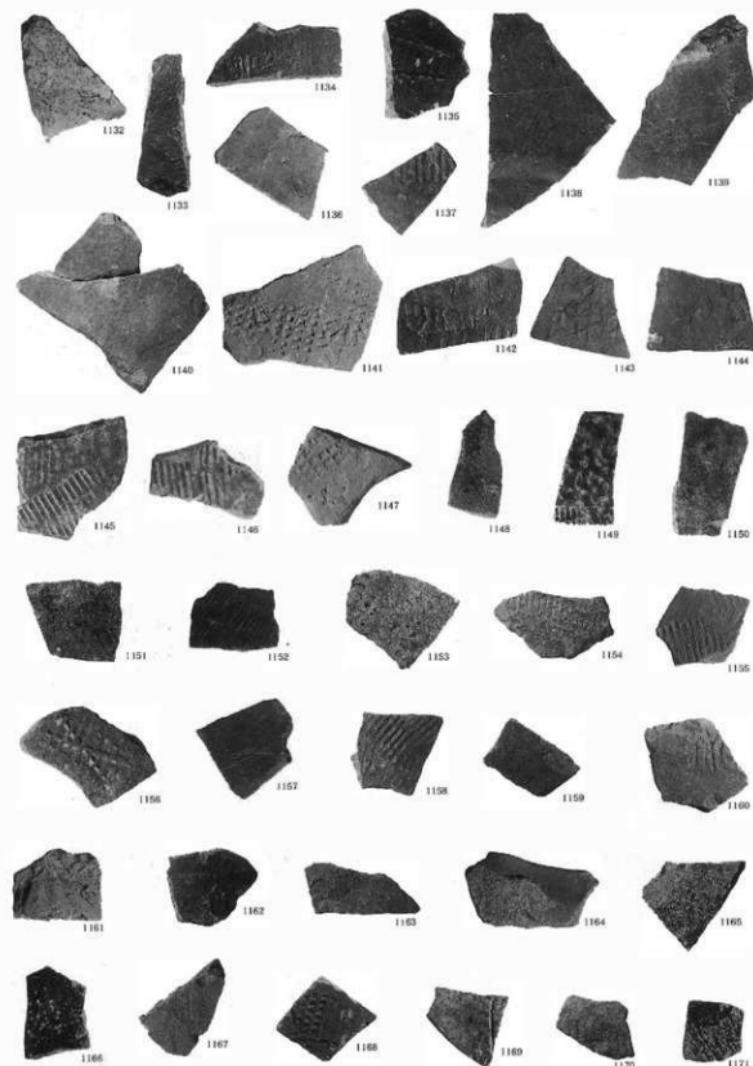
写真図版21 国產陶器② (1034~1070) S=約1/3



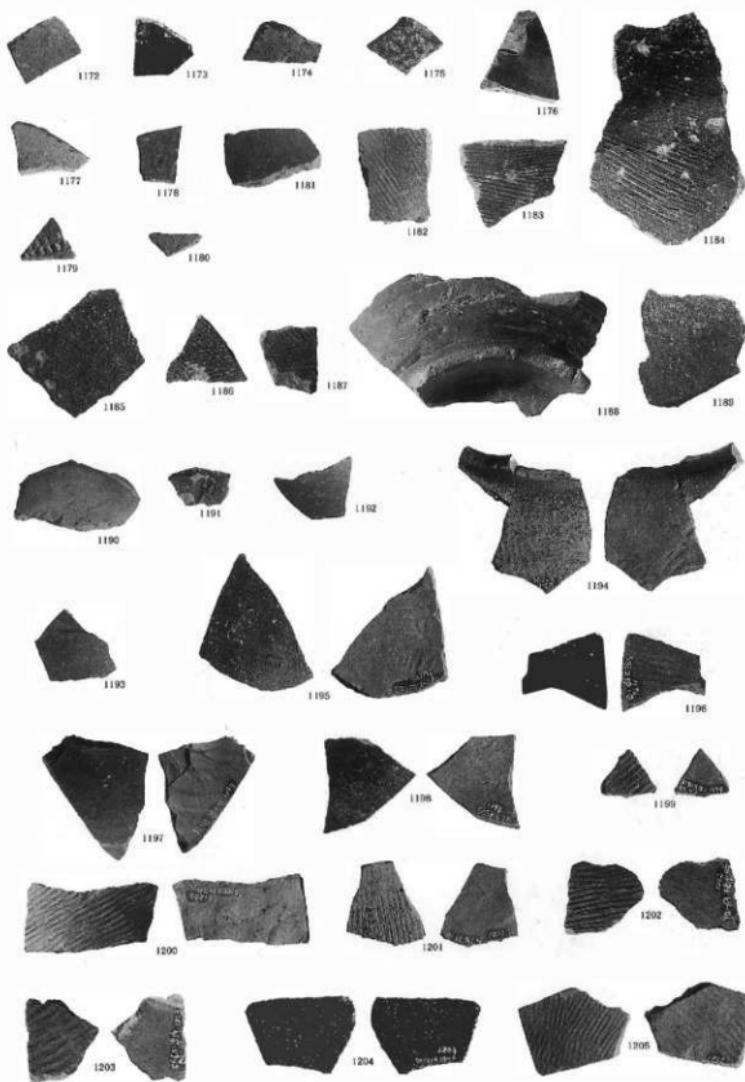
写真図版22 国產陶器③ (1071~1099) S=約1/3



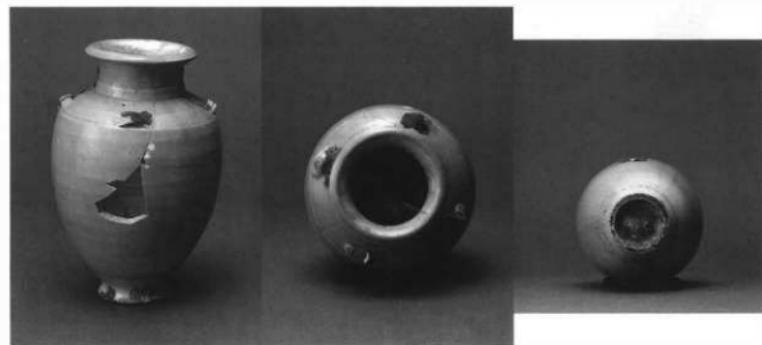
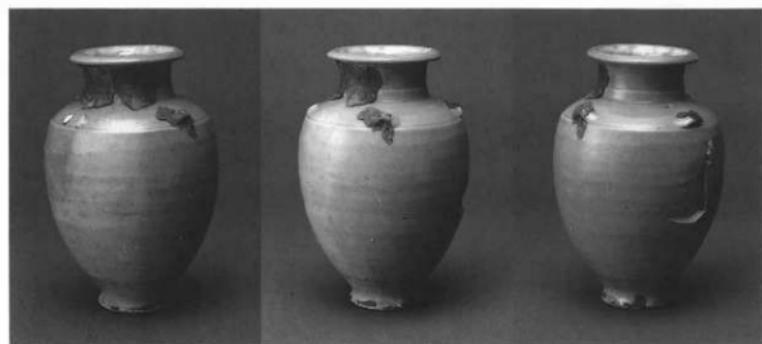
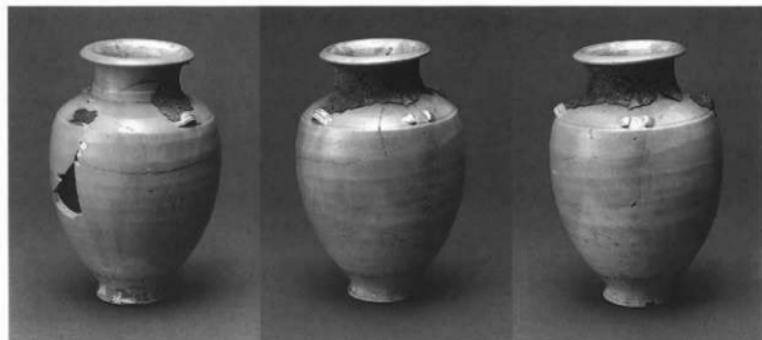
写真図版23 国産陶器④ (1100~1131) S=約1/3



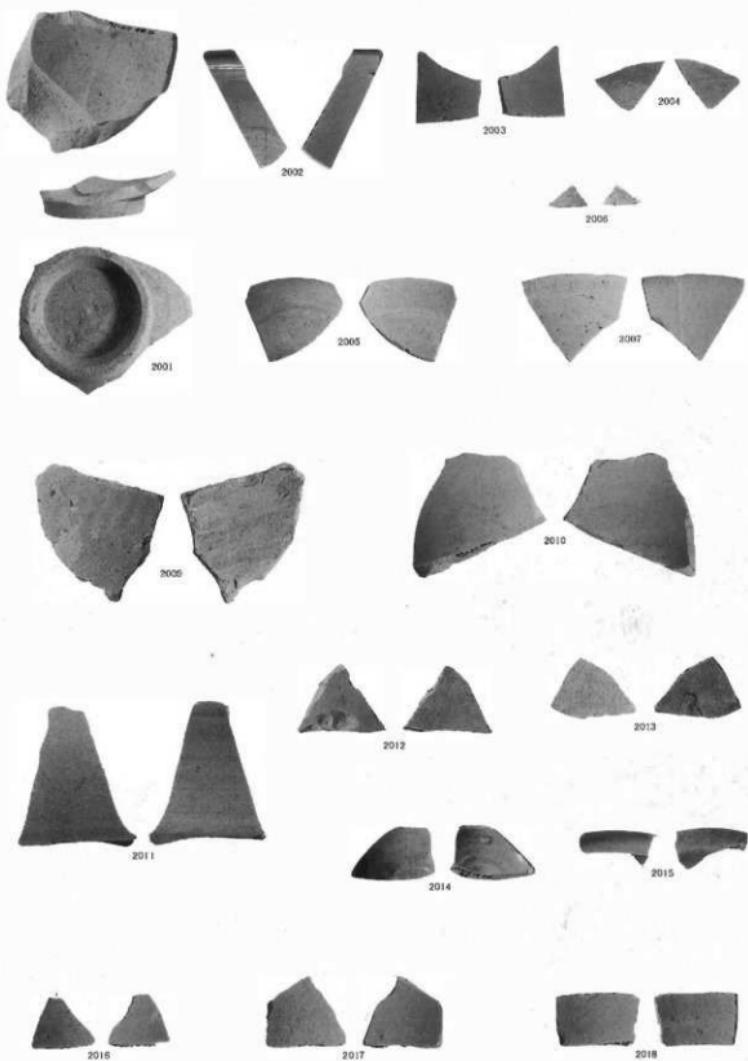
写真図版24 国産陶器⑤ (1132~1171) S=約1/3



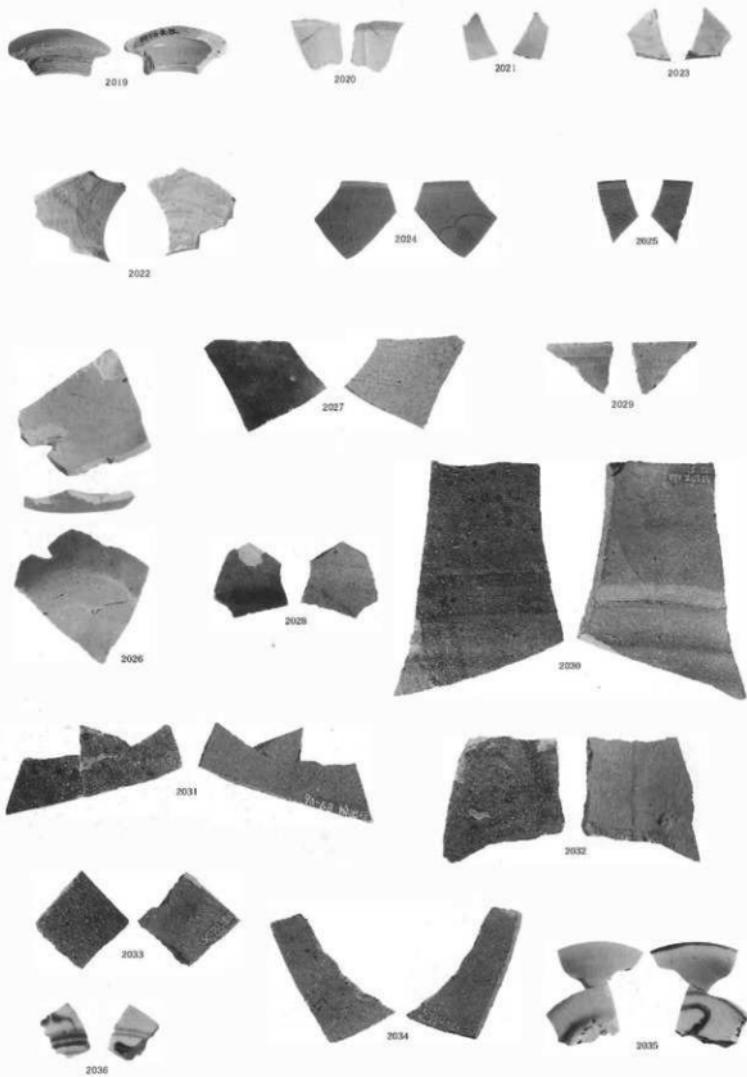
写真図版25 国産陶器⑥・須恵器 (1172~1205) S=約1/3



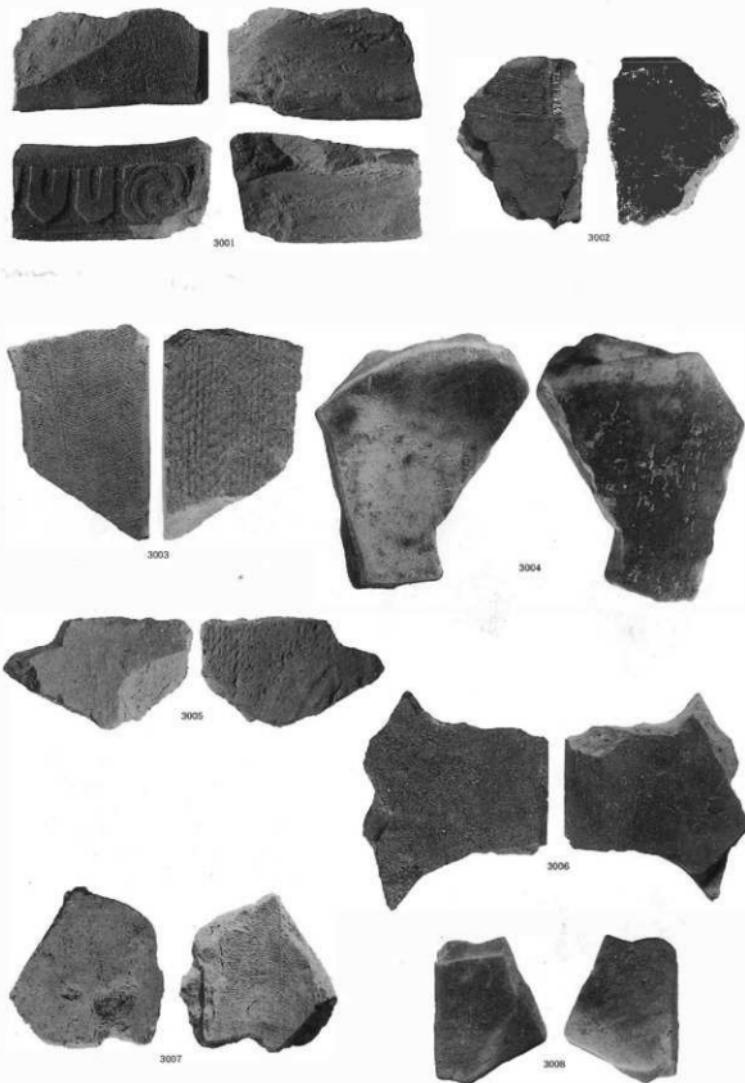
写真図版26 中国産陶磁器①（白磁四耳壺 2008）



写真図版27 中国産陶磁器② (2001~2018) S=約1/3



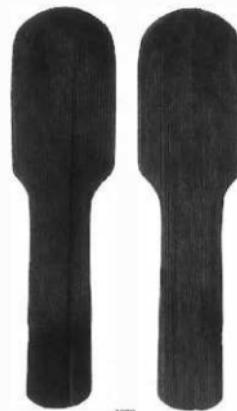
写真図版28 中国産陶磁器③ (2019~2035) S=約1/3



写真図版29 瓦 (3001~3008) S=約1/3



4001



4003



4002



4006



4004



4005



4006

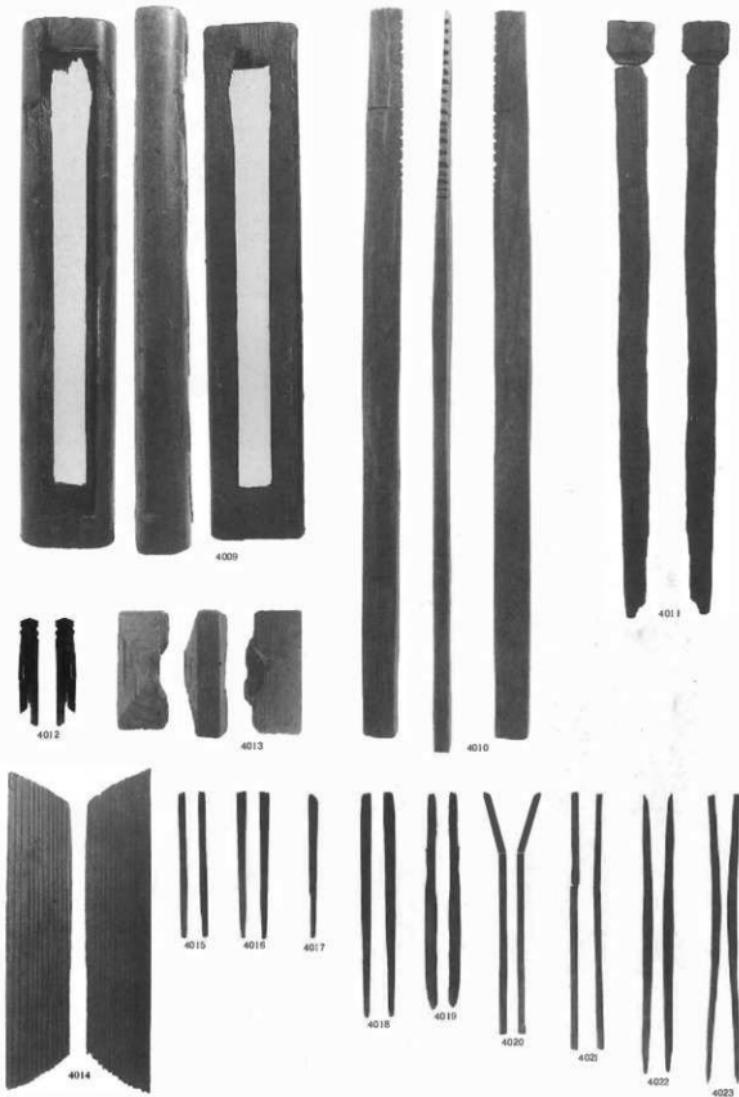


4007



4008

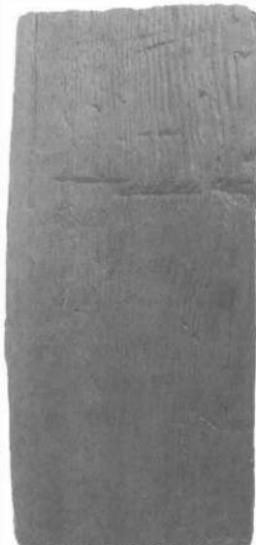
写真図版30 木製品① (4001~4008) S=約1/3



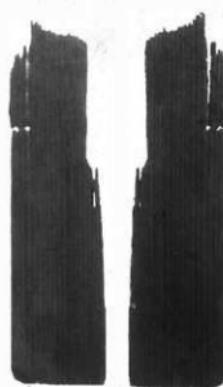
写真図版31 木製品② (4009~4023) S=約1/3



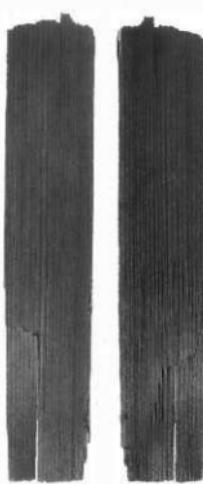
4024



4025



4026



4027



4028

写真図版32 木製品③ (4024~4028) S=約1/3



4029



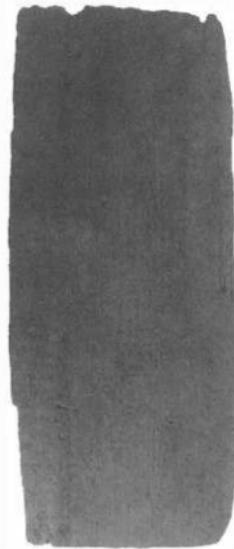
4031



4032



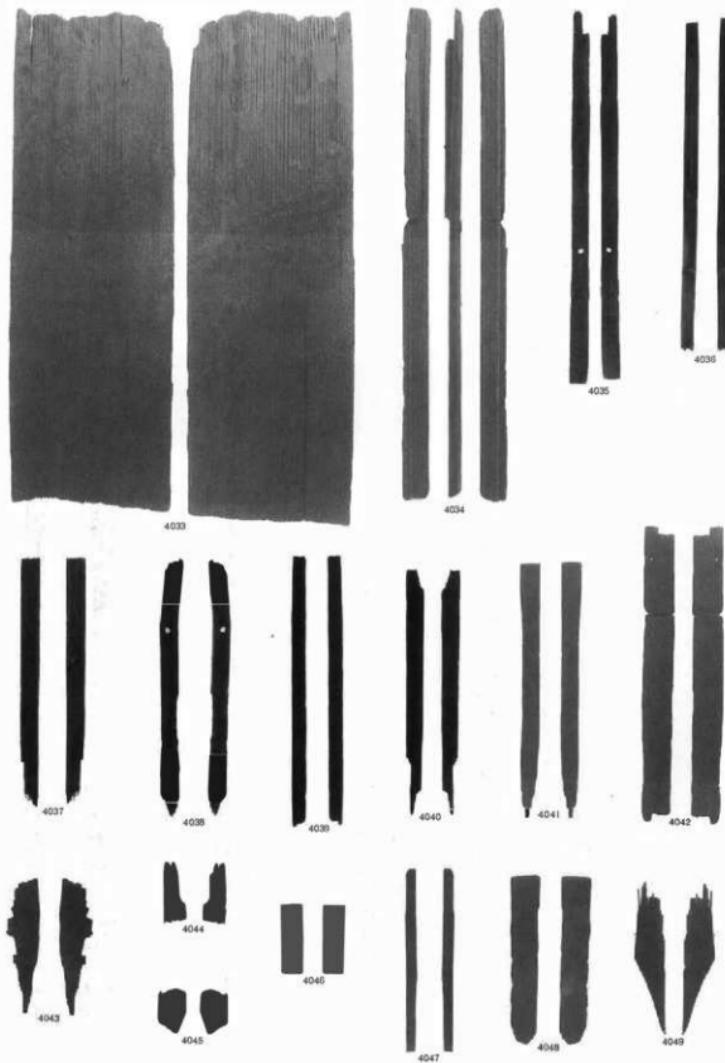
4030



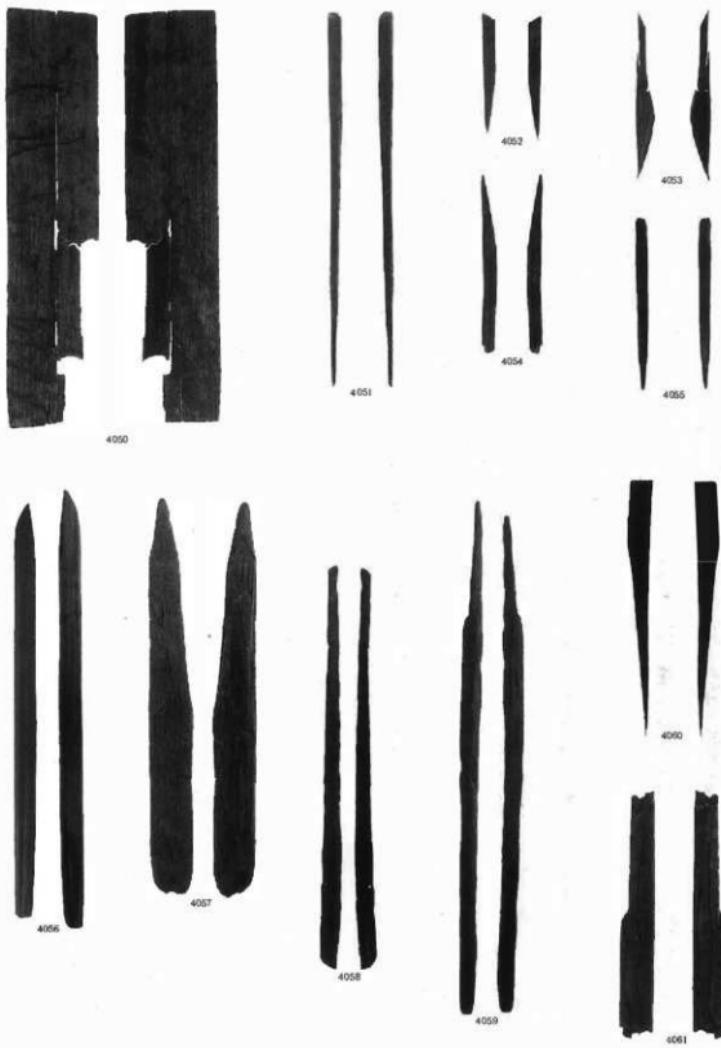
4032



写真図版33 木製品④ (4029~4032) S=約1/3



写真図版34 木製品⑤ (4033~4049) S=約1/3



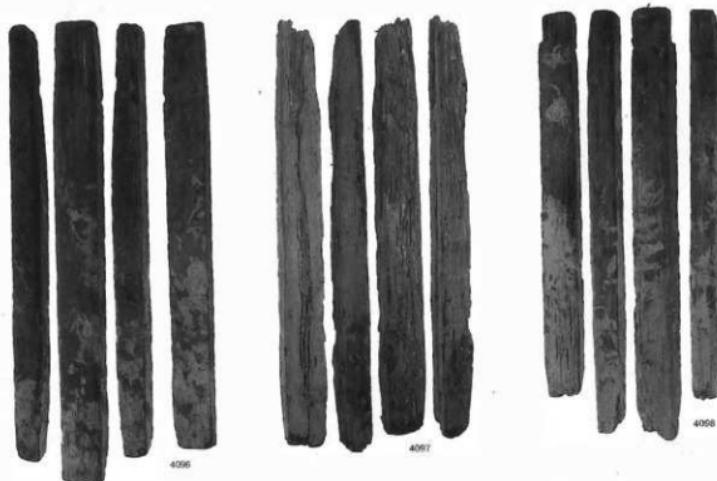
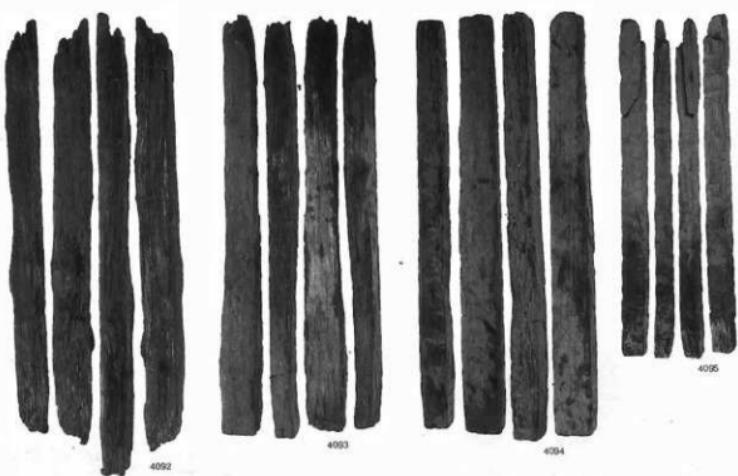
写真図版35 木製品⑥ (4050~4061) S=約1/3



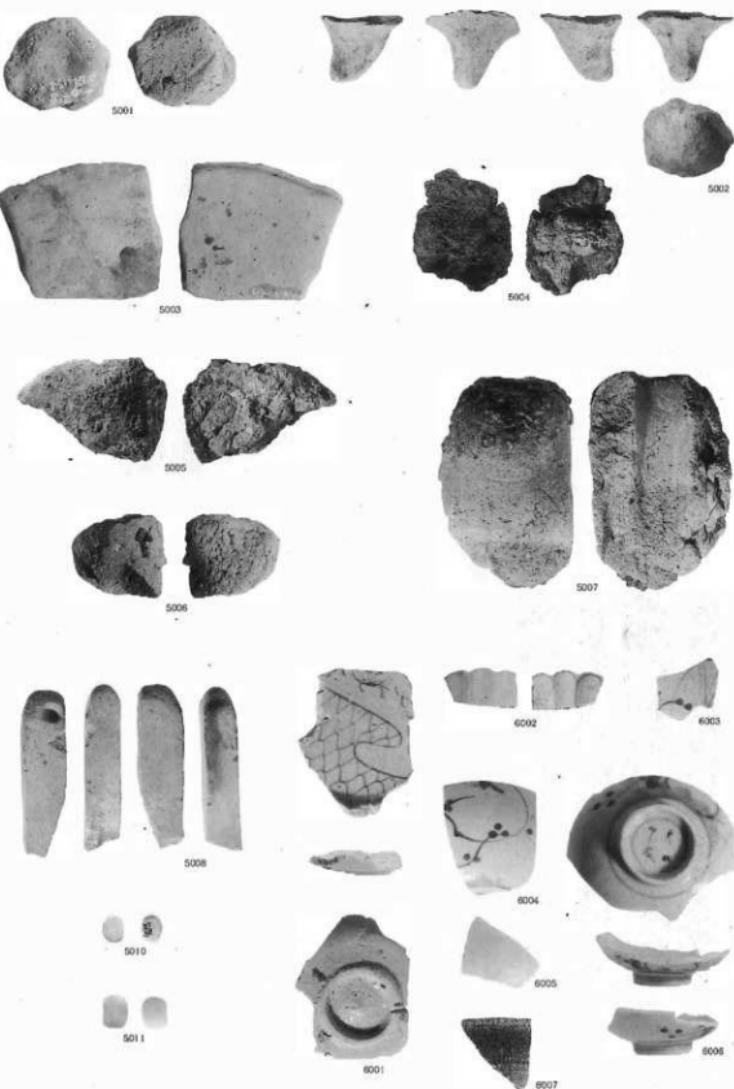
写真図版36 木製品⑦ (4062~4073) S=約1/3



写真図版37 木製品⑧ (4074~4091) S=約1/3



写真図版38 木製品⑨ (4092~4098) S=約1/12



写真図版39 土製品、石製品、近世陶磁器(5001~5011、6001~6007) S=約2/5



5013



5012



5009

写真図版40 金属製品(5013、5012、5009) 5009と5012はS-1/1

報告書抄録

| | | | | | | | |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------|------------------------|
| ふりがな | ひらいすみいせきぐん やなぎのこしょいせき | | | | | | |
| 書名 | 平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡 | | | | | | |
| 副書名 | 第50次発掘調査概報 | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 岩手県文化財調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第107集 | | | | | | |
| 編著者名 | 斎藤邦雄 羽柴直人 | | | | | | |
| 編集機関 | 岩手県教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 岩手県盛岡市内丸10-1 | | | | | | |
| 発行年月日 | 2000年3月31日 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コ一ド 市町村 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| やなぎのこしょいせき 柳之御所遺跡 | いわてけんにし 岩手県西 いよいよんじら 磐井郡平 いわきうらひ 泉町平泉 いわきやまと 字柳之御 のじょ 所126-34 ほか | 03402 | 38度 59分 28秒 | 141度 7分 35秒 | 第50次 19990513 19991031 | 1,800 | 史跡整備にむ けた内容確認 調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 柳之御所遺跡 | 奥州藤原氏に関連する居館跡 | 12世紀 | 掘立柱建物跡 12棟 痕跡等 13基 溝跡 1条 土坑 3基 井戸状遺構 3基 土器集中区 1基 | かわらけ 国産陶器（涅美・常滑他） 中国産陶磁器 金属製品（提子の金具・銅印） 各種木製品（櫛・下駄・物差し・糸巻他） | ・漆布に覆われた白磁四耳壺 ・「磐前村印」と刻印された銅印 ・墨書き資料8点 | | |
| | | 近世以降 | 溝跡 9条 掘立柱建物跡 7棟 | | | | |
| | | 時期不詳 | 掘立柱建物跡 9棟以上 柱列 8条 | | | | |

岩手県文化財調査報告書 第107集
平泉遺跡群発掘調査報告書

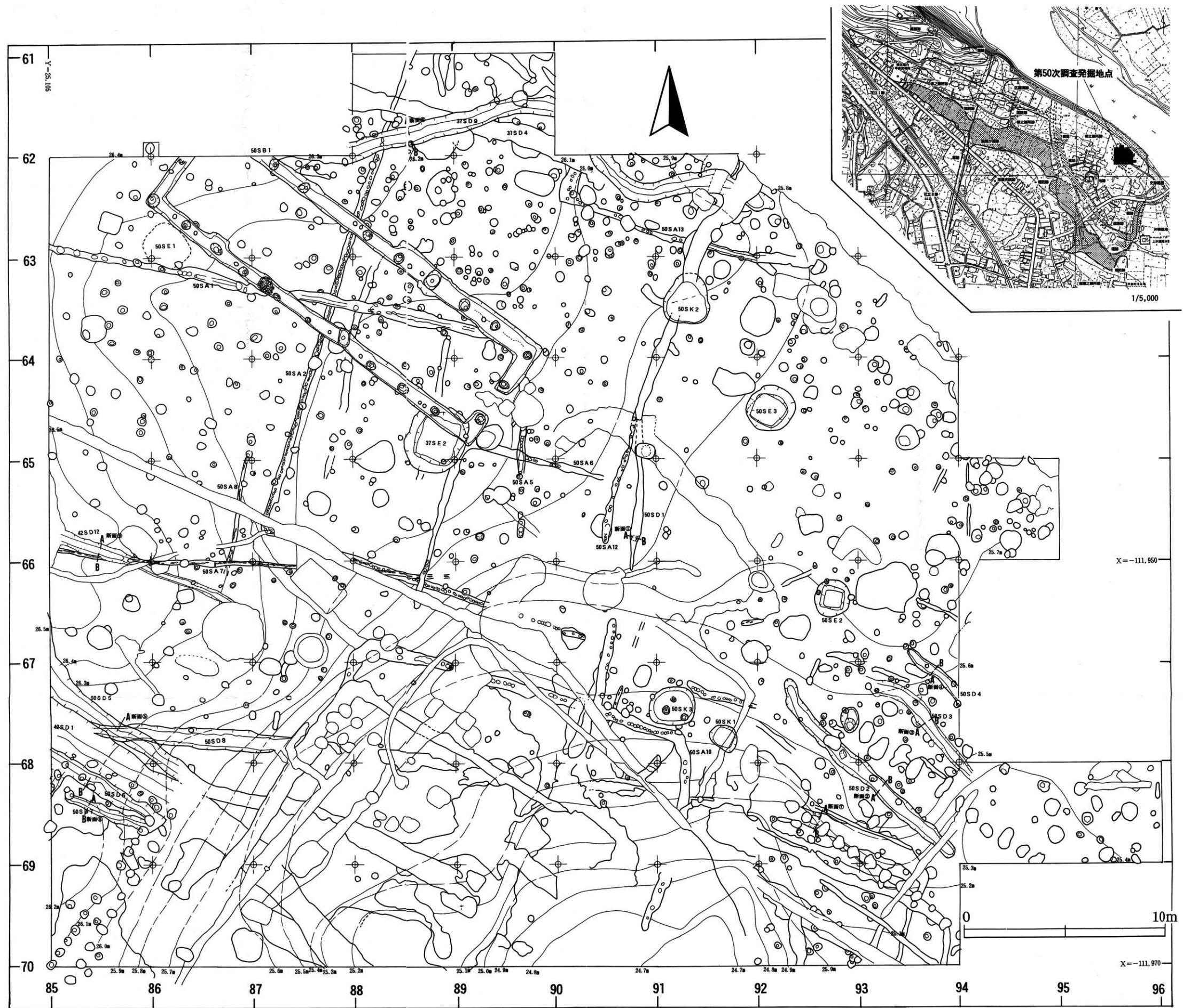
柳之御所遺跡

—第50次発掘調査概報—

平成12年3月31日発行

発 行 岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10-1
編 集 岩手県教育委員会事務局文化課
印 刷 杜陵高速印刷株式会社
盛岡市川日町23-2





柳之御所遺跡第50次調査遺構配置図